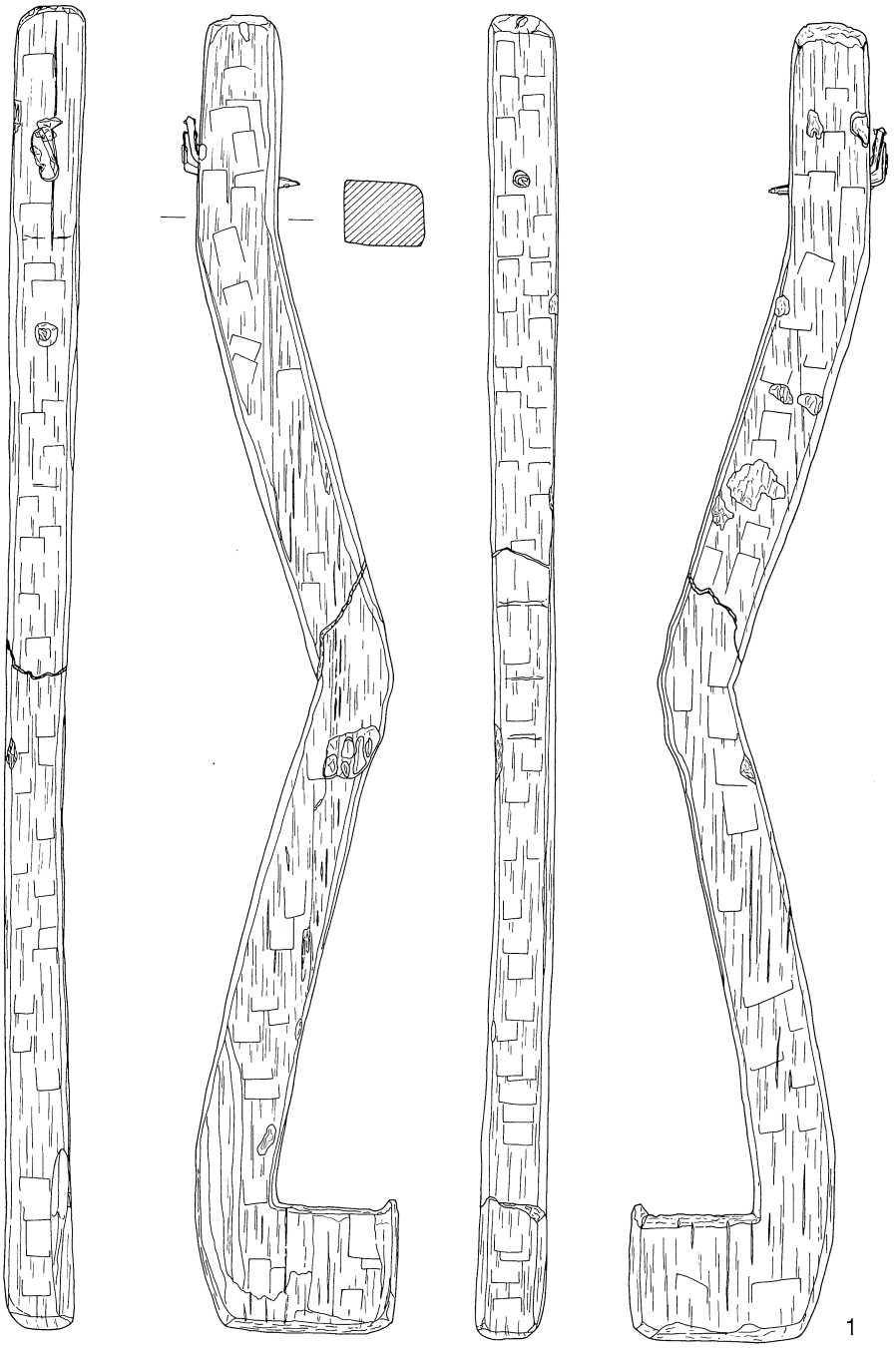
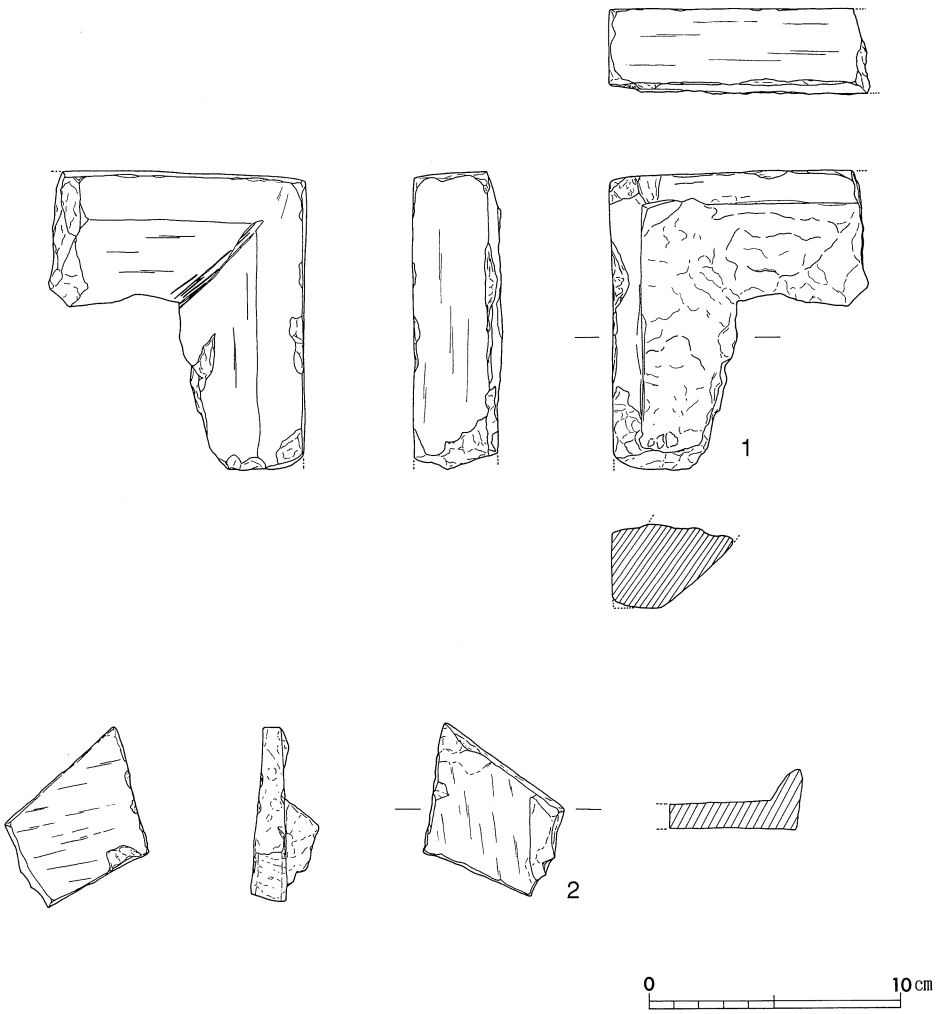
ら外反した後下方に折りかえる。4は内外面ともに回転ナデを施し、天井部は回転ヘラにより平坦面を作るが、中心部がやや低くなっている。口縁部は平坦な天井部から若干外反し、下方外側に折りかえる。5は内外面ともに回転ナデ調整であるが、内面見込はナデ、底部は回転ヘラ切り後ナデを施す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。6は内外面ともに回転ナデで、底部は回転糸切後、高台を付ける。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。7、8は瓶類である。7は口縁部にナデ調整、頸部に2条の沈線を入れてミガキを施す。口縁部の立ち上がりは、やや細くなりながら立ち上がった後再び広がり、外側に屈曲して受皿状となる。8は口縁部内外面と頸部外面にナデ調整を施し、頸部内面にはナデを施す。立ち上がりは上方に直線的に立ち上がった後外反するが、口縁部内面に尖り気味のかえりを施している。9は鉄鉢形須恵器で、内外面ともに回転ナデ調整を施すが、体部外面には2段にわたり数条の沈線を施し、底部内面には指頭圧痕とナデを施す。口縁部は内湾しながら立ち上がった後内傾する。10は高坏で、内外面ともに回転ナデを施す。脚は貼付で、口縁部は内湾気味に立ち上がる。11は布目瓦で、表面に布目、裏面にナデを施す。11は鉄製品で、断面は長方形を呈し中央部が最も太く両端は細くなる。一端は尖らせている。外面にはカルシウム質が付着する。12は笄で一端に耳かきを施し、二股に分かれて反対側で尖り気味に仕上げている。



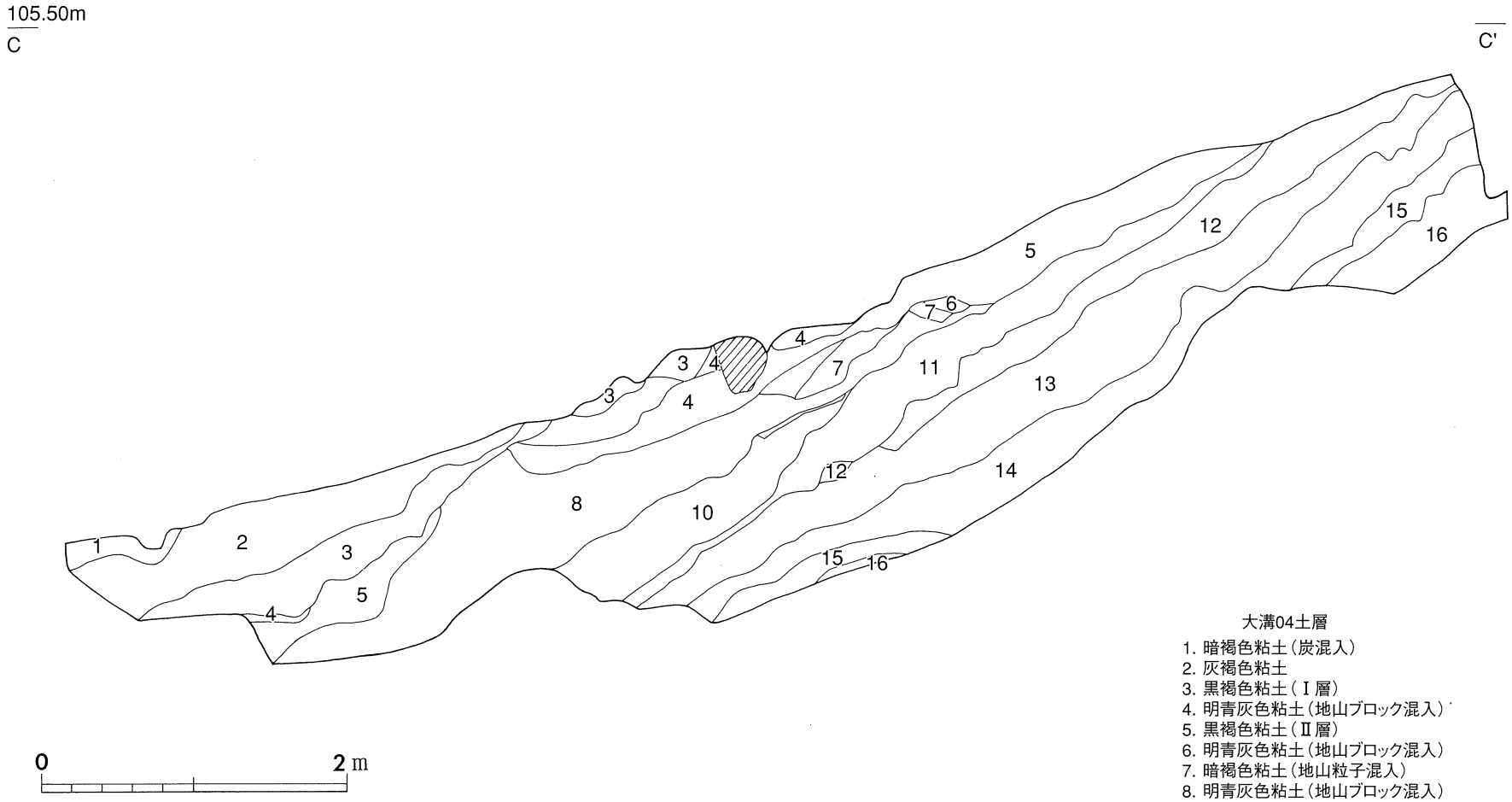

第37図　大溝03出土遺物（4）




第38図　大溝03出土遺物（5）

第37図1は用途不明の木製品で、鋸歯状に加工する。一端は鍵状に屈曲し、もう一端は外側に伸び角釘を配する。

第38図1は宝篋印塔の一部で、残存部は方形状を呈すと考えられ、上部は平坦な段を作り上へ伸び、下部は平坦面から内側に直線的に立ち上がる。2は砥石で、2面を砥面として使用する。片面に三角状の立ち上がりがあるので、何かの再利用である可能性もある。




大溝04土層

1. 暗褐色粘土（炭混入）
2. 灰褐色粘土
3. 黒褐色粘土（Ⅰ層）
4. 明青灰色粘土（地山ブロック混入）
5. 黒褐色粘土（Ⅱ層）
6. 明青灰色粘土（地山ブロック混入）
7. 暗褐色粘土（地山粒子混入）
8. 明青灰色粘土（地山ブロック混入）
9. 黒褐色粘土（地山ブロック混入）
10. 明青灰色粘土（地山ブロック混入）
11. 黒褐色粘土（Ⅲ層）
12. 灰褐色粘土（地山ブロック多量に混入）
13. 黒褐色粘土（Ⅳ層）
14. 褐灰色粘土（地山ブロック混入）
15. 黒褐色粘土（Ⅴ層）
16. 褐灰色粘土

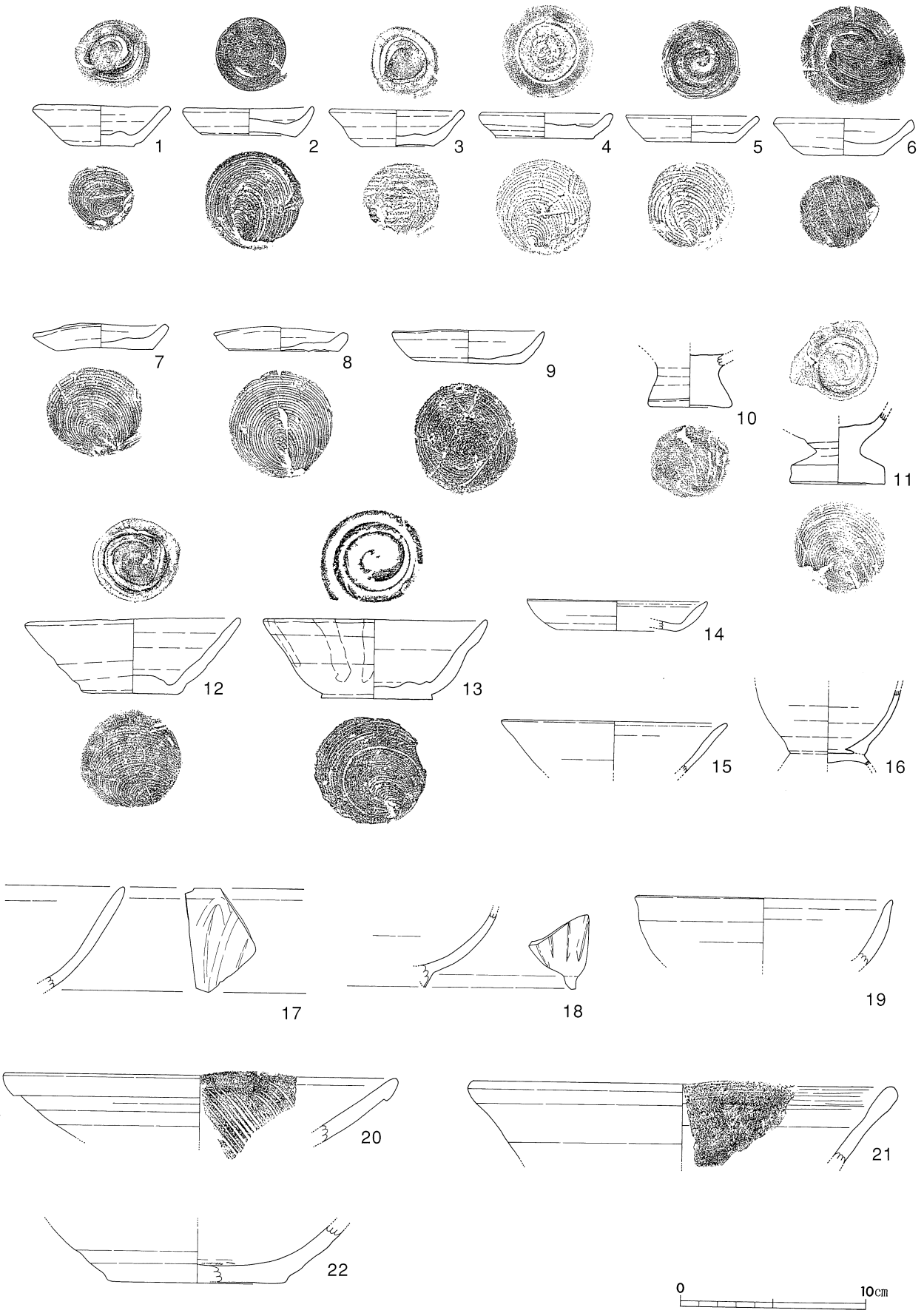
第39図　大溝04土層断面図

大溝04（第39図）

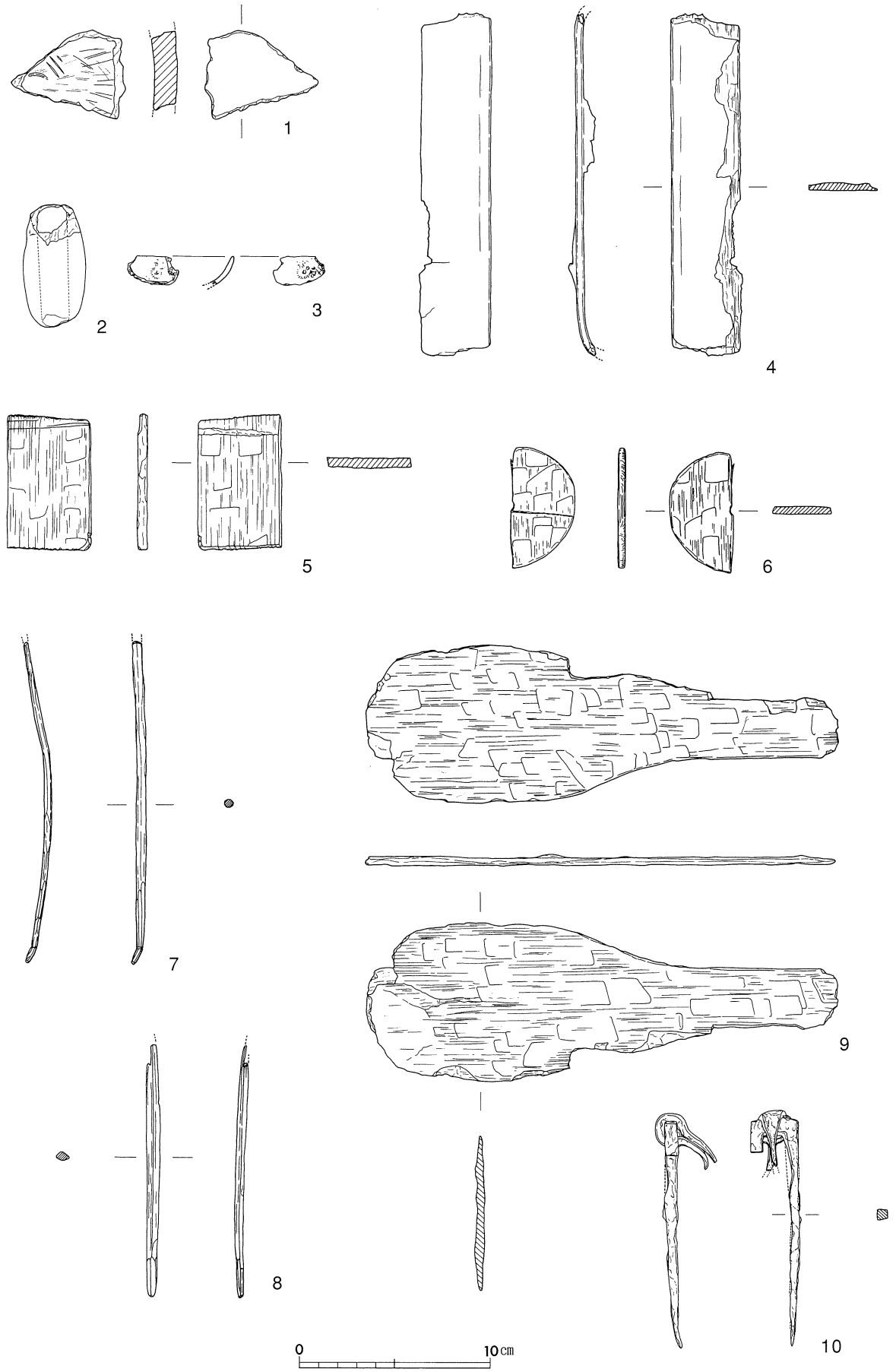
縦長18m以上、横幅7.0m以上、深さ1.8m以上で、黒褐色粘土層と青灰色粘土（地山ブロック混入）層が版築状互層をなす。遺物は土師質土器、白磁、青磁、中国陶器、備前、瀬戸、東播系須恵器、瓦質土器、漆器、古銭、銅製品、鉄製品、木製品、骨鏃、魚骨、籾殻などが出土し、時期は13～15世紀を中心としているが、これらの遺物は各層で混在しており、溝は15世紀頃短期間に埋没したものと考えられる。草戸千軒町遺跡で類似例が見られるが、意図的な土地造成と考えられ、大溝04の北側に切土造成された平坦地を溝を盛土造成することで広げている。壁面の立ち上がりは西側で外方に直線的に立ち上がる。

大溝04黒褐色粘土（Ⅰ層）出土遺物（第40～42図）

第40図1～13は土師質土器である。1～9は小皿で、1、2、5は内外面ともに回転ナデであるが、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、底部に回転糸切を施す。1は底径口径比が1対2のタイプで、口縁部は内湾気味に立ち上がった後外反する。端部は丸みを帯びる。2は内湾しながら立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げる。5は外方に直線的に立ち上がり外傾する。端部は平坦面を作るが、内側がやや突出している。3、6は内外面ともに回転ナデを施すが、内面見込は渦巻状の回転ナデを施し、ナデ消している。底部には回転糸切痕の後板目が残る。3は内湾気味に立ち上がった後、外方に直線的に伸びる。端部は肥厚し平坦面を作る。6は灯明皿で、タールが少量付着する。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部は肥厚して平坦面を作る。内側が尖り気味に突出している。4は内外面ともに回転ナデ調整であるが、内面見込に同心円状の粗い回転ナデを残す。底部には回転糸切痕が残る。立ち上がりは内湾気味で、口縁部でやや外反する。7、8は内外面ともに回転ナデ調整で、内面見込中央に凹みが見られる。底部に回転糸切を施す。7は口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を平坦に仕上げる。8は口縁部と比べ底部が薄いタイプである。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。9も内外面回転ナデ調整で、内面見込中央に凹みが見られるが、この部分は風化が激しく調整不明である。底部は回転糸切痕を残す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げる。10、11は柱状高台である。10は頸部が太く裾が広がっていくタイプで、外面に回転ナデ調整、底部に回転糸切痕を残す。内面は風化が激しいが、ナデ調整の可能性がある。11は頸部が細く裾が大きく広がっていくタイプで、外面に回転ナデ、ナデを施し、内面は渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕の後板目が残る。12、13は坏で、内外面ともに回転ナデ調整、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、底部に回転糸切を施す。12は口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部に平坦面を作る。底部をかなり肥厚させている。13は外面に多量のタールが付着しており、灯明具として使用されたと考えられる。底部は高台のようにやや高く、口縁部は内湾した後、外方に直線的に伸びる。端部は尖り気味に仕上げられている。14、15は口禿の白磁で、14世紀頃の遺物である。14は小皿で、底部と口縁部の界線が内面で明確にされている。口縁部は外方に直線的に伸び、中程が最も肥厚している。端部は尖り気味に仕上げている。15は内湾気味に伸びた後外傾する。口縁端部は平坦面を作る。16は器種不明の青白磁で、器壁は薄く体部と底部は接合されている。内外面は施釉され底部に露胎を作る。立ち上がりは内湾する。17、18は龍泉窯系青磁碗である。17は龍泉窯系青磁Ⅰ－5b類の遺物で、外面に鎬蓮弁文を残す。口縁部は内湾した後、外方に直線的に伸びる。端部は尖り気味に仕



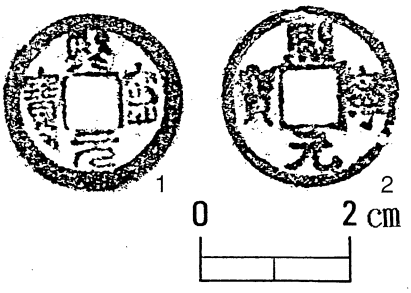

第40図　大溝04黒褐色粘土Ⅰ層出土遺物（1）



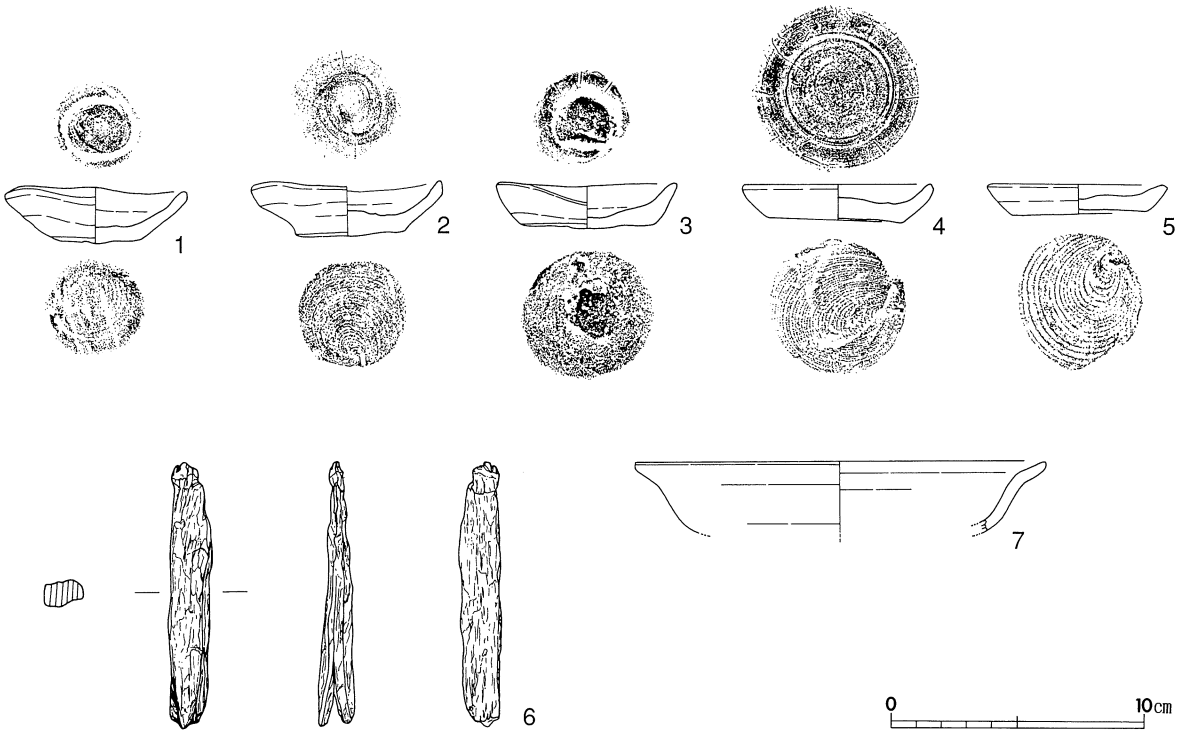

第41図　大溝04黒褐色粘土Ⅰ層出土遺物（2）

上げている。13世紀末から14世紀中頃の遺物と考えられる。18は外面に蓮弁文を施すが、やや形骸化している。高台畳付は露胎で、口縁部の立ち上がりは内湾する。19は瀬戸の天目茶碗で胎土は粗い。口縁部は内湾しながら立ち上がった後外反する。端部は尖り気味に仕上げている。20～22は在地の瓦質土器である。21、22は擂鉢で、21は口縁部をナデ、外面を粗いナデで調整し、内面に放射状の擂目を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり外面に折りかえす。端部は尖り気味に仕上げている。22は内外面をナデ調整し、口縁部内側に5本／cmの沈線を施す。口縁部の立ち上がりは外方に直線的で、端部は肥厚し丸く仕上げている。23は底部で、内外面をナデ調整し、内面底部にハケ目を施す。外面底部は風化のため調整不明である。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。

第41図1は石鍋で、内面を滑らかに加工している。内面に3条の傷が残る。2は土錘で、筒状に成形し内外面にナデを施す。3は漆器椀で、内外面に草花を描く。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。4は内外面漆塗で、両端が大きく曲げられている。重箱などの側板と考えられる。5～9は木製品である。5は一端に接合用の切り込みが入れられ、反対側に孔が穿たれている。曲物の側板接合部と考えられる。6は円状を呈し、中央に孔が穿たれていたと推定される。用途は不明である。7、8は木箸でともに一部欠損しているが、表面を面取りした後、端部を細く加工している。9は杓子状木製品で、持手から杓子に至るまでがなで肩のしゃもじ形に加工している。出



第42図　大溝04黒褐色粘土Ⅰ層出土古銭



第43図　大溝04明青灰色粘土（地山ブロック混入）（黒褐色粘土Ⅰ層・Ⅱ層の間層）出土遺物

土付近から籾殻、魚骨、獣骨や木箸、多量の土師小皿が出土していることから、近辺で飲食が行われたと考えられ、この遺物もしゃもじなどの食膳具として使われた可能性が高い。10は海老錠と推定される鉄製品で、面を取り「匚」字状に加工しているが、一方は長く端部を尖らせ、もう一方は短く端部を平坦に仕上げている。「匚」中央部には、用途不明の鉄製部品が取り付けられている。

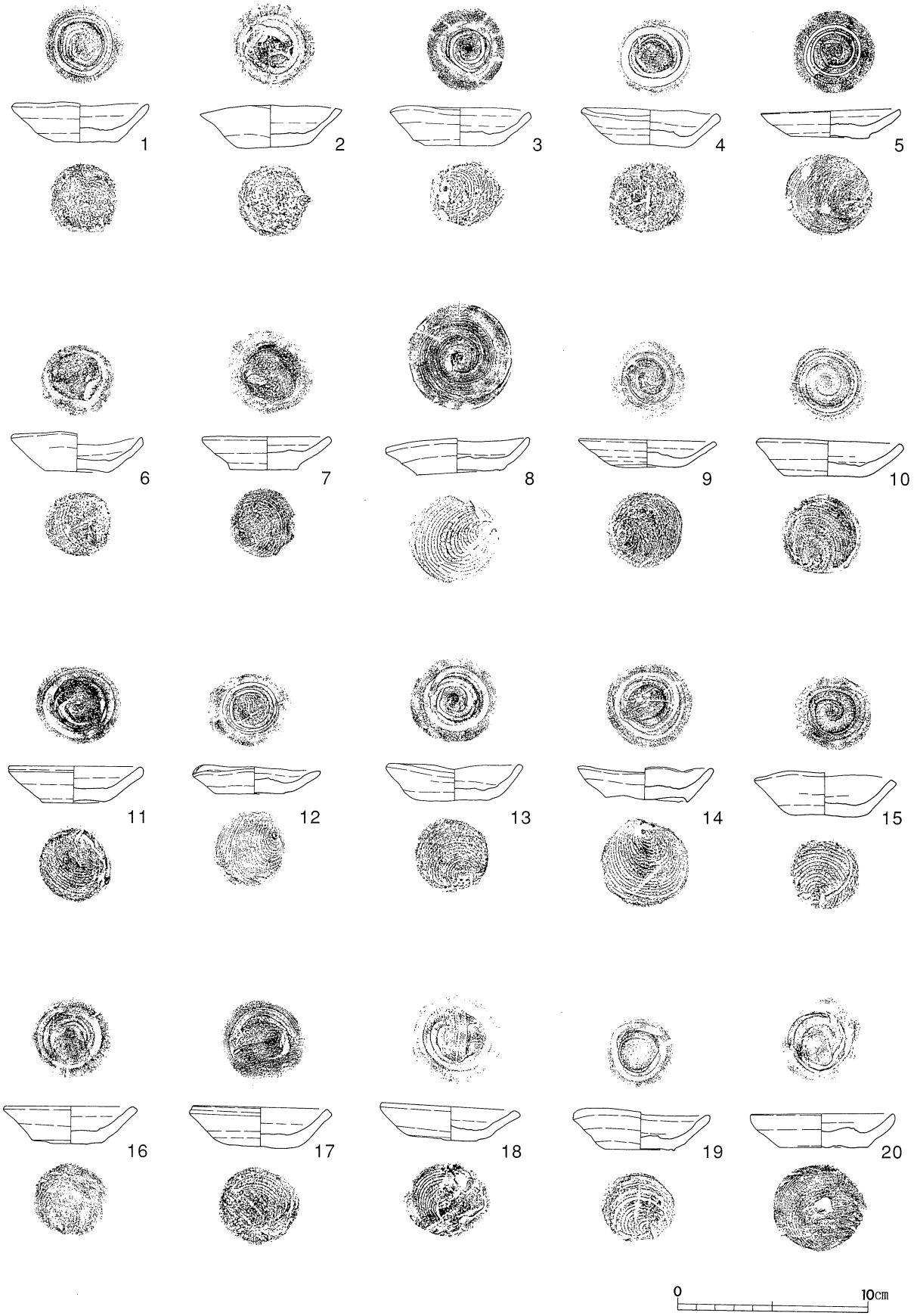
第42図1、2は熙寧元寶で、初鋳は1068年である。1は篆書体、2は真書体のものである。

### 大溝04明青灰色粘土（地山ブロック混入）（黒褐色粘土Ⅰ層・Ⅱ層の間層）出土遺物（第43図）

第43図1～5は土師小皿である。1は内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施す。底部には回転糸切痕の後板目を残す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、やや内側に屈曲して外方に伸びる。端部は丸く仕上げている。2、4は内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、底部に回転糸切痕を残す。2は口縁部は外反気味に立ち上がり内湾する。端部は尖り気味に仕上げている。4は内湾気味に立ち上がった後、端部を尖り気味に仕上げる。3は内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施す。底部には回転糸切痕が残る。口縁部は外方に直線的に伸び、端部を尖り気味に仕上げる。5は内外面ともに回転ナデ調整で、内面見込に凹みがある。底部には回転糸切痕が残る。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は外側を尖り気味にしている。6は木製品で、燃えさしである。表面に加工痕は見られず、一端は炭化している。7は瀬戸の折縁皿で、内外面ともに施釉している。口縁部は内湾した後、屈曲して外側に伸びる。端部は尖り気味に仕上げている。

### 大溝04黒褐色粘土Ⅱ層出土遺物（第44～48図）

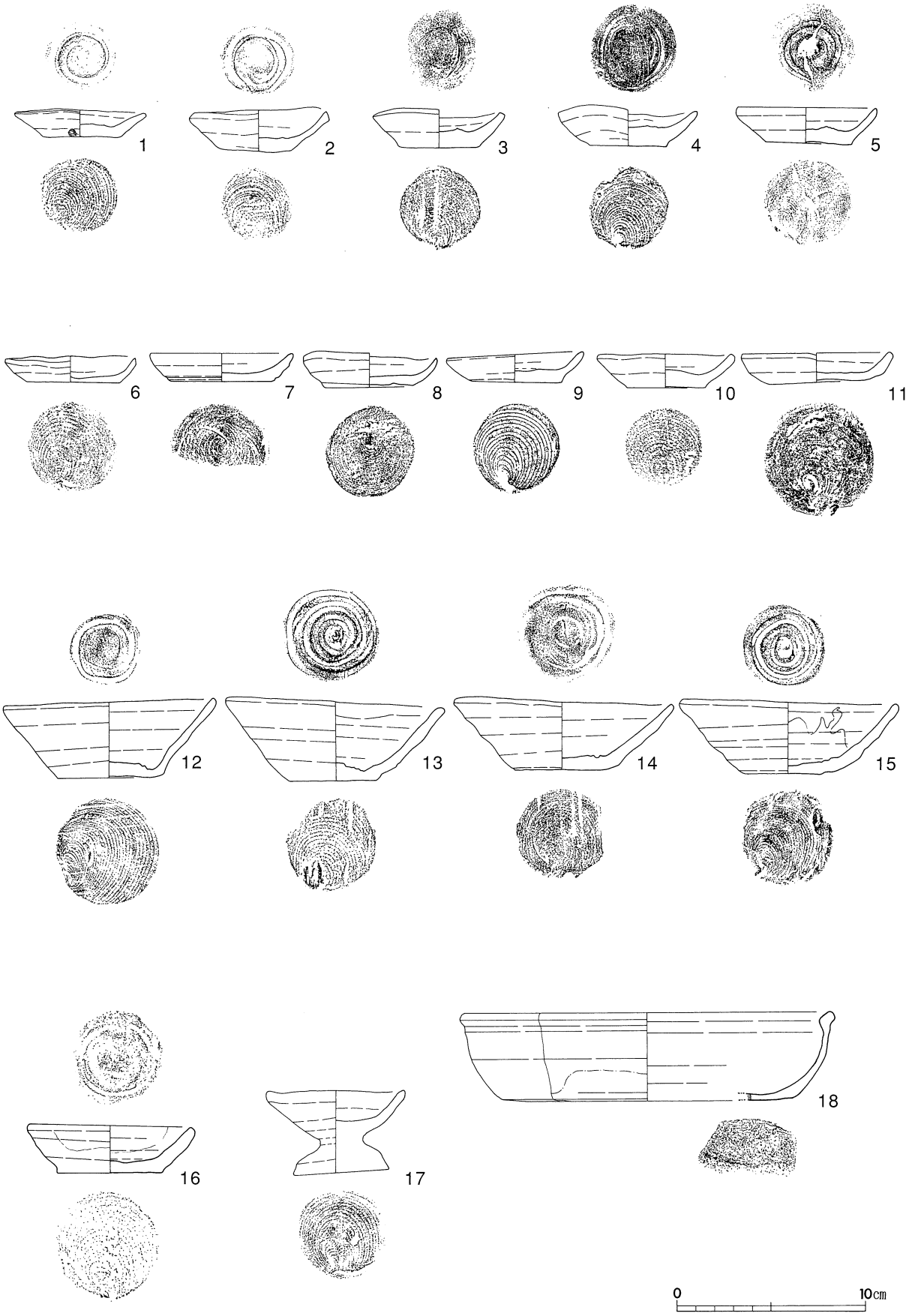
第44図1～20は全て土師小皿である。1、2は内外面ともに回転ナデ調整で、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部は風化のため不明瞭であるが、回転糸切を施していたと考えられる。1は内湾気味に立ち上がり、外方に直線的に伸びる。端部はやや肥厚し尖り気味に仕上げている。2は外反気味に立ち上がり、やや内側に屈曲して外方に伸びる。端部は肥厚し平坦面を作る。3、6、7は内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕が残るが、内面見込は渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施す。3は口縁部は外反気味に立ち上がり、やや内側に屈曲して外方に伸びる。端部は肥厚し平坦面を作るが、内側がやや尖り気味に仕上げられている。6は外方に直線的に伸び、端部に平坦面を作る。平坦面内側がやや尖り気味に仕上げられている。7は底部の厚いタイプで、底部と器壁の界線は明確である。口縁部は外反した後、やや内側に屈曲して外方に伸び、端部には平坦面を作る。4、19は内外面ともに回転ナデで調整するが、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施し、底部には回転糸切痕の後板目が残る。4は口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部には平坦面を作るが、内側がやや尖り気味に仕上げられている。19は内湾気味に立ち上がり、外方に直線的に伸びる。端部は肥厚しやや尖り気味に仕上げる。5、8～10、12、13、15、20は内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施し、底部に回転糸切痕を残す。5は口縁部はやや内湾気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げる。8は内湾気味に立ち上がり端部を平坦に仕上げる。9は外反気味に立ち上がり端部を平坦に仕上げる。10は内湾気味に立ち上がり端部はやや丸みを帯びる。12は内湾気味に立ち上がった後外傾する。端部は尖り気味に仕上げている。13はやや外反して底部との界線を明確にしている。外反の後内湾気味に伸び、端部は肥厚させて平坦気味に仕上げる。15は内湾気味に立ち上が



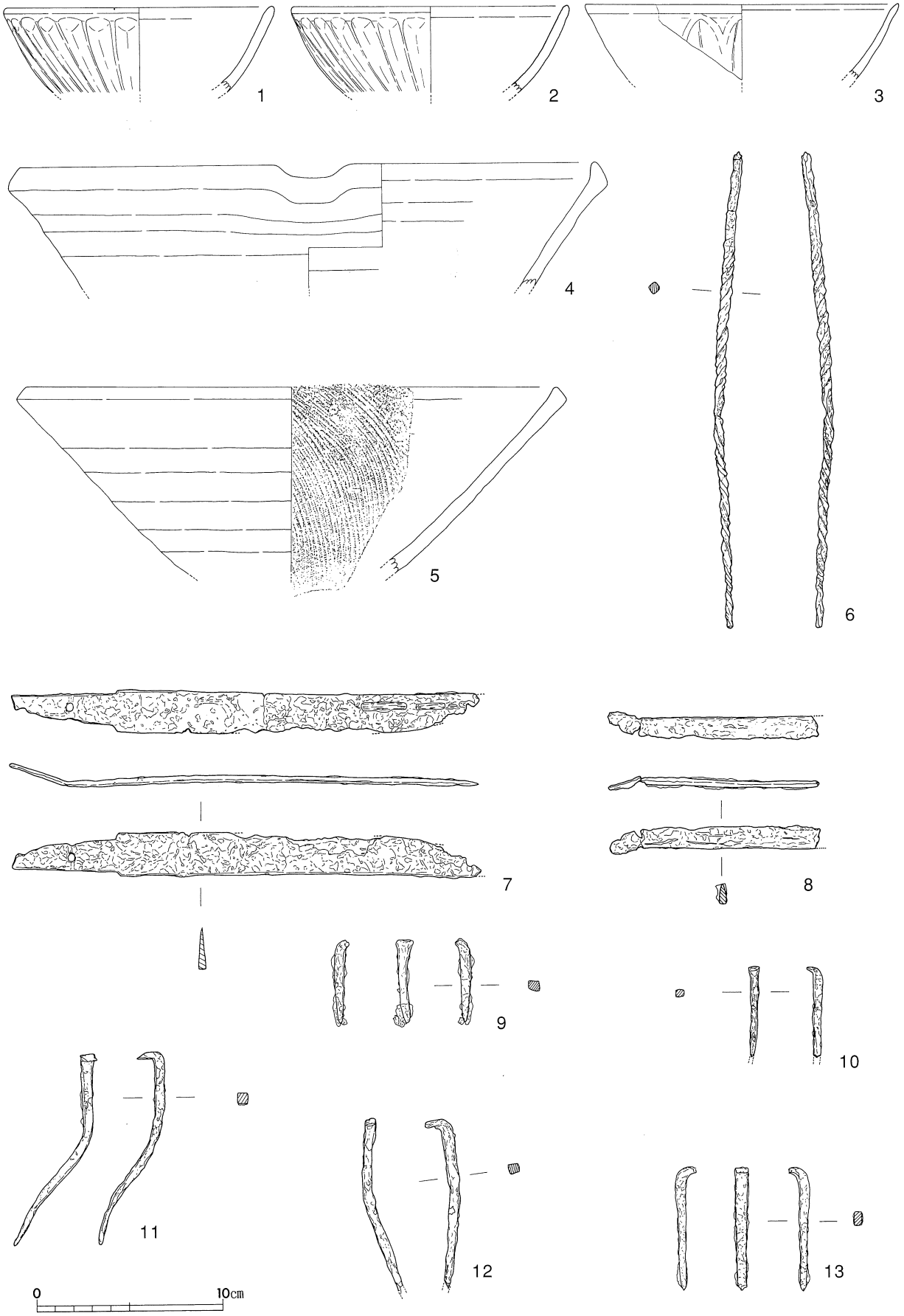

第44図　大溝04黒褐色粘土Ⅱ層出土遺物（1）

りやや外反する。端部には平坦面を作る。20は外反気味に立ち上がった後内湾する。端部は尖り気味に仕上げる。11、14、16～18は内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面見込は渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施し、底部には回転糸切痕の後板目が残る。11は外方に直線的に立ち上がった後、屈曲して外方に伸びる。端部は丸みを帯びるが、1条の沈線が残る。14は内湾気味に立ち上がった後やや外傾する。端部はやや肥厚し平坦気味に仕上げる。16は外方に直線的に伸び、端部を平坦に仕上げる。17も外方に直線的に伸びる。端部は肥厚し平坦面を作るが、平坦面に1条の沈線が施されている。18は内湾しながら立ち上がった後外傾する。端部は丸みを帯びている。

第45図1～17は土師質土器である。1～11は小皿で、1は内外面ともに回転ナデを施し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕が残る。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げられている。2、4は内外面ともに回転ナデ調整で、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施した後ナデている。2は外反気味に立ち上がった後、内側に屈曲して外方に伸びる。口縁端部は肥厚し平坦面を作るが、内側がやや尖り気味に仕上げられている。4は底部の厚いタイプで、底部と器壁の界線は明確である。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げる。3は灯明皿で口縁部にタールが付着している。底部の厚いタイプで、内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面見込は渦巻状の粗い回転ナデを施した後ナデている。底部は回転糸切痕の後に板目が残る。口縁部は外反気味に立ち上がった後、内湾気味に立ち上がる。端部は平坦に仕上げている。5は内外面ともに回転ナデを施し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕の後板目が残る。.口縁部は外反気味に立ち上がった後、やや内側に屈曲して外方に伸びる。端部は尖り気味に仕上げられている。6～9、11は内外面ともに回転ナデで、底部に回転糸切痕を残す。6は底部、器壁ともに薄手のタイプで、口縁部は外方に直線的に立ち上がった後、やや内側に屈曲して外方に伸びる。端部は尖り気味に仕上げられている。7は器壁下部に1条の沈線を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。8は灯明皿で、内外面にタールが付着する。底部と器壁の界線を明確にし、口縁部は内湾しながら立ち上がる。端部は尖り気味に仕上げられている。9は外反気味に立ち上がり、外方に直線的に伸びる。端部は尖り気味に仕上げられている。11は外方に直線的に立ち上がり、器壁中央付近で最も肥厚する。端部は平坦面を作っている。10は内外面ともに回転ナデ調整であるが、内面見込は風化のため調整不明である。底部には回転糸切痕が残るが、板目を残している可能性がある。底部は中央部が最も肥厚し、口縁部は外反気味に立ち上がった後、内湾気味となる。端部は平坦に仕上げられている。12～15は坏である。12、13、15は内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕の後板目が残る。12は外反気味に立ち上がった後、外方に直線的に伸びる。口縁端部は尖り気味に仕上げられている。13は灯明具で、内面にタールが付着する。内湾気味に立ち上がった後、外方に直線的に伸びる。端部は丸く仕上げられている。15も灯明具で、内面に多量のタールが付着する。口縁部は内湾気味に立ち上がり、外方に直線的に伸びる。端部は丸く仕上げられている。14も灯明具で、タールが付着する。内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面見込は渦巻状の粗い回転ナデを施した後ナデている。底部には回転糸切痕が残る。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部をやや平坦に仕上げている。16は灯明具で、内外面にタールが付着する。内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面見込には渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部




第45図　大溝04黒褐色粘土Ⅱ層出土遺物（2）

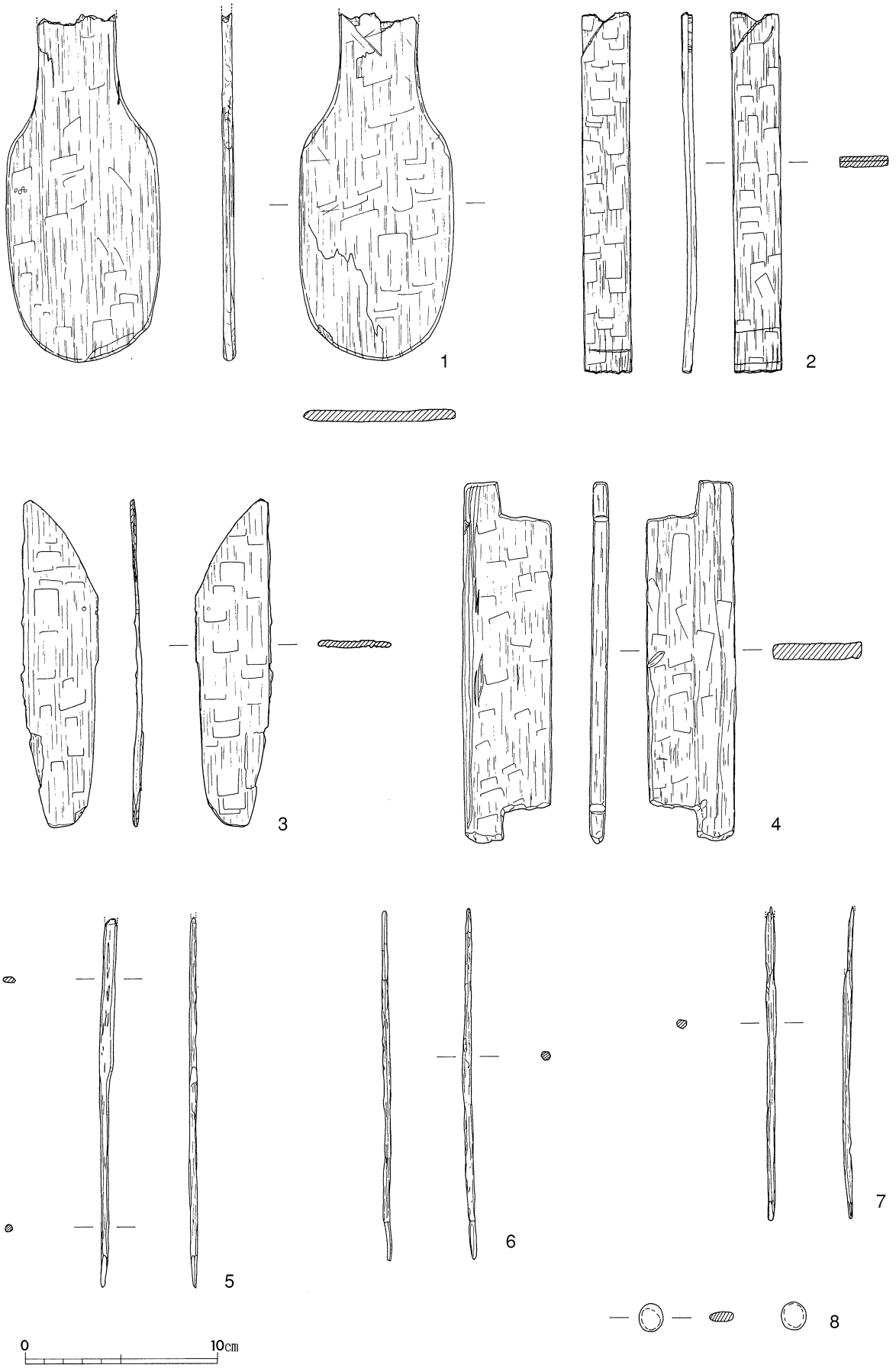



第46図　大溝04黒褐色粘土Ⅱ層出土遺物（3）

には回転糸切痕が残る。底部と器壁の界線は明確で、口縁部は外方に直線的に立ち上がる。端部は平坦面を作るが、やや丸みを帯びる。この法量のものは当遺跡からはこの1点のみである。17は柱状高台付坏で、内外面ともに回転ナデ調整し、底部に回転糸切を残す。高台は底径頚径比の大きいタイプで裾は広がる。口縁部は内湾気味に立ち上がった後、外方に直線的に伸びる。端部は尖り気味に仕上げられている。18は中国陶器盤で、体部外面は調整不明であるが、口縁部及び内面は回転ナデ調整を施し、底部にはヘラ削りを施している可能性がある。内面と口縁部から体部中央までの外面は施釉され、それ以外は露胎となっている。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部で外側に開いて断面方形状に肥厚する。断面に漆が付着しており、漆接をしていたものと考えられる。このタイプのものは県内では出雲国庁跡や古市遺跡から出土している。

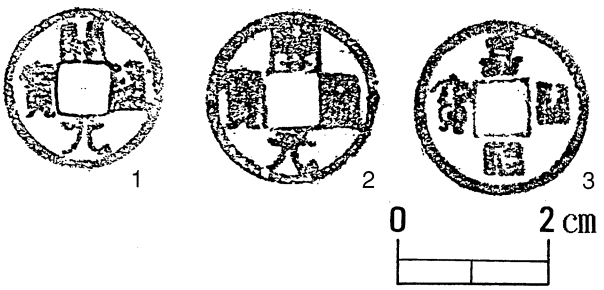
第46図1～3は龍泉窯系青磁碗である。1、2は龍泉窯系青磁Ⅲ類の遺物で、外面に蓮弁を施す。1、2ともに内湾した後、外方に直線的に伸びる。端部は丸く仕上げている。13世紀末から14世紀中頃の遺物である。3は龍泉窯系青磁Ⅰ－5b類の遺物で、外面に鎬蓮弁文を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がった後外傾する。端部は尖り気味に仕上げる。13世紀末から14世紀中頃の遺物である。4は東播系須恵器擂鉢である。内外面ともに回転ナデを施し、口縁部は外方に直線的に立ち上がり肥厚して内傾する。端部はやや丸みを帯びる。口縁部外面には暗褐色化した重ね焼きの痕跡が残る。5は在地の瓦質擂鉢で、外面に粗いナデ、内面及び口縁部にナデを施す。また内面には放射状の擂目が残る。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部はやや肥厚して平坦面を作る。端部内側がやや突出している。6～13は鉄製品である。6は火箸で、面を4面取りねじりを入れている。ねじりは中央部を境にねじれの向きが逆となり、端部はやや細く仕上げている。表面にカルシウム分が付着している可能性がある。7は刀子で、表面に木質が残る。柄部には穴を穿っている。8も刀子類と考えられる。片刃で、木質は付着していなかった。9～13は鉄釘である。9、10は小型の鉄釘で、9は叩部を肥厚させなだらかに曲げている。体部断面は方形を呈する。10はやや細身のタイプで、叩部をやや肥厚させ屈曲気味に曲げて、端部を尖り気味にしている。体部断面は方形を呈する。11、12は大型の鉄釘で、叩部が極度に肥厚することはなく、L字形に曲げ先端部を尖り気味にしている。体部断面は方形を呈する。13は中型の鉄釘で、叩部の曲がりはなだらかに90度曲がる。端部は平坦面を作る。

第47図1～7は木製品である。1は杓子状木製品で、第41図9と比較して持手から杓子に至るまでの肩部が明確である。しゃもじなどの食膳具として使用されたと考えられる。2は文杖状の木製品で、札状の板を奥深くまでスライスし、それぞれ逆方向に弧を描くように加工している。3は楕円形を呈する折敷の底板と考えられ、側板と接合する個所は弧を描くように加工され、接合用の穿孔が残る。4は側板と考えられる遺物で、両端に接合用のホゾを作る。また片面には両端を結ぶ溝を作り出している。5は串で、一方を尖らせ、他方は持手用に太く加工している。持手と串部の境界は明確で、片側側面を抉るように削り取り、串部につなげている。6、7は箸で、6は全面に面を作った後、両端を加工して細くしている。7も全面に面を施した後、端部を細く加工するが、6よりも端部の加工面が少ない。8は1点のみの出土なので断定できないが、碁石と考えられる遺物である。黒色で平面はいびつな楕円形を呈する。




第47図　大溝04黒褐色粘土Ⅱ層出土遺物（4）

第48図1、2は開元通寶である。1はやや小型のもので、銭文も小さい。2は1よりもやや大型のもので、銭文も大きい。背面には孕星を施している可能性がある。3は篆書体の嘉祐元寶で、初鋳は1056年である。



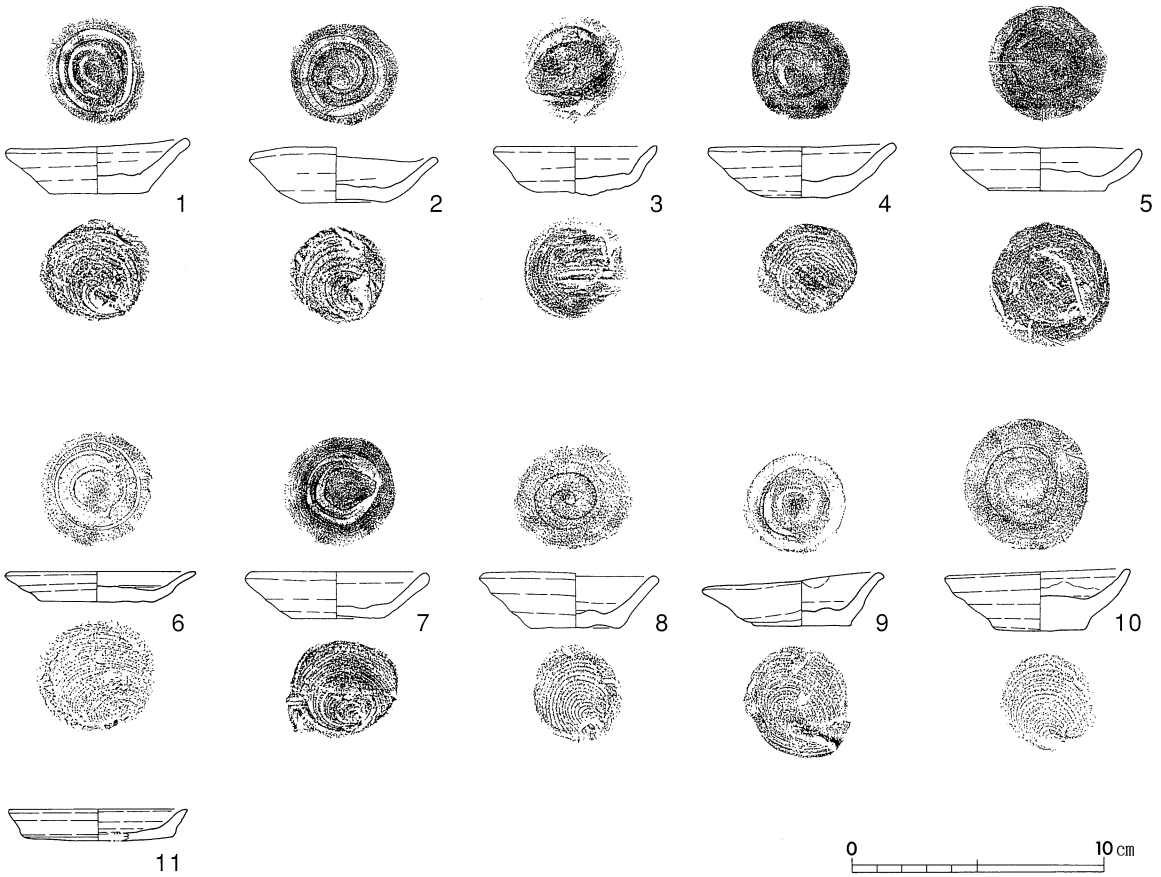

第48図　大溝04黒褐色粘土Ⅱ層出土古銭

**大溝04明青灰色粘土（地山ブロック混入）（黒褐色粘土Ⅱ層・Ⅲ層の間層）出土遺物（第49図）**

第49図1～12は土師質土器小皿である。1～3、5、7、8，10は内外面ともに回転ナデを施し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕が残る。1は内湾気味に立ち上がった後、内側にやや屈曲して外方に伸びる。端部は肥厚し丸みを帯びた平坦面を作る。2は外方に直線的に伸び、内側にやや屈曲して内湾する。端部はやや丸みを帯びる。3は外方に直線的に伸びた後、内側にやや屈曲して外方に伸びる。端部には平坦面を作

第49図　大溝04明青灰色粘土（地山ブロック混入）（黒褐色粘土Ⅱ層・Ⅲ層の間層）出土遺物

る。5は内湾気味に立ち上がり、端部内側を尖り気味に仕上げる。7は内湾気味に伸びた後外反気味に伸びる。端部は肥厚しやや丸みを帯びた平坦面を作るが、外側はやや尖り気味に仕上げている。8は内湾気味に立ち上がり外傾気味に伸びる。口縁部は肥厚し平坦面を作るが、外側が尖り気味に仕上げられている。10は灯明皿で、内面に少量のタールが付着する。口縁部は内湾気味に立ち上がった後、外方に直線的に伸びる。端部は丸みを帯びる。4は内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込は渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施す。底部には回転糸切痕の後板目が残る。口縁部は外反気味に立ち上がった後、内側に屈曲して外側に伸びる。端部は丸く仕上げる。6、11、12は内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕が残るが、内面見込は渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施す。6は口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部は平坦面を作るが、内側に尖り気味に仕上げる。11は灯明皿で、口縁部にタールが付着する。口縁部は内湾気味に立ち上がった後、屈曲して外側に直線的に伸びる。端部には平坦面を作るが、平坦面内側を尖り気味に仕上げる。12は口縁部は外反気味に立ち上がり、端部に平坦面を作るが、平坦面内側が尖り気味に仕上げられている。9は内外面ともに回転ナデで調整するが、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施し、底部には回転糸切痕の後板目が残る。口縁部は内湾気味に立ち上がりやや外傾する。端部は肥厚し平坦面を作るが、やや丸みを帯びる。13は鉄製品で、鉄釘と考えられるが、叩部を欠損している。断面は方形状を呈す。

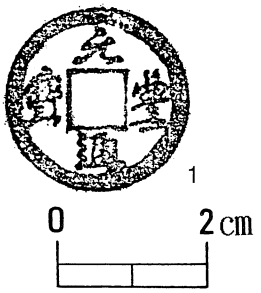



第50図　大溝04黒褐色粘土Ⅲ層出土遺物

### 大溝04黒褐色粘土Ⅲ層出土遺物（第50～51図）

第50図1～11は土師質土器小皿である。1、3、7は内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面見込は渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施し、底部には回転糸切痕の後板目が残る。1は外方に直線的に立ち上がり外傾する。端部は丸みを帯びる。3も外方に直線的に立ち上がり外傾する。端部は尖り気味に仕上げている。7は外方に直線的に立ち上がる。端部は肥厚し丸みを帯びる。2、5、6、8、10は内外面ともに回転ナデを施し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕が残る。2は灯明皿で、タールが付着する。口縁部は内湾気味に立ち上がった後外反気味となる。端部は丸みを帯びる。5は底部が厚いタイプで、底部と器壁の界線が明確である。口縁部は内湾気味に立ち上がり、器壁中段は肥厚する。端部は丸みを帯びる。6は器壁が薄手のタイプで、内湾気味に立ち上がり外反する。端部は尖り気味に仕上げる。8は外反気味に立ち上がる。端部は丸く仕上げている。10は灯明皿で、内外面にタールが付着する。底部が極端に肥厚するタイプで、底部と器壁の界線は明確である。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は平坦に仕上げている。4は内外面ともに回転ナデで調整するが、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施し、底部には回転糸切痕の後板目が残る。口縁部は内湾気味に立ち上がった後外傾する。端部は丸く仕上げている。9は灯明皿で、口縁部内面にタールが付着する。内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕が残るが、内面見込は渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施す。口縁部は内湾気味に立ち上がった後外反する。端部には平坦面を作るが、平坦面外側を尖り気味に仕上げている。11は底径口径比の小さいタイプで、内外面回転ナデ調整であるが、底部は風化のため調整不明である。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げる。

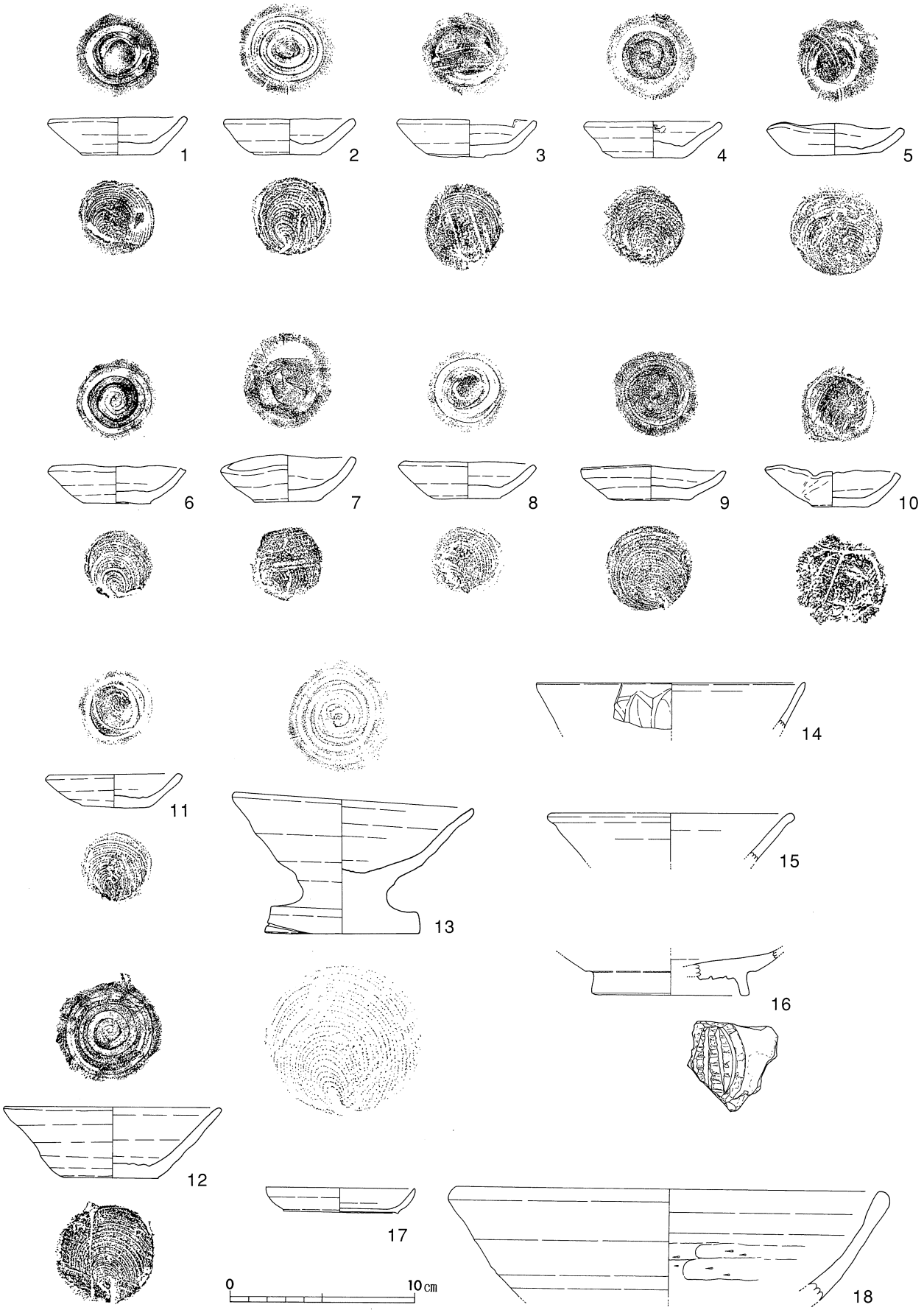
第51図1は行書体の元豊通寶で、初鋳は1078年である。



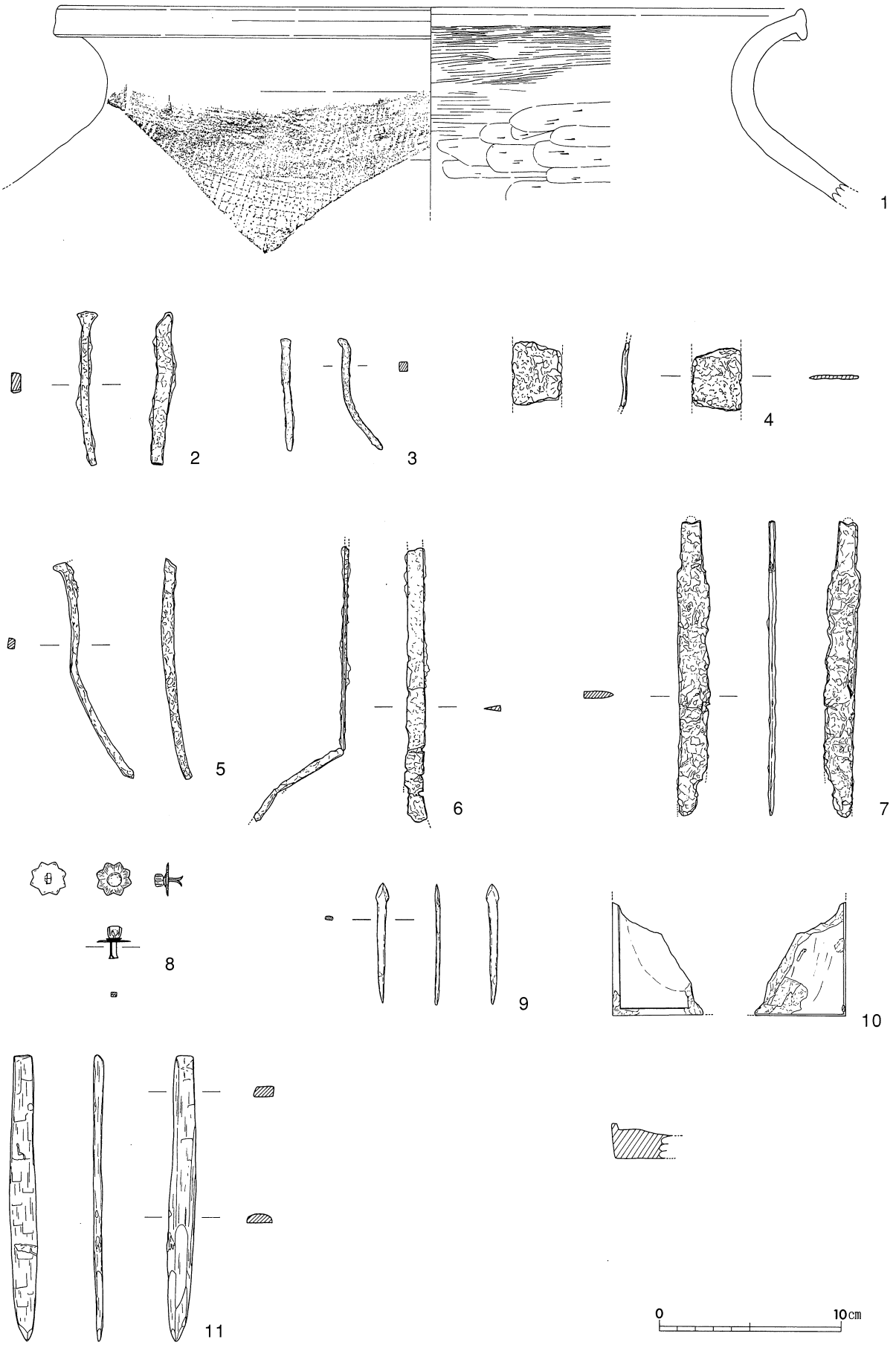

第51図　大溝04黒褐色粘土Ⅲ層出土古銭

### 大溝04黒褐色粘土（Ⅳ層）出土遺物（第52～54図）

第52図1～13は土師質土器である。1～11は小皿で、1、5、8、11は内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕が残るが、内面見込は渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施す。1は外方に直線的に立ち上がった後やや内側に屈曲して外側に伸びる。端部は平坦に仕上げている。5は底部の薄いタイプで、口縁部は内湾気味に立ち上がる。端部は2列の平坦面を作る。8は外方に直線的に立ち上がった後、内側にやや屈曲して外方に伸びる。端部には平坦面を作る。11は内湾気味に立ち上がり、端部を平坦に仕上げる。2、10は内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施す。底部には回転糸切痕が残り、さらに板目を残している可能性がある。2は底部と器壁の界線を明確にし、口縁部は内湾気味に立ち上がる。端部は内側を尖り気味に仕上げる。10も底部と器壁の界線を明確にし、口縁部は内湾気味に立ち上がった後内側にやや屈曲して外方に伸びる。端部は平坦面を作るが、内側が尖り気味に仕上げられている。3、7は内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面見込は渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施し、底部には回転糸切痕の後板目が残る。3は内湾気味に立ち上がった後外傾する。端部は2列の平坦面を作る。口縁部に1か所段ができている。7は底部をやや高くし、内湾気味に立ち上がる。端部は丸みを帯びる。4、6、9は内外面ともに回転ナデを施し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施す。底




第52図　大溝04黒褐色粘土Ⅳ層出土遺物（1）




第53図　大溝04黒褐色粘土Ⅳ層出土遺物（2）

部には回転糸切痕が残る。4は灯明皿で、口縁部内面にタールが付着する。口縁部の立ち上がりは内湾気味に立ち上がり、外反して再び外反気味に立ち上がる。端部には平坦面を作る。6は内湾しながら立ち上がり、端部を平坦に仕上げる。平坦面には1条の沈線が施されている。9は外反気味に立ち上がり、やや内側に屈曲して外方に伸びる。端部は尖り気味に仕上げている。12は坏で、内外面ともに回転ナデを施し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕を残す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部は平坦気味に仕上げる。13は柱状高台付坏で、内外面ともに回転ナデを施し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕の後板目を残す。高台は頸部から大きく裾を広げた後やや外方に伸びる。口縁部は内湾気味に立ち上がった後外反気味に伸びる。端部は尖り気味に仕上げている。14、15は龍泉窯系青磁碗である。14は龍泉窯系青磁碗1－5bの遺物で、外面に鎬蓮弁文を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。13世紀末～14世紀中頃の遺物と考えられる。15は無文の青磁碗で、口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部は外傾し平坦面を作り上げている。15世紀頃の遺物と考えられる。16は瀬戸の底卸目皿で、内外面ともに施釉し、高台見込を露胎として卸目を施している。15世紀頃の遺物と考えられる。17は漆器小皿で、小型の高台を付けている。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。18は在地の擂鉢で、内外面に回転ナデ調整を施し、内面体部中段から下にヘラ削りを施している。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部は肥厚して丸く仕上げている。

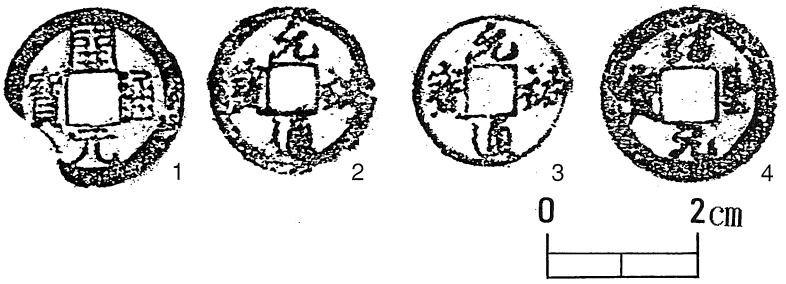
第53図1は瓷器系甕で、口縁部及び外面口縁部から頸部にかけてナデを施し、頸部下にハケ目、体部に格子タタキを施す。内面は口縁部下から頸部にかけてハケ目を施し、体部にはヘラ削りを施す。口縁部は外反しながら立ち上がり、端部を肥厚させて丸みを帯びたT字状に仕上げている。2～7は鉄製品である。2は一端をT字状に成形し薄くしている。反対側には平坦面が作られる。断面は長方形状を呈している。3、5は鉄釘である。3は小型のタイプのもので、叩部は端部を折り曲げて成形している。反対側は尖り気味に成形している。5は大型のタイプのもので、叩部は一部欠損しているが、T字形に成形していたものと推定される。端部は薄くなっている。反対側は尖り気味に成形している。4は本体の大部分を欠損しているが、鉄刀または刀子の刃の一部と考えられる。6は用途不明であるが、片側に刃を施している可能性がある。7は刀子である。片側に刃を施し、柄部には孔を穿っていたと考えられる。8は銅製蓮弁飾りで、文箱などの飾りと考えられる。8枚の蓮弁を施した銅板1枚、中央部1枚、頭部1個の部品を2本の接合部品で組み合わせて作り上げているが、頭部横側に孔を貫通させており、この孔に輪状部品などが付けられていた可能性がある。9は骨製刺突具で、一方は肥厚し鋭利に尖らせている。反対側は体部に比べ細く仕上げられている。10は石硯で、大部分は欠損しているが、陸は中央部に凹みが残る。立ち上がりはやや外方に直線的に立ち上がる。11はヘラ状の木製品で、全面に面を作るが、一端を加工して細くし鋭利に仕上げている。反対側は一部炭化している。

第54図1は開元通寶で、背面に文字・記号は残っていない。2、3は行書体の元祐通寶で、初鋳は1086年である。3は2に比べ縁取りが極端に薄い。4は行書体の紹聖元寶で、初鋳は1094年である。

**大溝04褐灰色粘土（黒褐色粘土Ⅳ層・Ⅴ層の間層）出土遺物（第55～56図）**

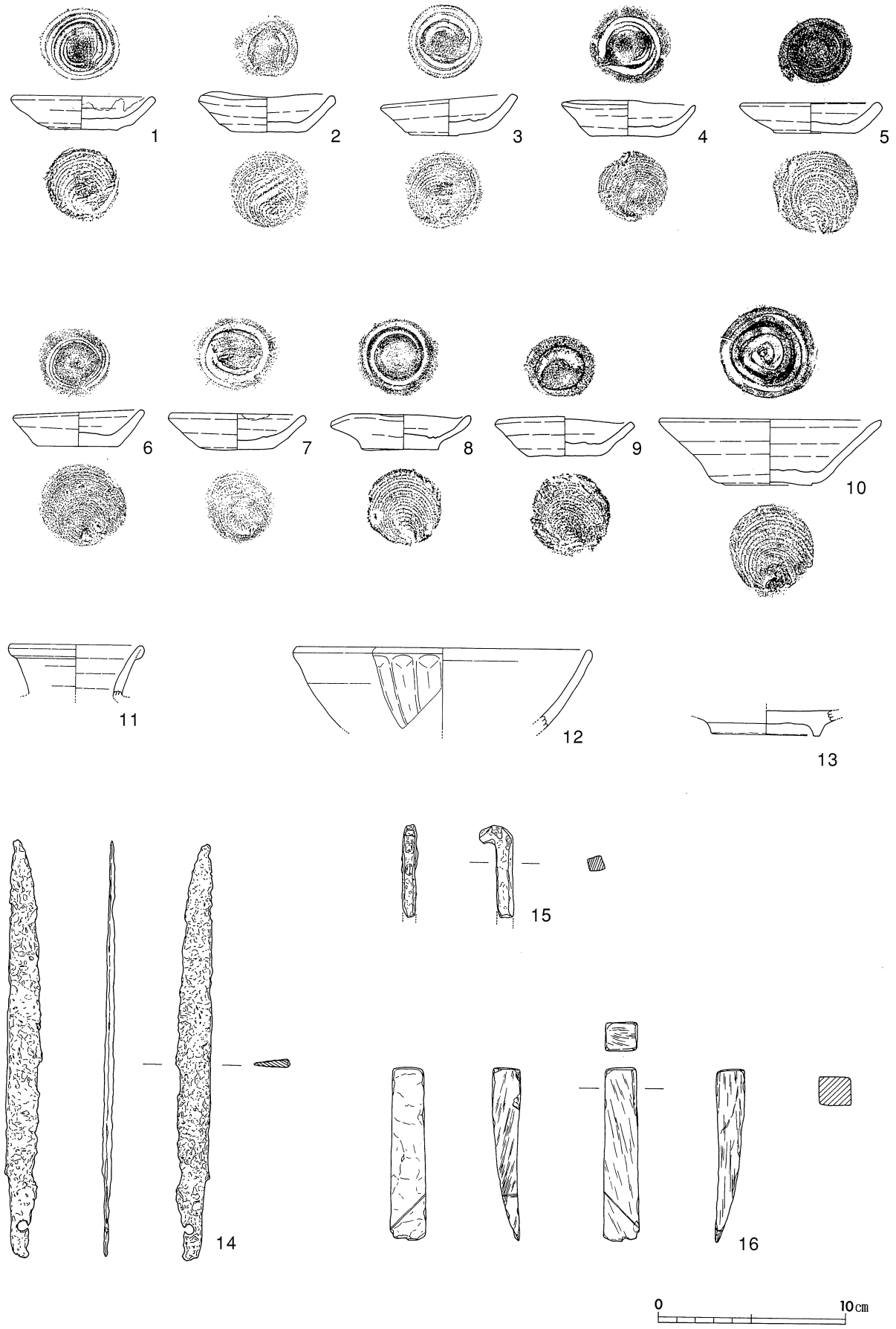
第55図1～10は土師質土器である。1～9は小皿で、1、7は内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施す。底部には回転糸切痕が残る。1は灯明皿で、口縁部内面に

タールが付着する。口縁部は外反気味に立ち上がった後、外方に直線的に立ち上がる。端部は丸く仕上げる。7も灯明皿で、口縁部にタールが付着する。口縁部は外方に直線的に立ち上がる。端部は丸く仕上げている。2、3は内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面見込は渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施し、底部には回転糸切痕の後板目が残る。2は口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部に2列の平坦面を作り上げている。3は内湾気味に立ち上がった後、外方に直線的に伸びる。端部には平坦面を作る。4、8は内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面見込は渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施し、底部には回転糸切痕の後板目を残している可能性がある。4は内湾気味に立ち上がった後、外方に直線的に伸びる。端部は尖り気味に仕上げる。8は内湾気味に立ち上がった後、外側に直線的に伸びる。5、6は内外面ともに回転ナデを施し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕が残る。5は口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げる。6は外方に直線的に立ち上がり、端部を丸く仕上げる。9は灯明皿で、内面にタールが付着する。内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面見込は一部風化のため詳細は不明であるが、渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕を残す。底部と器壁の界線は明確に仕上げられ、口縁部は外反しながら立ち上がった後、肥厚し内湾気味となる。端部は丸みを帯びている。10は内外面ともに回転ナデで、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕が残る。口縁部は内湾した後外反気味に伸び、端部を丸く仕上げている。11は瀬戸で仏花瓶などの口縁部と推定される。内外面ともに回転ナデの後施釉している。口縁部は外反気味に立ち上がった後、端部を外側に折り曲げ玉縁状にしている。12、13は青磁碗である。12は龍泉窯系青磁Ⅲ類に属する遺物で、外面には蓮弁を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部はやや肥厚して尖り気味となる。13世紀末から14世紀中頃の遺物と考えられる。13は高台で、全面施釉後高台畳付の釉を掻きとっている。14は刀子で、片側に刃を施す。柄部には孔を穿っている。刃の背部付近に銀色の鉱物が付着している。15は鉄釘の叩部で、尖部を欠損している。断面方形状で太く、叩部は弧を描きながらL字状に曲がる。16は砥石で、4面を砥面として使用する。このうち最も大きな砥面は、縦長の直方体の1面を大きく擂り減らし、1辺から対角状の1辺に向けて山なりの面を呈する。

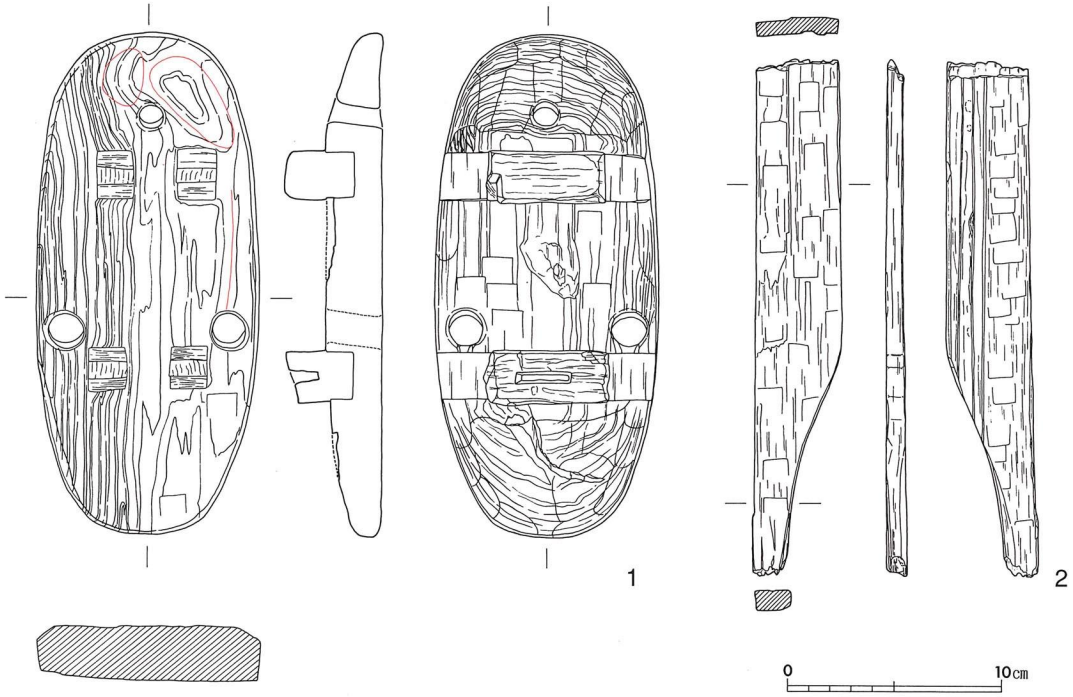


第54図　大溝04黒褐色粘土Ⅳ層出土古銭

第56図1、2は木製品である。1は下駄で、楕円状の板目の板に長方形状の板目の歯を直角に取り付ける。歯は前後に2枚接合させ、後側接地面には細長い繰り込みが見られる。歯の接合は、ブレを無くすため横断する溝にはめ込み、溝内の2か所のホゾ穴を貫通させた上、反対側からそれぞれ柾目の板を詰め込み固定している。表面には磨耗による足形が残り、指の配置から下駄は右足用と推定される。2は用途不明の木製品で包丁形を呈するが、刃はなく別の用途に用いられたものと考えられる。



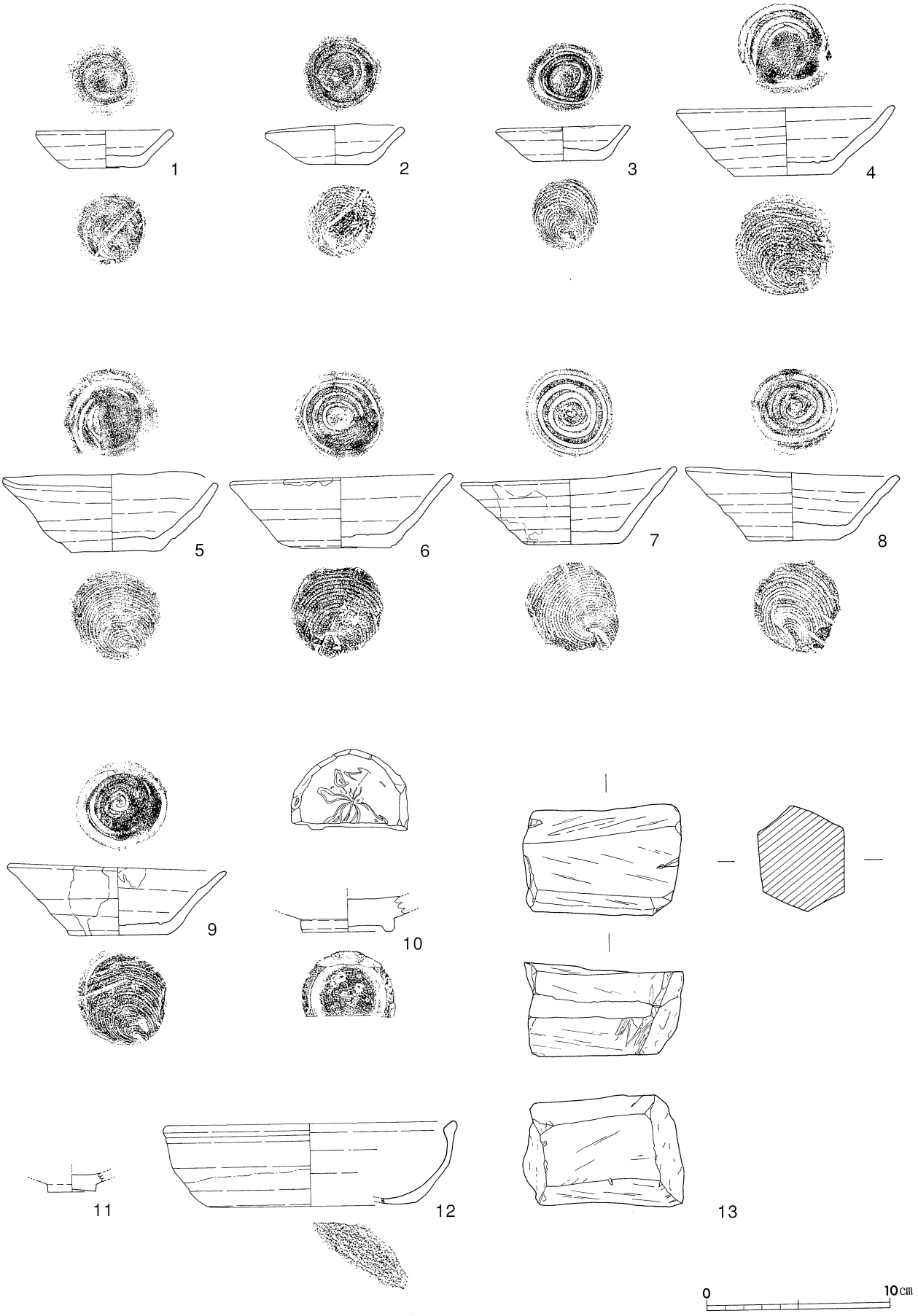

第55図　大溝04褐灰色粘土（地山ブロック混入）（黒褐色粘土Ⅳ層・Ⅴ層の間層）出土遺物（1）




第56図　大溝04褐灰色粘土（地山ブロック混入）（黒褐色粘土Ⅳ層・Ⅴ層の間層）出土遺物（2）

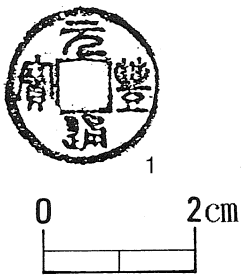
### 大溝04黒褐色粘土Ⅴ層出土遺物（第57～58図）

第57図1～9は土師質土器である。1～3は小皿で、1は内外面ともに回転ナデを施し、内面見込には渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施す。底部には回転糸切痕の後板目が残る。口縁部は内湾気味に立ち上がった後、屈曲して外方に直線的に立ち上がる。端部は肥厚し丸く仕上げる。2、3も内外面回転ナデ調整で、内面見込も渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施す。底部には回転糸切痕を残す。2は口縁部は内湾気味に立ち上がり、屈曲して外方に直線的に伸びる。端部は肥厚し平坦気味の面を作る。3は灯明皿で、内外面にタールが付着する。口縁部は内湾気味に立ち上がった後、屈曲して外方に伸びる。端部は平坦面を作る。4～9は坏で、4、6は内外面ともに回転ナデ、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施す。底部には回転糸切痕の後板目を残す。4は内湾気味に立ち上がり外反気味に伸びた後、内側にやや屈曲して外方に伸びる。端部は丸みを帯びる。6は灯明具で、口縁部外面にタールが残る。口縁部は内湾気味に立ち上がり、外方に直線的に伸びる。端部は丸く仕上げる。5も内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面見込にも渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施す。底部には回転糸切痕が残る。口縁部は外反気味に立ち上がった後、内側にやや屈曲して外方に直線気味に伸びる。端部は平坦面を作るが、やや丸みを帯びている。7は灯明具で、外面にタールが付着する。内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕の後板目が残る。口縁部は外反気味に伸び、端部を丸く仕上げている。8は内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、底部に回転糸切痕を残す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げる。9は灯明具で、内外面にタールが付着する。内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込には渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には粗い回転ナデの後板目が残る。口縁部は内湾気味に立ち上がった後、外反気味に伸びる。端部はやや丸みを帯びる。10は青磁碗で、内外面ともに施釉する



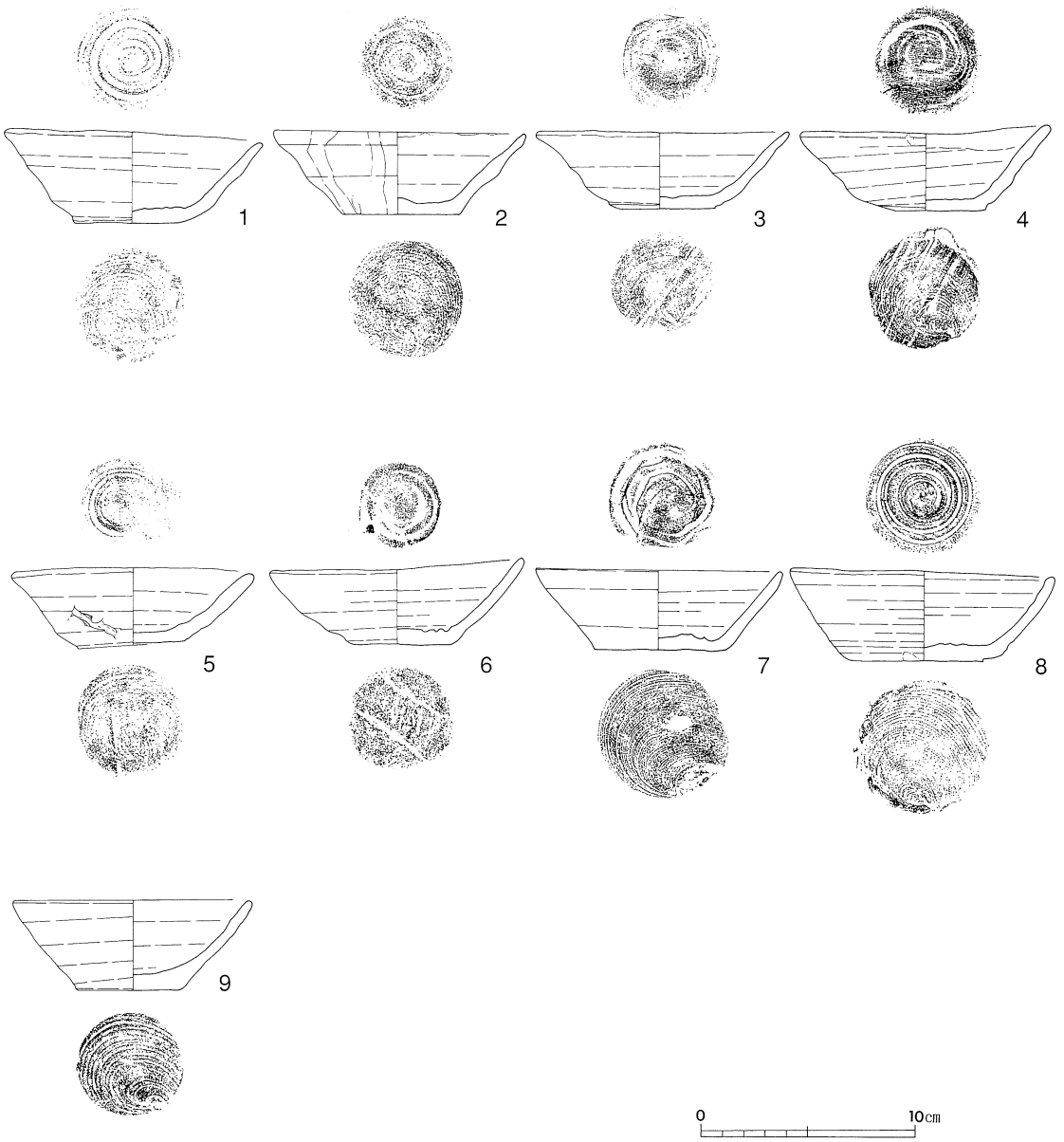

第57図　大溝04黒褐色粘土Ⅴ層出土遺物

が、高台内側及び高台見込は露胎にしている。内面見込にはスタンプ文を施す。11は用途不明の磁器で、内面見込を施釉し底部を露胎としている。底部は回転ヘラにより薄い小型の円柱状高台を削り出し、接地面は回転ナデを施して中心部をやや凹めている。12は中国陶器盤で、口縁部及び内面は回転ナデ調整、体部外面中段より下にはナデを施し、底部はヘラ削りで調整している。内面と口縁部から体部中央までの外面は施釉され、それ以外は露胎となっている。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部で外側に開いて断面方形状に肥厚する。断面に漆が付着しており、漆接をしていたものと考えられる。第45図18と同じタイプのものと考えられる。13は6面の砥面を有する砥石で、六角柱に近い形を呈する。各面は凹状に凹み気味で、使用頻度は高いと考えられる。




第58図　大溝04黒褐色粘土Ⅴ層出土古銭

第58図1は篆書体の元豊通寶で、初鋳は1078年である。



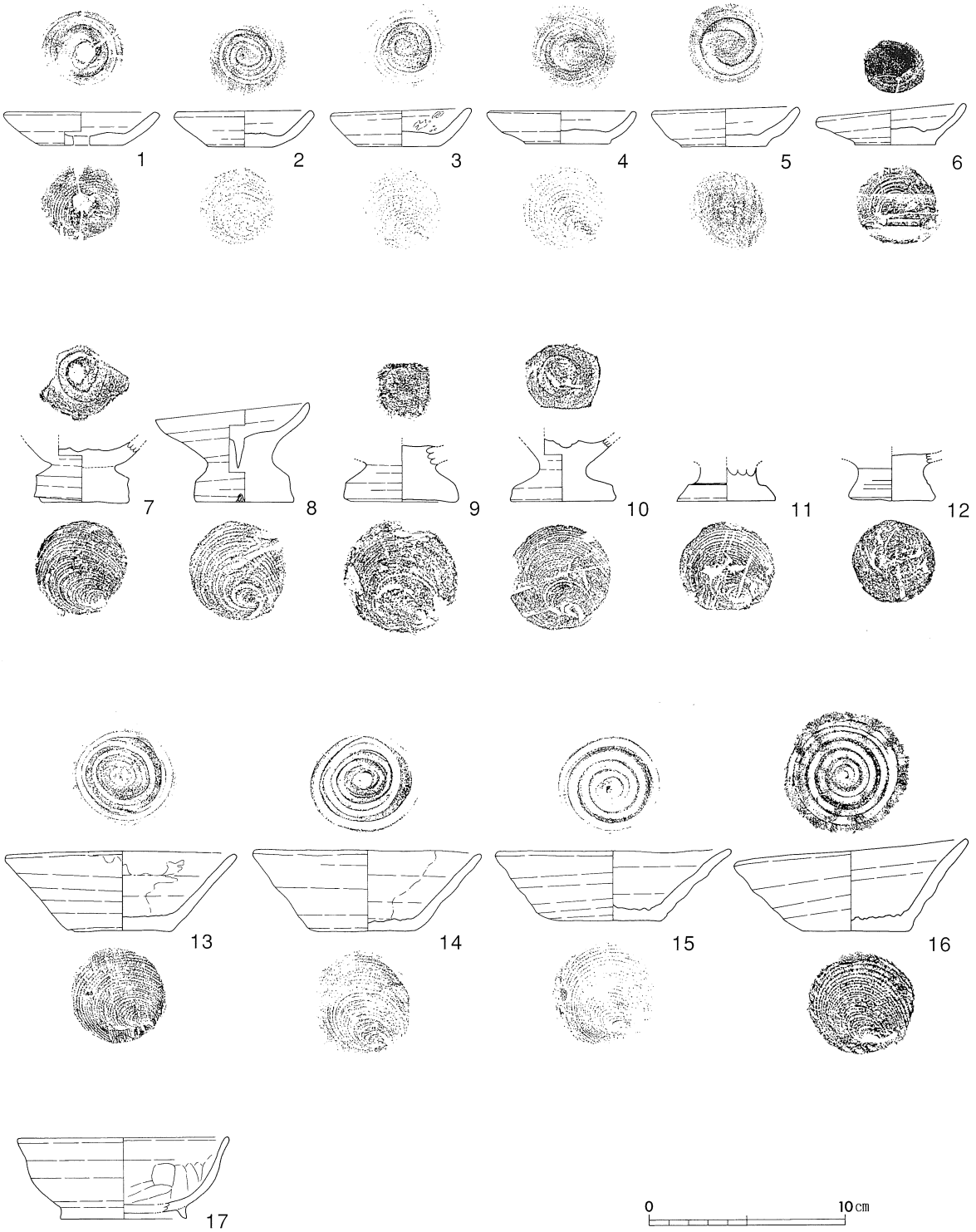

第59図　大溝04黒褐色粘土Ⅰ～Ⅲ層出土遺物

### 大溝04黒褐色粘土Ⅰ～Ⅲ層出土遺物（第59図）

第59図1～9は土師質土器坏で、1、8は内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕の後板目が残る。1は灯明具で、口縁部にタールが付着する。内湾しながら立ち上がり、外方に直線的に伸びる。端部は平坦気味に仕上げる。8も灯明具で、底部外面にタールが付着する。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げる。2も灯明具で、内外面にタールが付着する。内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込に渦巻状の回転ナデを施す。底部には回転糸切痕が残る。 3～6は内外面ともに回転ナデを施し、内面見込には渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施す。底部には回転糸切痕の後板目が残る。3は口縁部は内湾気味に立ち上がった後外反気味に伸びる。端部はやや丸みを帯びる。4は灯明具で、内外面にタールが付着する。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部は丸く仕上げている。5は内湾気味に立ち上がった後やや外反し、端部を丸く仕上げている。胎土に酸化鉄塊が混入している。6は灯明具で、内面にタールが付着する。口縁部は外反気味に立ち上がった後内湾気味となる。端部は尖り気味に仕上げている。7は灯明具で、内面に油及びタールが付着する。内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込には渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施す。底部には回転糸切痕が残る。口縁部は外方に直線的に伸び、端部は尖り気味に仕上げている。9は内外面ともに回転ナデを施し、底部に回転糸切痕を残す。口縁部は外反気味に立ち上がった後内湾気味となる。

### 大溝04黒褐色粘土Ⅳ～Ⅴ層出土遺物（第60図）

第60図1～17は土師質土器である。1～6は小皿で、1～5は内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施し、底部に回転糸切痕を残す。1は口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部に平坦面を仕上げている。底部は穿孔している。2は外方に直線的に立ち上がった後、内側に屈曲して外方に直線的に伸びる。端部は丸く仕上げている。3は灯明皿で、内面に油及びタールが付着する。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げる。4、5は底部と器壁の界線を明確にするタイプで、外反気味に立ち上がった後内湾する。4は端部を丸く仕上げ、5は端部を平坦気味にしている。6は内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込は渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施す。底部は回転糸切痕の後に板目を残す。底部と器壁の界線を明確にするタイプで、底部が厚く口縁部は外反しながら立ち上がった後内湾する。端部は丸く仕上げている。7～12は柱状高台付坏である。7、9は内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、底部に回転糸切痕を残す。7は頸部が太く短いタイプで、台部は直立的で高く作る。口縁部は内湾しながら立ち上がる。9は台部の裾がやや広がるタイプである。口縁部は欠損のため詳細は不明である。8も台部の裾がやや広がるタイプである。頸部は太く、口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。内面見込に穿孔、底部に切り込みが残る。10は内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込中心を凹ませナデている。底部には回転糸切痕の後板目が残る。頸部は細めで、台部の裾はやや外側に広がる。11は外面にナデを施し、底部に回転糸切痕を残す。台部の裾が外方に広がるタイプである。12は内面見込は風化のため調整不明であるが、外面は回転ナデ調整を施す。底部には回転糸切痕が残る。高台は頸部から直線的に裾を広げる。13～16は坏で、内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕が残る。13は灯明具で、内外面にタールが付着する。口縁部は外方に直線




第60図　大溝04黒褐色粘土Ⅳ～Ⅴ層出土遺物

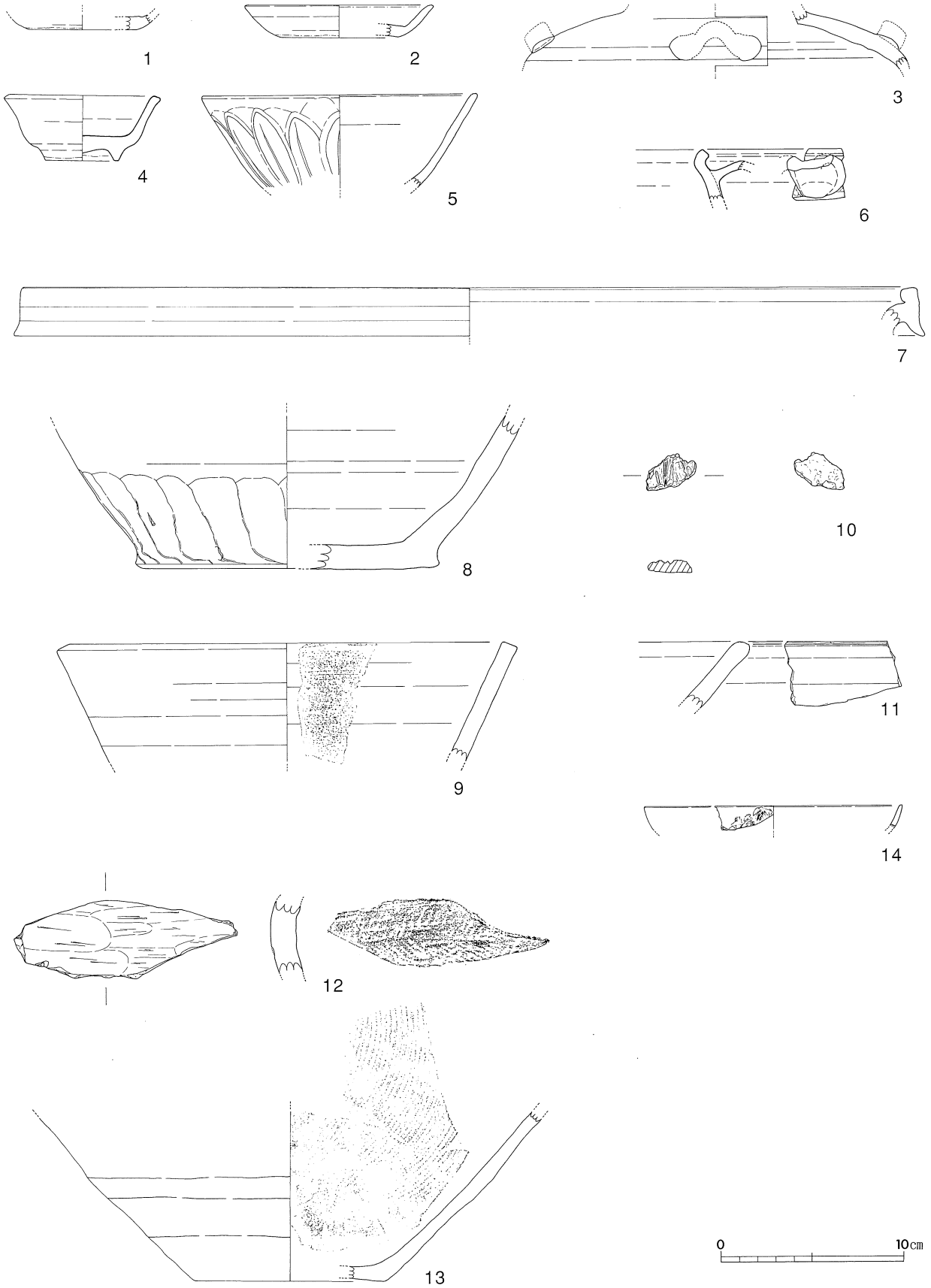
的に伸び端部を丸く仕上げる。14も灯明具で、内面にタールが付着する。口縁部は外方に直線的に伸び、端部を尖り気味に仕上げる。15は口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を平坦気味に仕上げる。16は外方に直線的に立ち上がった後外傾する。端部は丸みを帯びる。17は高台付椀で、外面は削りの後ナデ調整し、内面にはミガキを施す。口縁部は内湾しながら立ち上がった後外反する。端部は丸みを帯びる。

第61図　大溝04その他の出土遺物（1）

## 大溝04その他の遺物（第61～64図）

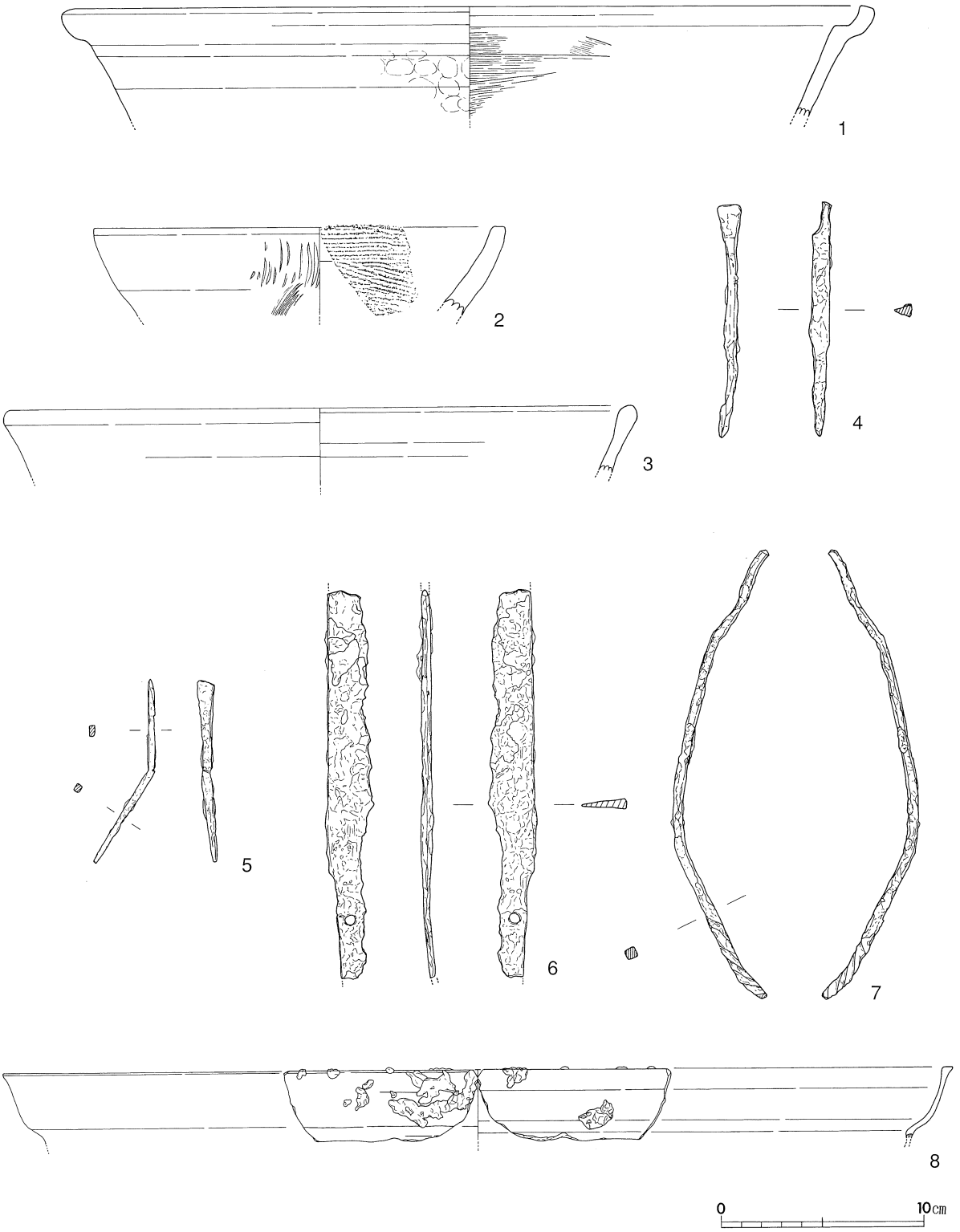
第61図1、2は須恵器である。1は須恵器蓋で、内外面ともに回転ナデ調整し、天井部に回転ヘラ、内面見込にナデを施す。外面には2本の稜線を施している。口縁部は天井部から内湾しながら伸び、端部は丸く仕上げ内面に1条の沈線を施す。内面にはススが多量に付着しており、転用している可能性がある。2は高台で、内外面ともに回転ナデを施す。口縁部は内湾気味に立ち上がる。3は布目瓦で、表面に布目、裏面にタタキを施す。4～18は土師質土器である。4～8は小皿で、4、5は内外面を回転ナデ調整し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施す。底部には回転糸切痕が残る。口縁部は底部と器壁の界線を明確にした後内湾気味に立ち上がる。端部は尖り気味に仕上げている。5は内湾気味に立ち上がった後外傾する。口縁部は平坦気味に仕上げるが、平坦面内側が尖り気味に仕上げられている。6、7は内外面ともに回転ナデを施し、底部には回転糸切痕を残す。6は底径口径比の小さいタイプで、内湾気味に立ち上がり、端部は丸く仕上げられている。7は外反気味に立ち上がった後、やや内側に屈曲して外方に伸びる。端部は丸く仕上げられている。8は内外面回転ナデ調整し、底部は回転糸切痕の後板目を残す。口縁部は外方に直線的に伸び、端部を丸く仕上げる。9～14は柱状高台付坏で、9は外面回転ナデ調整で、内面見込及び底部は風化のため調整不明である。頸部が長く台部の裾は外方に広がる。10、11は外面回転ナデ調整で、内面見込は風化のため調整不明であるが、底部には回転糸切痕が残る。10は頸部が長く台部に1条の沈線が施されている。11は頸部が太く頸部から裾が直線的に広がる。12、17は外面を回転ナデ調整し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕が残る。12は頸部が太く頸部から裾が直線的に広がる。17は台部が外側に広がっている。13は内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕が残る。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は肥厚して丸く仕上げている。頸部は細く裾は外方に直線的に広がり台部はやや外側に広がっている。14は内外面ともに回転ナデを施し、底部には回転糸切痕が残る。口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。頸部は長く台部はやや外側に広がる。15は外面は回転ナデ調整し、内面見込は渦巻状の粗い回転ナデの後ナデている可能性がある。底部には回転糸切痕が残る。裾は外反気味に広がり台部を作る。16は外面を回転ナデ調整し、内面見込には渦巻状の粗い回転ナデを施した後ナデている。裾は外方に直線的に広がり台部を作る。18は坏で内外面を回転ナデ調整し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕が残る。底部と器壁の界線は明確で、口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。19は白磁の輪花皿で、外面下部に露胎を作る。口縁部は内湾気味に立ち上がった後外反気味に伸びる。端部は肥厚しやや丸く仕上げ、数か所切り込みを入れている。14世紀頃の遺物と考えられる。20は口禿の青白磁皿で内面に陽刻の文様を施す。器壁が極薄で、口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を平坦に仕上げている。

第62図1～3は白磁である。1は内外面施釉し底部は露胎にしている。口縁部の立ち上がりは内湾気味である。2は口禿の小皿で、内外面施釉し底部は露胎にしている。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げる。14世紀頃の遺物と考えられる。3は四耳壺で、内外面ともに施釉し、外面には耳の一部が残る。4、5は青磁である。4は小碗で、全面施釉の後高台畳付の釉を掻きとる。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部は肥厚させて平坦気味に仕上げている。14世紀頃の遺物と考えら




第62図　大溝04その他の出土遺物（2）

れる。5は龍泉窯系青磁碗Ⅰ－5b類の遺物で、外面に鎬蓮弁文を施す。口縁部は内湾した後、外方に直線的に伸びる。端部は尖り気味に仕上げる。6は中国陶器の水注で、取手の接合部である。後に第88図7と接合関係にあることが確認された。口縁部は外傾し端部を平坦に仕上げている。7、8は常滑系陶器である。7は中野晴久氏の編年の常滑6型式（13世紀後半頃）の甕である。調整は内外面ともに

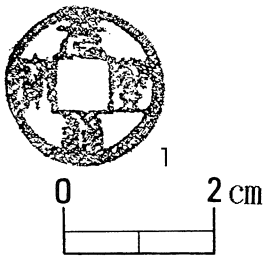



第63図　大溝04その他の出土遺物（3）

ナデを施す。口縁部は外反した後内傾気味のT字を成し、上部は平坦面を作り下部は尖り気味に仕上げる。8は壺または甕の底部で、内外面ともにナデ調整するが、外面体部下にヘラ削りを施している。内面には多量の自然釉が付着する。9は備前擂鉢で、内外面ともにナデ調整し、内面に放射状の擂目を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を平坦に仕上げている。10は土壁片の可能性がある遺物で、焼き締まっている。片側表面に筋が残る。11は国産陶器で、内外面回転ナデ調整を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部は丸く仕上げて沈線を入れている。12、13は在地の瓦質土器である。12は甕で、外面にタタキを施し炭素を吹き付けている。内面にはヘラ削りを施す。13は擂鉢で、外面に粗いナデ、内面はナデ調整した後放射状の擂目を施し、外面上部及び内面に炭素を吹き付けている。底部は静止糸切の可能性がある。口縁部は外方に直線的に立ち上がっている。14は漆器で、外面に文様を描く。口縁部は内湾気味に立ち上がる。

第63図1、2は在地の土師質土器である。1は土鍋で、口縁部にナデ調整し、体部外面はナデ調整の後指頭圧痕を施す。体部内面にはハケ目を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がった後、内面に段を作って内湾する。端部は平坦に仕上げている。2は擂鉢で、内外面ナデ調整の後外面にはハケ目を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を平坦に仕上げる。3は産地不明の陶器で、内外面ともにナデを施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を肥厚させて丸く仕上げる。口縁部に自然釉がかかる。4～8は鉄製品である。4、5は鉄釘で、4は叩部を三角状に作りやや薄くしている。反対側は尖り気味に仕上げている。5は叩部を大きく薄く加工している。反対側は尖り気味に仕上げている。6は刀子で、刃は直線的に伸びる。柄部には孔を穿っている。7は火箸で、断面方形状に加工し、一端を時計回りに捻っている。8は鉄鍋の口縁部で、外反気味に立ち上がった後、内側にやや屈曲して外方に直線的に伸びる。端部は肥厚し平坦面を作る。内面にカルシウムが付着している可能性がある。

第64図1は篆書体の元豊通寶で、初鋳は1078年である。銭文は比較的密に入れられている。

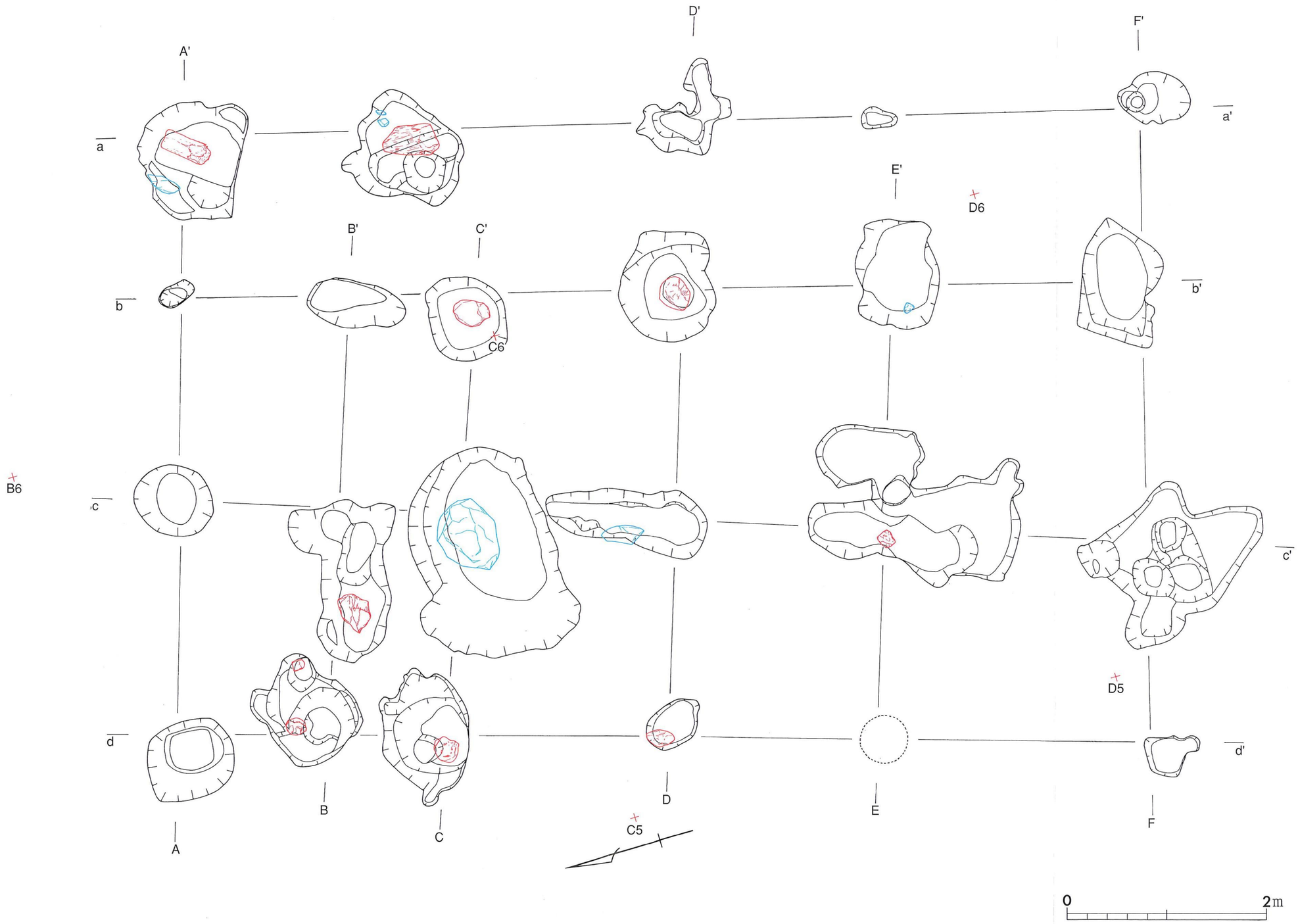


第64図　大溝04出土古銭

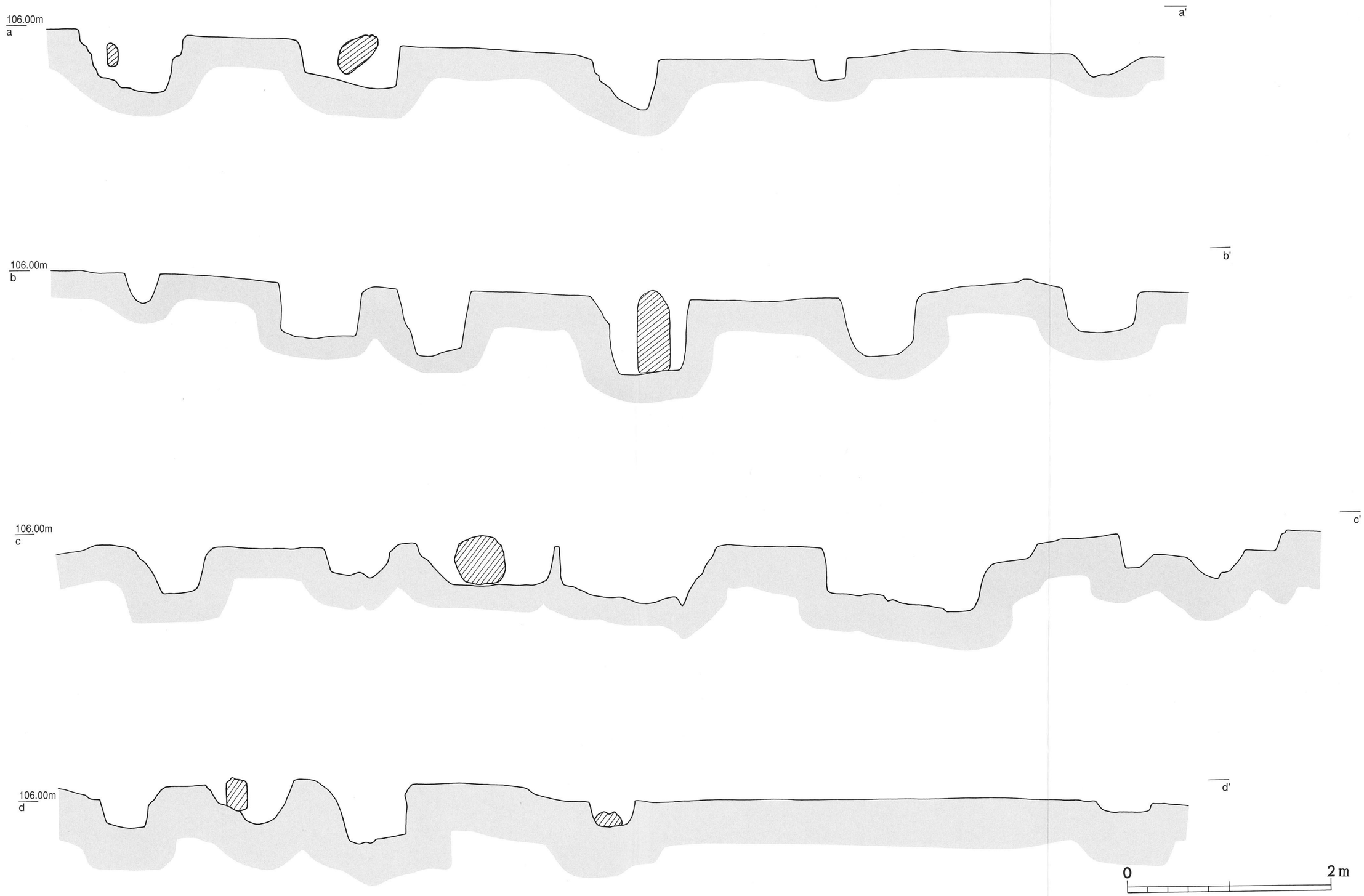
## SB01（第65～67図）

柱穴から出土した遺物から遺構の時期は15世紀頃と考えられる。この時期の遺物では、付近から香炉、燭台、花瓶の三具足（五具足）が全て出土しており、検出した建物跡は当遺跡の中心となる建物跡と推定される。建物跡は主軸が長軸でN～17°～W、短軸でN～73°～Eで、南北4間×東西3間であるが、中央に柱間2.1～2.2m、2間×2間の正方形状の区画を造り、南北両側に柱間2.5～2.7m、1間×2間の長方形状の区画を造って、北側区画は南北半間間隔にも柱が施される。また東側は1.6～1.7m程度、庇状に張り出している。柱間からこれらはそれぞれ内陣、脇陣、外陣になると考えられ、建物跡の向きは東向きと推定される。

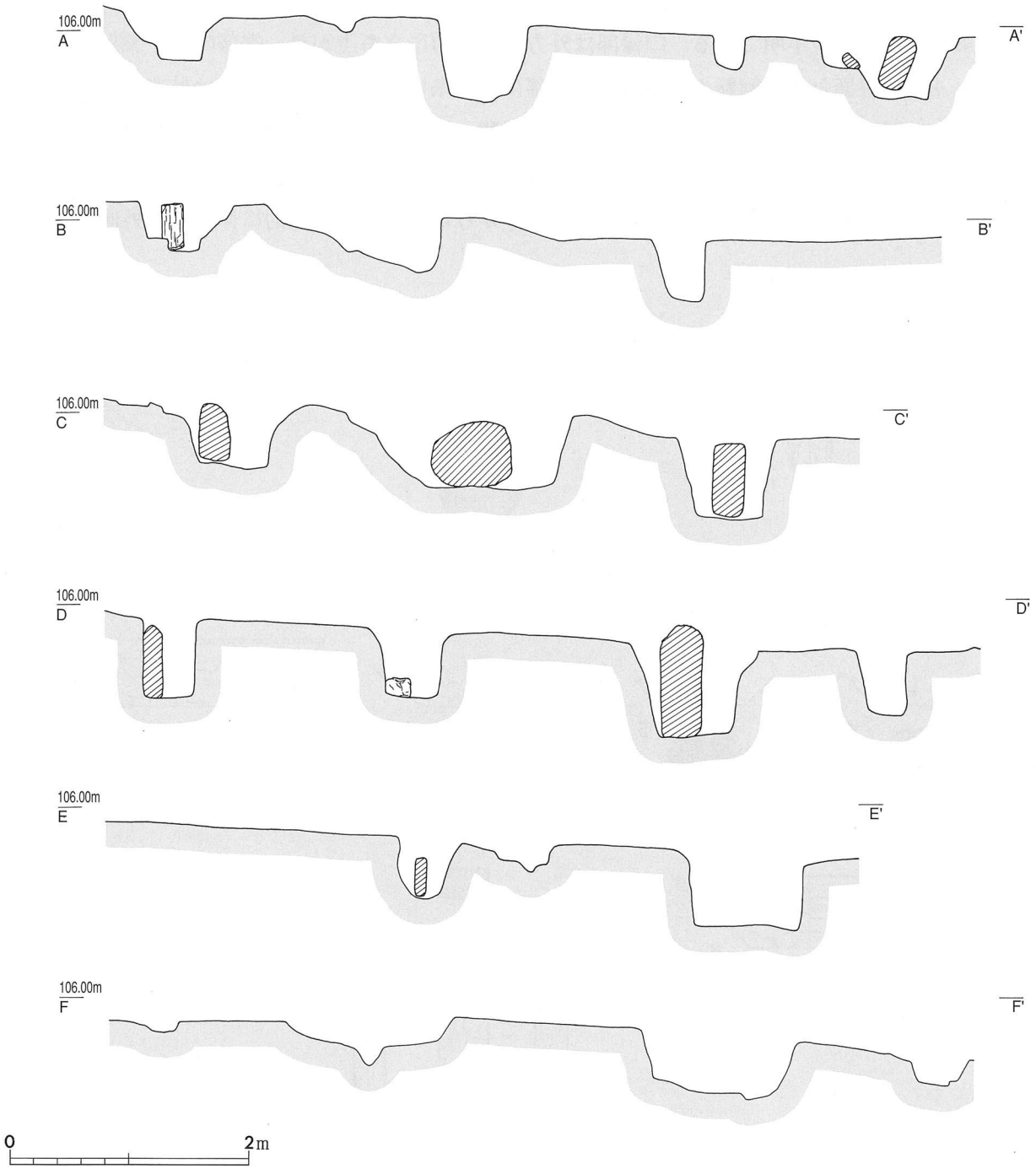
一方、大溝03を挟むSB01の正面に岩盤が露出しており、数穴のピットが穿たれている。出土遺物が土師質土器の小片1片のみであるので時期は不明であるが、SB01に伴うものであれば、角塔婆を建てた痕跡である可能性がある。角塔婆とは寺の祭りの際に本堂の前に立てる巨大な柱状の塔婆である。角塔婆の痕跡は県内では1例しか確認されておらず、今後の資料の増加を待って改めて検討することとしたい。




第65図　SB01遺構平面図



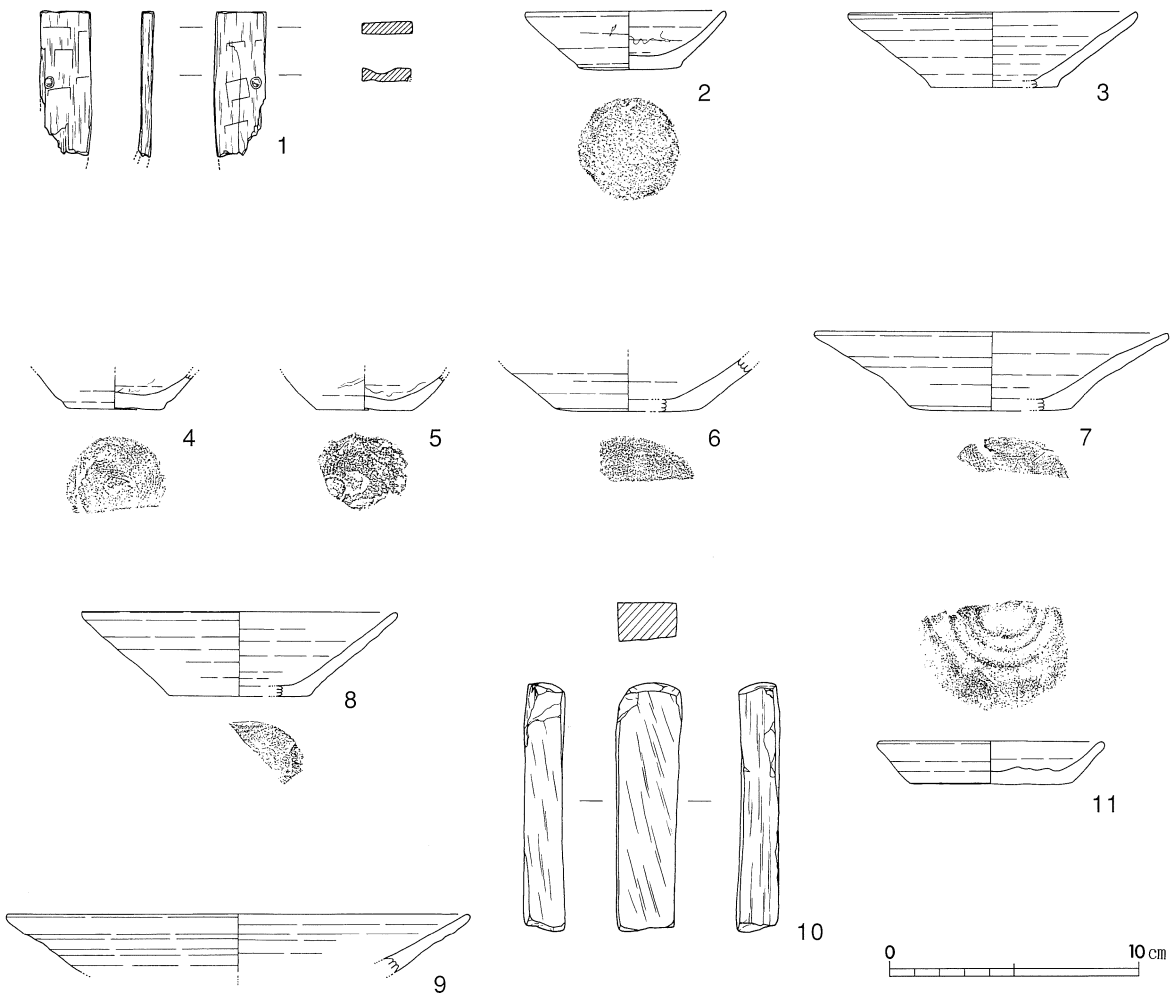

第66図　SB01遺構断面図（1）




第67図　SB01遺構断面図（2）

SB01出土遺物（第68図）

第68図1～3は内陣の柱穴、4～11は外陣の柱穴から出土した遺物である。1は札状の木製品で、片側隅を穿孔している。赤外線カメラでも文字は確認できなかった。2～9、11は土師質土器である。2、4、5は小皿で、2、4、5は灯明皿で、2、5は内外面に、4は内面にタールが付着する。2は内外面ともに回転ナデを施し、底部には回転糸切痕の後板目を施す。底部を一段形作っており、口縁部は内湾気味に立ち上がる。端部は丸く仕上げている。4、5は内外面ともに回転ナデを施し、底部には回転糸切痕を残す。4は底部を一段形作っており、口縁部は外方に直線的に立ち上がる。5は内湾気味に立ち上がっている。3、6～9は坏で、3は内面見込を欠損しているが、内外面ともに回転ナデ調整している。底部は風化のため調整不明である。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部内側を尖り気味に仕上げる。6、8は内外面ともに回転ナデ調整し、底部に回転糸切痕が残る。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、8は端部を丸く仕上げる。7は内面見込を欠損しているが、内外面ともに回転ナデ調整し、底部には回転糸切痕が残る。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部は平坦気味に仕上げる。9は口縁部で、内外面ともに回転ナデを施す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸びやや外傾する。端部

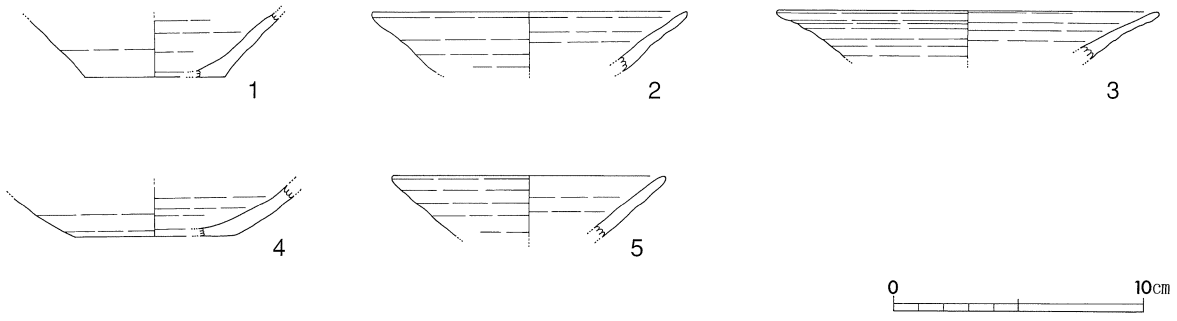



第68図　SB01出土遺物

は丸みを帯びている。10は砥石で、直方体状を呈し、4面を砥面として用いる。11は中型の皿で、当遺跡ではほとんど出土しない法量の遺物である。内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込には同心円状または渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部は風化のため調整不明である。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、やや肥厚して丸く仕上げる。

SB01周辺遺構出土遺物（第69図）

第69図1～5は土師質土器坏である。1は内外面回転ナデ調整を施す。内面見込は欠損し、底部は風化のため調整不明である。底部と器壁の界線は明確で、口縁部は外反気味に立ち上がる。2、3、5は口縁部で、内外面回転ナデ調整を施す。2は口縁部は内湾気味に立ち上がり、外側に屈曲して直線的に伸びる。端部は尖り気味である。3は外反気味に立ち上がり、端部を平坦に仕上げる。5は外方に直線的に伸び端部を丸く仕上げる。4は底部で、内外面ともに回転ナデを施す。内面見込は欠損し、底部には回転糸切痕の後板目が残る。口縁部は内湾気味に立ち上がる。




第69図　SB01周辺遺構出土遺物

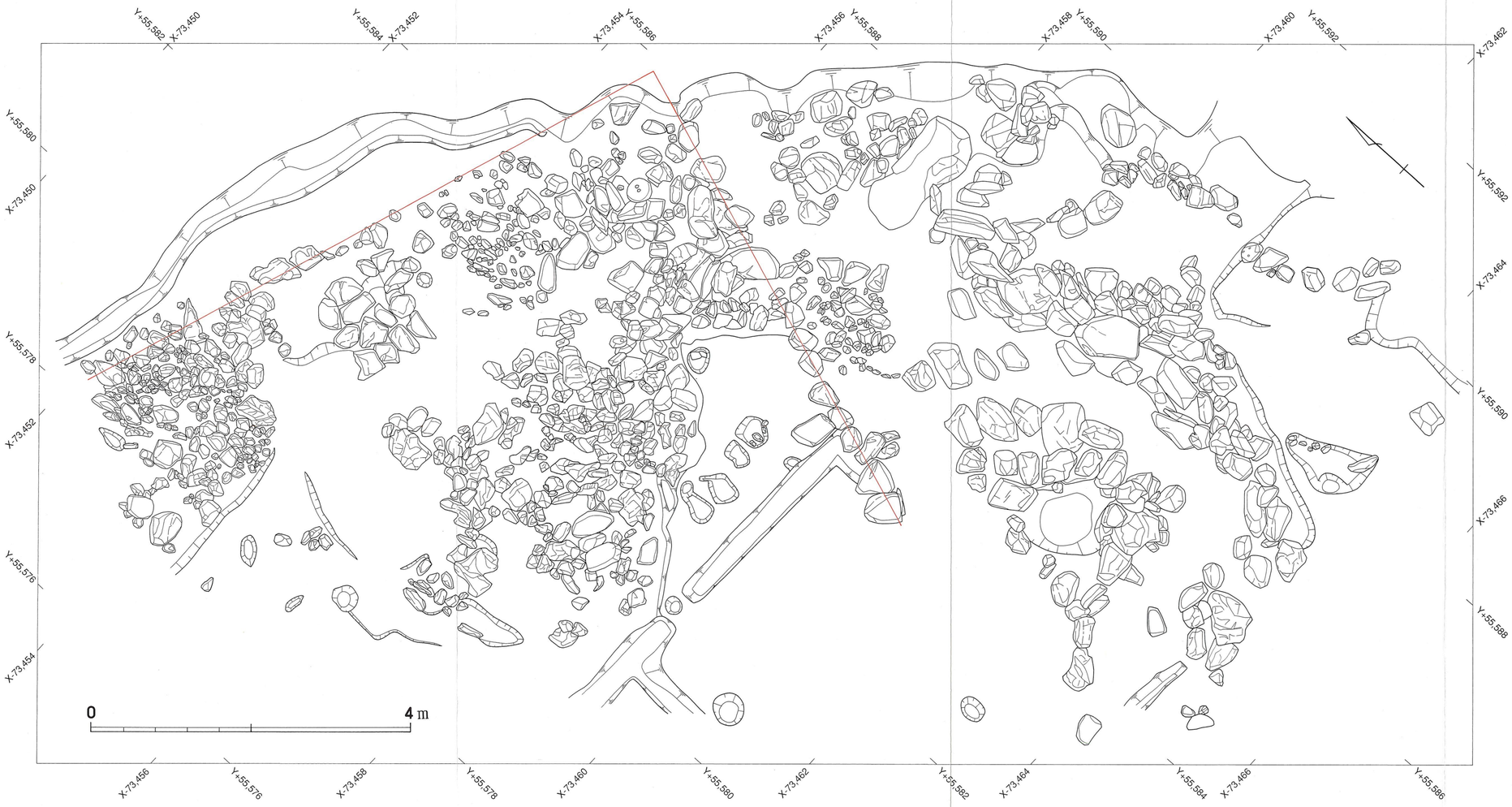
池状遺構・石敷建物跡（第70図）

出土遺物から15世紀頃に土石流を受けており、両者ともに大きく破壊されている。池状遺構は北側から帯状に伸びるタイプで、池壁には石積を施す。一方、中心部には中島状に石積があるが、内側を土坑状に掘り込んでおり、この部分に関しては井戸の可能性もある。土坑内からは在地の花瓶が出土しているが、編年が確立していないため、時期は不明である。

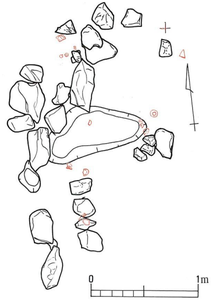
石敷建物跡は付近に露出する岩盤のブロックなどを粘土層上に敷き詰め、一部は池状遺構を埋めて整地している可能性がある。東側は土石流の影響が少なかったのか残存状況も良く、30～40㎝の石が一直線に並んでいる。また北側には方形状に石畳を造っており、これより北側から石が確認できないことから、この辺りまでが建物の敷地と推定される。主軸は南北N～18°～E、東西N～72°～Wで、建物の規模は不明である。出土遺物から建物跡は15世紀の土石流を受ける前と考えられるが、建物のあった時期に池状遺構が完全に廃絶していたのか、一部残っていたのかは不明である。

水路遺構（第71図）

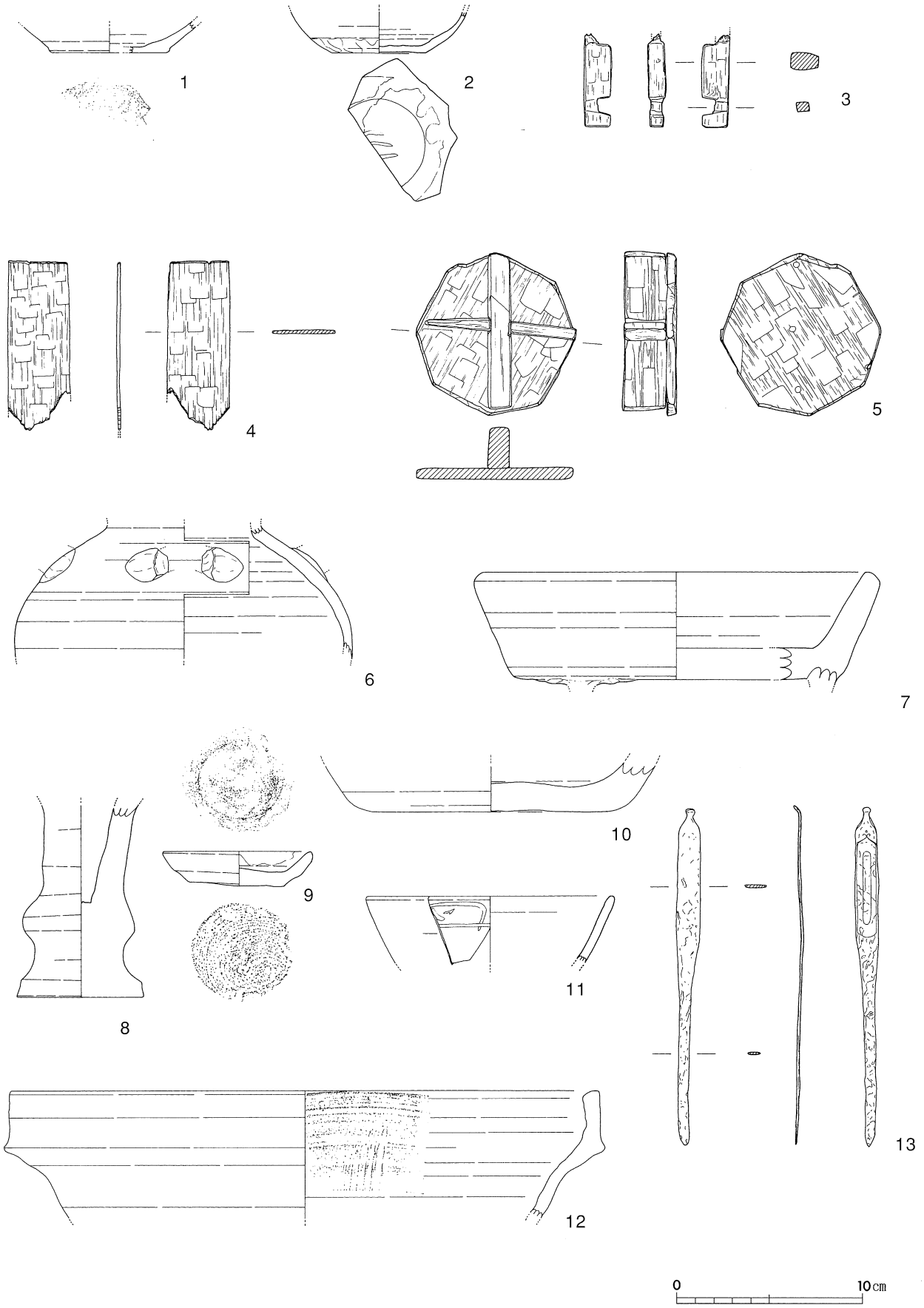
縦長2.6m以上、横幅約0.6mの水路で、20㎝程度の石を並べ造っている。水路は南向きで、やや西側に向かった後やや東側に振れる。土石流で破壊を受けており、池状遺構または石敷遺構に伴うものであるかは判断し難いが、関連遺構であればレベルから排水用の水路と考えられる。溝内から土師質土器片と咸平元寶が出土している。



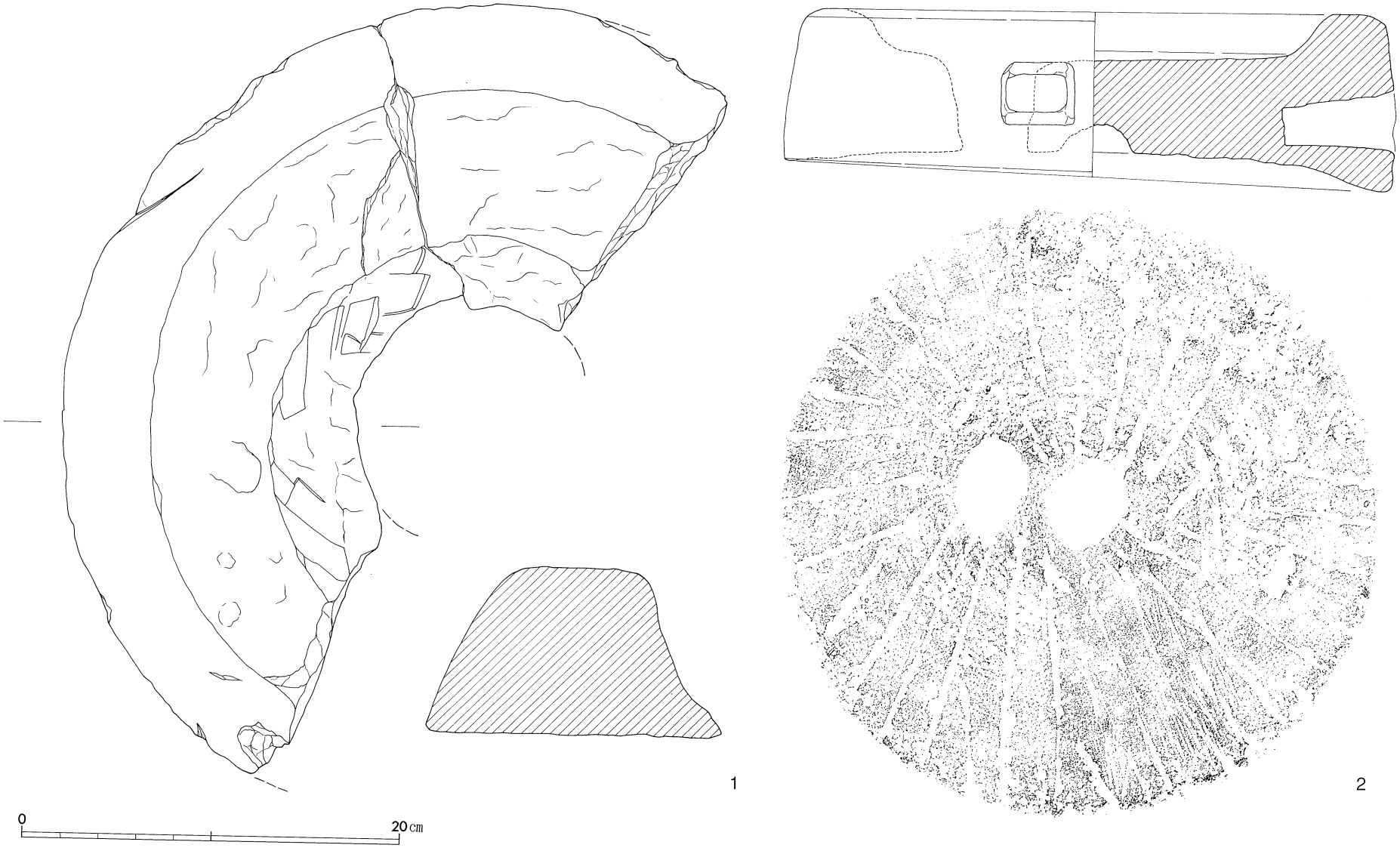

第70図　池状遺構・石敷遺構平面図




第71図　水路遺構図




第72図　池状遺構出土遺物（1）



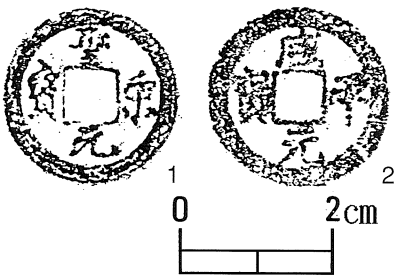

第73図　池状遺構出土遺物（2）

池状遺構出土遺物（第72～74図）

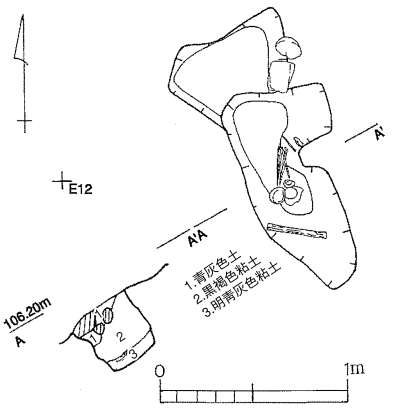
第72図1～4は池底から、5、6は池に流入した石の下から出土した遺物である。1は土師質土器坏で、内外面ともにナデ調整し、底部には回転糸切痕を残す。内面見込に凹みを作り、底部及び器壁の界線はやや肥厚する。口縁部は外方に直線的に立ち上がる。2は中世陶器の茶入れで、体部中央を施釉し他は露胎としている。口縁部は残存部で内湾気味に立ち上がっている。底部には3条の墨書が施される。3～5は木製品で、3は障子の骨木の可能性がある遺物で、組み合わせのための繰り込みが施されている。4は札状の木製品で、表面を加工し薄手に仕上げている。5は蓋状の木製品で、八角形の板に十字に組み合わせて作った摘みを竹釘で固定している。6は白磁の四耳壺で、肩部に耳の接合痕が残る。7は池の中島状になる場所から出土した在地の火鉢で三脚のものと推定される。内外面ともに回転ナデ調整し、底部にはナデ調整を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を丸く仕上げる。8は井戸状の遺構から出土した在地の花瓶である。外面に回転ナデ調整し、内面にはナデを施す。底部は風化のため調整不明である。形態は仏花瓶に近く、底部に高台を有し体部は大きく肥厚している。用途も遺跡の性格からその可能性が高いと推定される。9～13は石敷建物跡出土遺物である。9は石畳の下から出土した灯明皿で、内外面にタールが付着する。内外面ともに回転ナデを施し、内面見込には渦巻状の粗い回転ナデが施される。底部には回転糸切痕が残る。口縁部は外反気味に立ち上がり、内側にやや屈曲して外方に伸びる。端部はやや尖り気味に仕上げる。10は石敷の下から出土した在地の火鉢で、内外面ともにナデを施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、外方に直線的に伸びると考えられる。11～13は石敷上面から出土した遺物である。11は外面に雷文を施す青磁である。口縁部は内湾気味に立ち上がり、外方に直線的に伸びる。端部は丸く仕上げている。15世紀中頃まで存在していた遺物と考えられる。12は備前の擂鉢で、乗岡実氏の中世5期（15世紀後半頃）の遺物である。内外面ともにナデ調整し、内面には擂目を施す。口縁部は外反しながら立ち上がった後、内傾気味に直線的に伸びる。端部は平坦気味に仕上げている。後に第89図5との接合関係が確認された。13は銅製の笄で一端に耳掻きを施す。持手片側表面に文様を施している。

第73図1は五輪塔の水輪で、外面は綺麗に調整しているが、内面には加工痕が多数残る。2は石臼の上臼で、上面に凹みを作り、側面に方形状の繰り込みを穿つ。使用面は磨耗が著しいが、放射状に溝を彫り込む。中心部には孔を穿って、その隣に表面まで貫通する孔を穿っている。

第74図1は行書体の聖宋元寶で、初鋳は1101年である。2は咸平元寶で、初鋳は998年である。外枠を大きく作っている。



第74図　池状遺構出土古銭



第75図　SK02遺構図

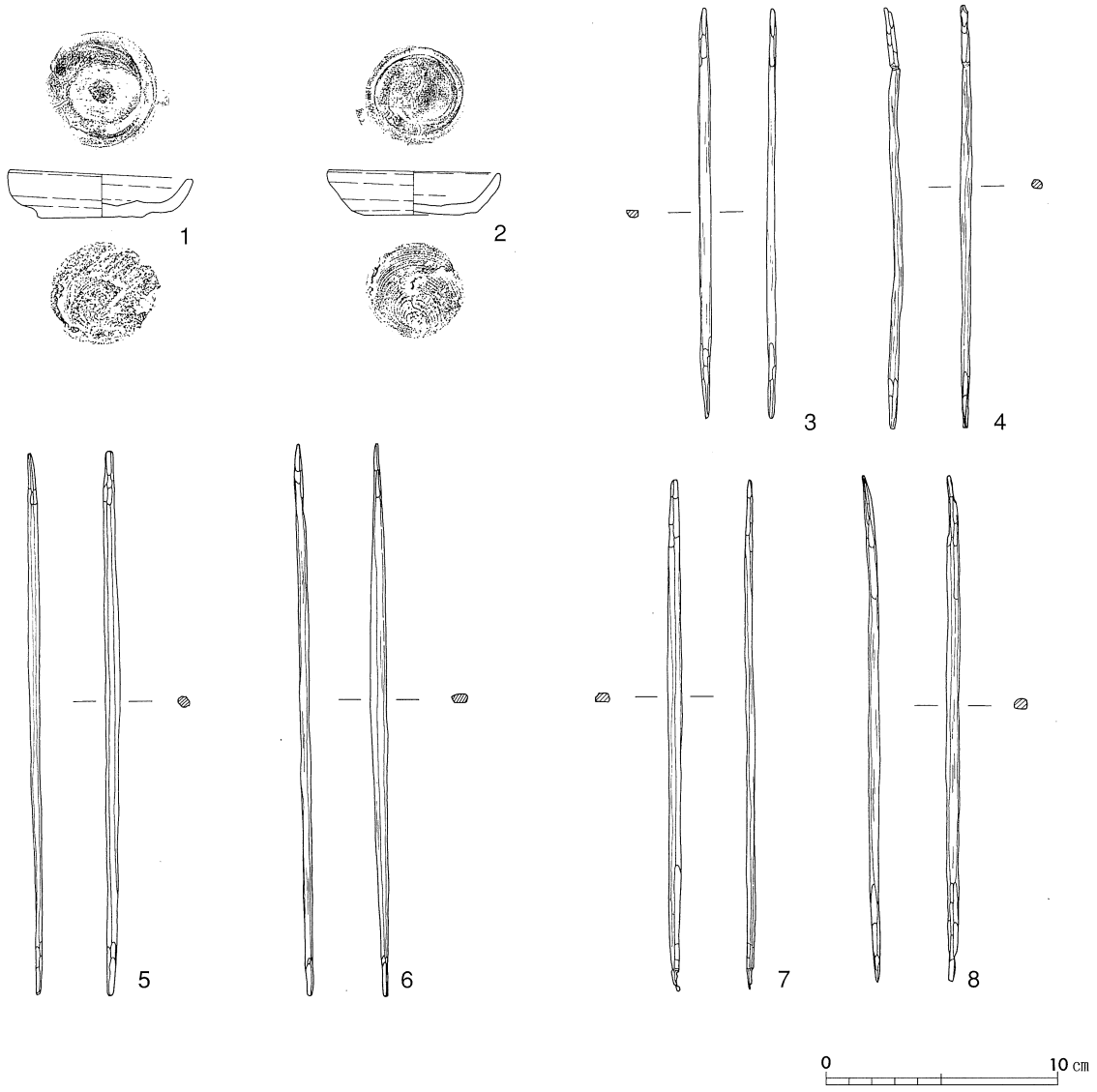
SK02（第75図）

縦長1.52m、横幅0.70m、深さ0.36mの土壙で、壁は東西ともに急勾配で、西側は外反気味に立ち上がり、東側は内湾気味に立ち上がる。遺物は土師質土器と多量の木箸が出土している

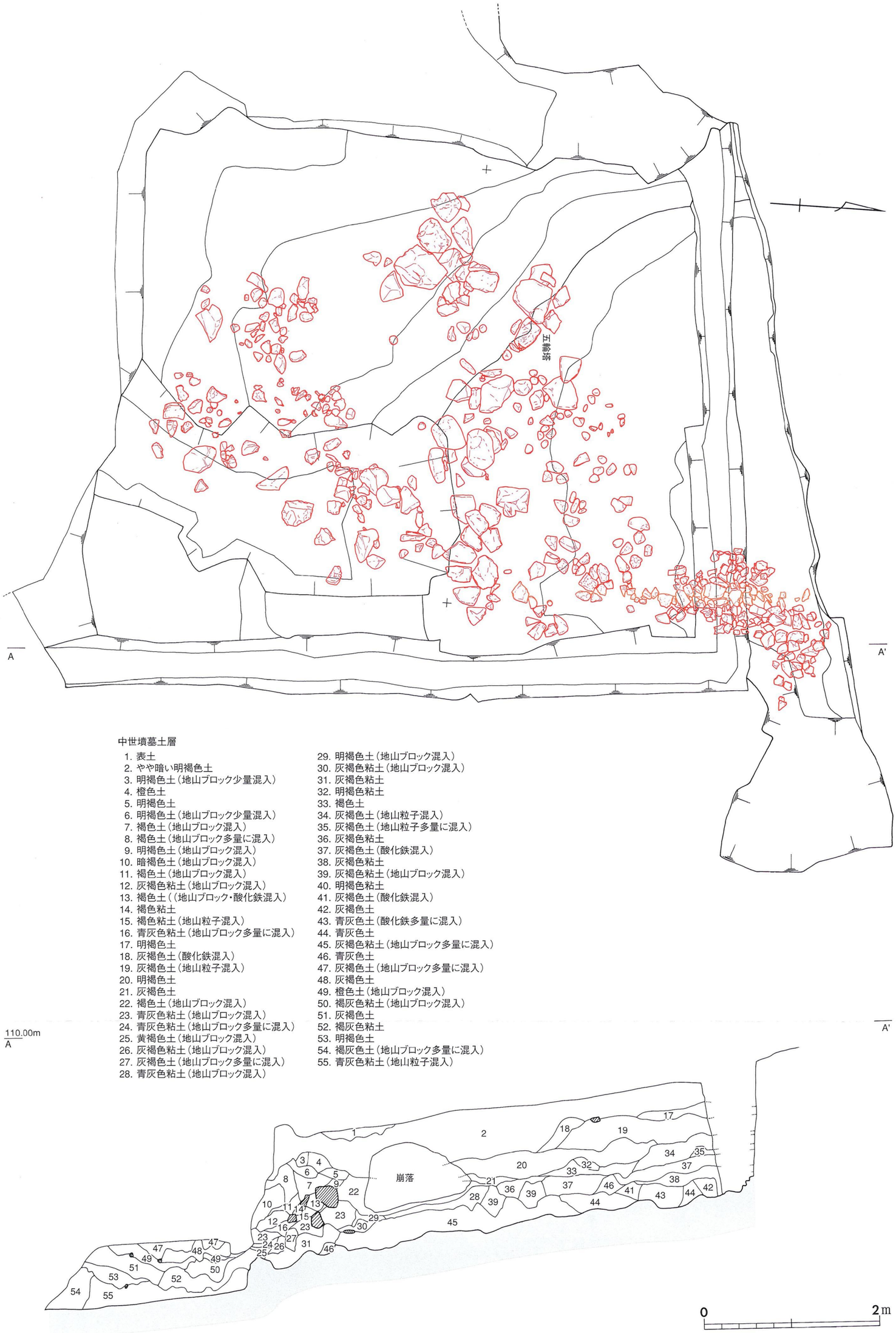
が、周辺の包含層から杓子が出土していることや、大溝04から多量の土師質土器、魚骨などが出土していることを考えると、付近に食堂などの施設があった可能性がある。

SK02出土遺物（第76図）

第76図1、2は土師質土器小皿である。内外面ともに回転ナデを施し、内面見込にナデを施す。底部には回転糸切痕の後板目が残る。2は内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込には渦巻状の粗い回転ナデを施す。3～8は木箸である。3、4は長さが短いタイプのもので、3は表面に6面の面を作るが、うち隣り合う2面が直角を成す。断面は平坦気味で、両端は細く仕上げている。4は表面に6面以上の面を作った後、両端を削り細く仕上げている。5～8は長いタイプのもので、5は表面に均等な6面の面を作った後、両端を削り細く仕上げている。6は表面に6面の面を作っているが、対する2面が広く加工されており、断面は平坦な六角形を呈する。両端は細く加工している。7は表面に6面を作るが、断面形は横長の台形の裾がカットされたような形をしている。両端は細く加工している。8は隣り合う2面が大きく加工されており、その他の面は丸みを帯びている。両端を削り細く仕上げている。




第76図　SK02出土遺物




中世墳墓土層

1. 表土
2. やや暗い明褐色土
3. 明褐色土（地山ブロック少量混入）
4. 橙色土
5. 明褐色土
6. 明褐色土（地山ブロック少量混入）
7. 褐色土（地山ブロック混入）
8. 褐色土（地山ブロック多量に混入）
9. 明褐色土（地山ブロック混入）
10. 暗褐色土（地山ブロック混入）
11. 褐色土（地山ブロック混入）
12. 灰褐色粘土（地山ブロック混入）
13. 褐色土（（地山ブロック・酸化鉄混入）
14. 褐色粘土
15. 褐色粘土（地山粒子混入）
16. 青灰色粘土（地山ブロック多量に混入）
17. 明褐色土
18. 灰褐色土（酸化鉄混入）
19. 灰褐色土（地山粒子混入）
20. 明褐色土
21. 灰褐色土
22. 褐色土（地山ブロック混入）
23. 青灰色粘土（地山ブロック混入）
24. 青灰色粘土（地山ブロック多量に混入）
25. 黄褐色土（地山ブロック混入）
26. 灰褐色粘土（地山ブロック混入）
27. 灰褐色土（地山ブロック多量に混入）
28. 青灰色粘土（地山ブロック混入）
29. 明褐色土（地山ブロック混入）
30. 灰褐色粘土（地山ブロック混入）
31. 灰褐色粘土
32. 明褐色粘土
33. 褐色土
34. 灰褐色土（地山粒子混入）
35. 灰褐色土（地山粒子多量に混入）
36. 灰褐色粘土
37. 灰褐色土（酸化鉄混入）
38. 灰褐色粘土
39. 灰褐色粘土（地山ブロック混入）
40. 明褐色粘土
41. 灰褐色土（酸化鉄混入）
42. 灰褐色土
43. 青灰色土（酸化鉄多量に混入）
44. 青灰色土
45. 灰褐色粘土（地山ブロック多量に混入）
46. 青灰色土
47. 灰褐色土（地山ブロック多量に混入）
48. 灰褐色土
49. 橙色土（地山ブロック混入）
50. 褐灰色粘土（地山ブロック混入）
51. 灰褐色土
52. 褐灰色粘土
53. 明褐色土
54. 褐灰色土（地山ブロック多量に混入）
55. 青灰色粘土（地山粒子混入）

第77図　中世墓遺構図

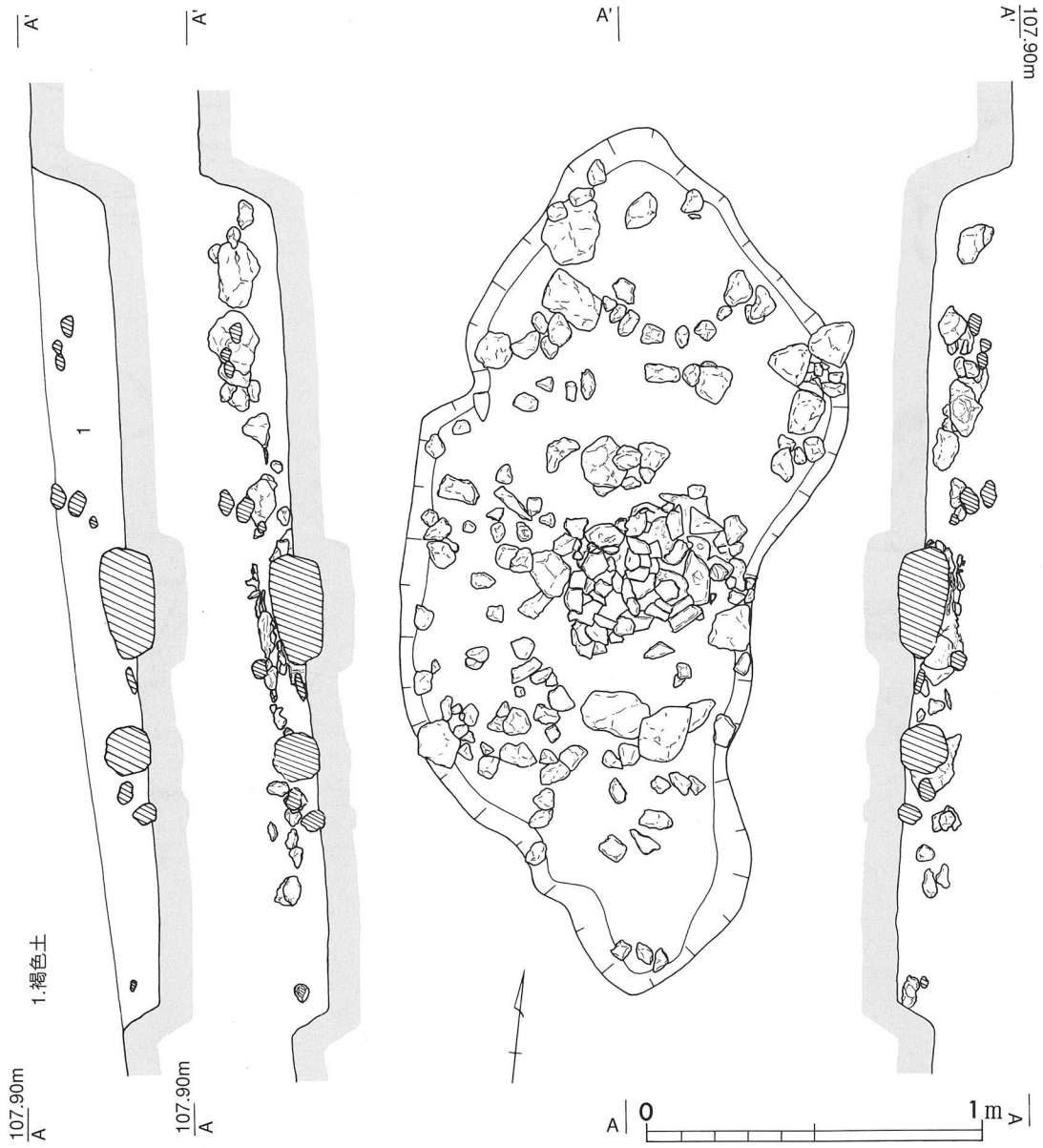
第78図　石段状遺構

中世墓（第77図）

大部分を欠損しているため詳細は不明であるが、方形状に二重に区画するタイプのもので、内郭と外郭の間に円礫を施す。内郭は10～20㎝の自然石を用い区画するが、北西角部分を残し大部分を欠損する。主体部は後世の溝に切られ残存しない。外郭は30～50㎝の平坦な自然石を用い区画する。南側部分が一部残存するのみで規模は不明である。遺物は土師質土器の小片で、時期の判断は難しいが、付近から五輪塔または宝篋印塔の一部が出土している。

石段遺構（第78図）

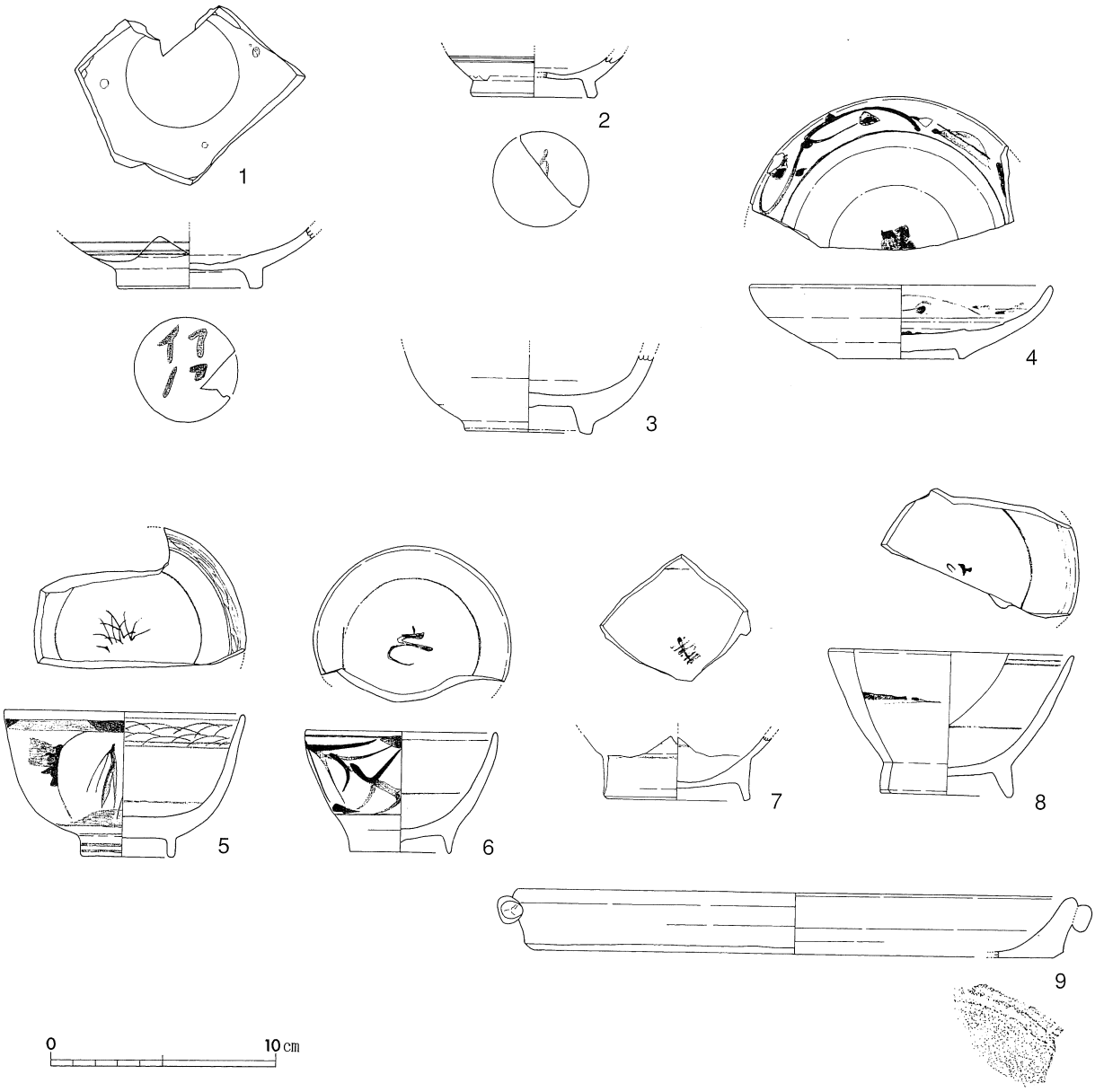
大溝03が埋没した後に造られた遺構で、30～60㎝程度の平坦な石を階段状に積み上げ、下部では石畳路状となっている。主軸はN～55°～Wであるが、土圧のため下部は大きく湾曲している。大溝03の埋没が15世紀頃と考えられ、付近から16世紀以降の遺物が出土していないことから、遺構は15世紀頃に造られたと推定される。SB01と併行することから参道の一部である可能性がある。




第79図　SK01遺構図

SK01（第79図）

SX03を破壊している土石流の上に残る遺構で、縦長2.59m、横幅1.35m、深さ約0.2mを測る。壁の立ち上がりは、北側で内湾気味に立ち上がった後外反気味となり、南側は外反気味に立ち上がる。出土遺物は近世陶器が中心で、肥前系磁器、布志名焼、石見焼、瓦質土器、陶胎染付、焙烙などが出土している。19世紀頃の遺構と考えられる。




第80図　SK01出土遺物

SK01出土遺物（第80図）

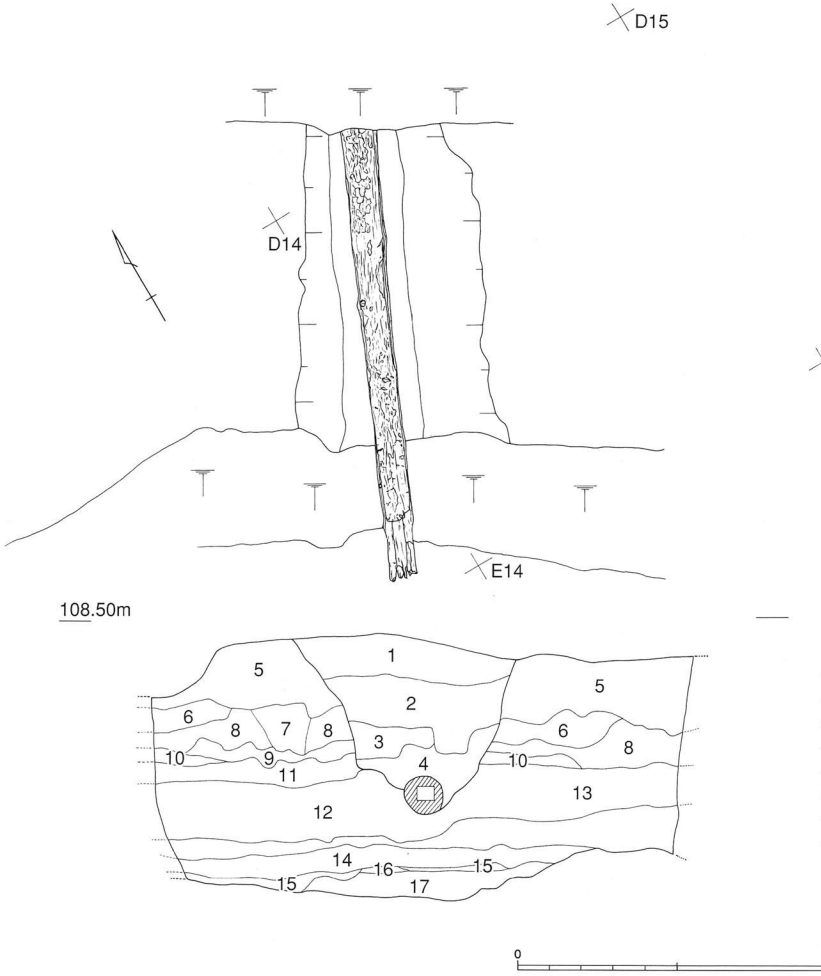
第80図1、2は墨書陶器で、墨書は付近に最近まで「飯国（いいぐに）」姓の旧家があったことから、旧家に関連した内容である可能性がある。1は内外面ともに施釉するが、底部は露胎にしている。高台は削り出し、高台見込は回転ヘラ削りにより、高台外側よりも深く抉っている。高台見込には墨書が施される。口縁部は内湾気味に立ち上がり、内面見込はやや凹ませ、胎土目積の痕跡が3か所残る。2は内外面ともに施釉し、底部を露胎にする。高台は削り出し、高台見込は回転ヘラにより、高台外側よりも深く抉っている。高台見込には墨書が施され、片仮名のイの文字が見える。内面見込には砂が付着し、砂目積みを施している可能性がある。3は陶胎染付で、内外面ともに施釉するが、高台畳付は釉を掻き取って露胎にしている。高台見込は高台外側よりも深く抉られ、口縁部は内湾気味に立ち上がる。外面には1条の線を染付している。4～8は肥前系染付である。4は皿で、内外面ともに施釉するが、高台畳付の釉は掻き取られ、内面見込には蛇ノ目釉ハギが施される。内面器壁には唐草文が、内面見込中央には五弁花文が染付されている。口縁部は高台から外反気味に立ち上がった後内湾し、端部は丸く仕上げられている。5～8は碗で、内外面ともに染付を施し全面施釉した後、高台畳付の釉を掻き取る。5は口縁部は内湾しながら立ち上がった後、外方に直線的に立ち上がる。端部は丸みを帯びている。6は小碗で、口縁部は高台から外反気味に立ち上がり内湾する。端部は尖り気味に仕上げられている。7、8は広東碗で、7は大型の高台を持ち、口縁部は外方に直線的に伸びる。内面見込に形骸化された「寿」が染付される。8も大型の高台を持ち、口縁部はやや内湾気味に立ち上がるものの、外方に直線的に伸び、端部は尖り気味に仕上げる。9は瓦質の焙烙で、囲炉裏を前提に底部を平坦に仕上げる「地域農村型」とされるタイプである。内外面ともに炭素を吹き付け、底部にはチヂレ目を施す。底部と器壁の間を面取りし、口縁部は外方に直線的に立ち上がって、端部を丸く仕上げる。口縁部外側両端に粘土紐を貼り付け取手を作っている。

木樋（第81図）

縦長2.8m以上、横幅、肥厚ともに0.2m以上の丸太状のタイプで、蓋になる部分を断ち割り、身の部分を凹状に刳り込んで再び蓋をしている。遺物は出土していないが、15世紀の遺構面より高く、木樋の形態としても新しいタイプのものと考えられる。木樋を埋める溝は、壁の立ち上がりが東側で内湾しながら立ち上がった後外反気味となり、西側では外反しながら立ち上がる。

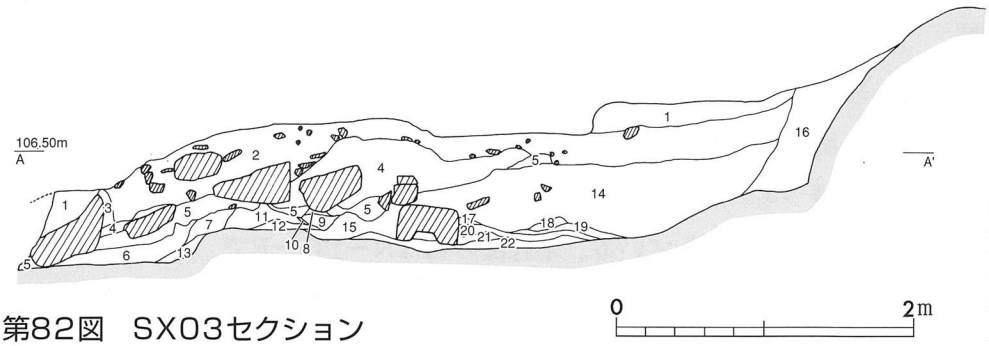
SX03（第82～83図）

斜面を切土造成して平坦面を造り、正方形状の切石を一直線状に並べ、その上に60㎝程度の自然石を3段から4段上積みしている。上積みされた石の中には梵字が陰刻されたものが含まれていた。基底部の切石は底部に方形状の凹みを持つもの、凸部を持つもの、平坦面を呈するものの3種類が認められ、五輪塔または宝篋印塔の地輪が再利用されている。基底部の軸はN～13°～Eで、南側は自然石の上積みが土圧により崩壊している。第82図1～16層は土石流による堆積層で焙烙片が多量に出土する。17～21層は意図的に貼ったものである可能性があり、遺物は焙烙片を含んでいる。22層は切石を設置した時の面で、切石の下から15世紀の遺物が2点出土している。



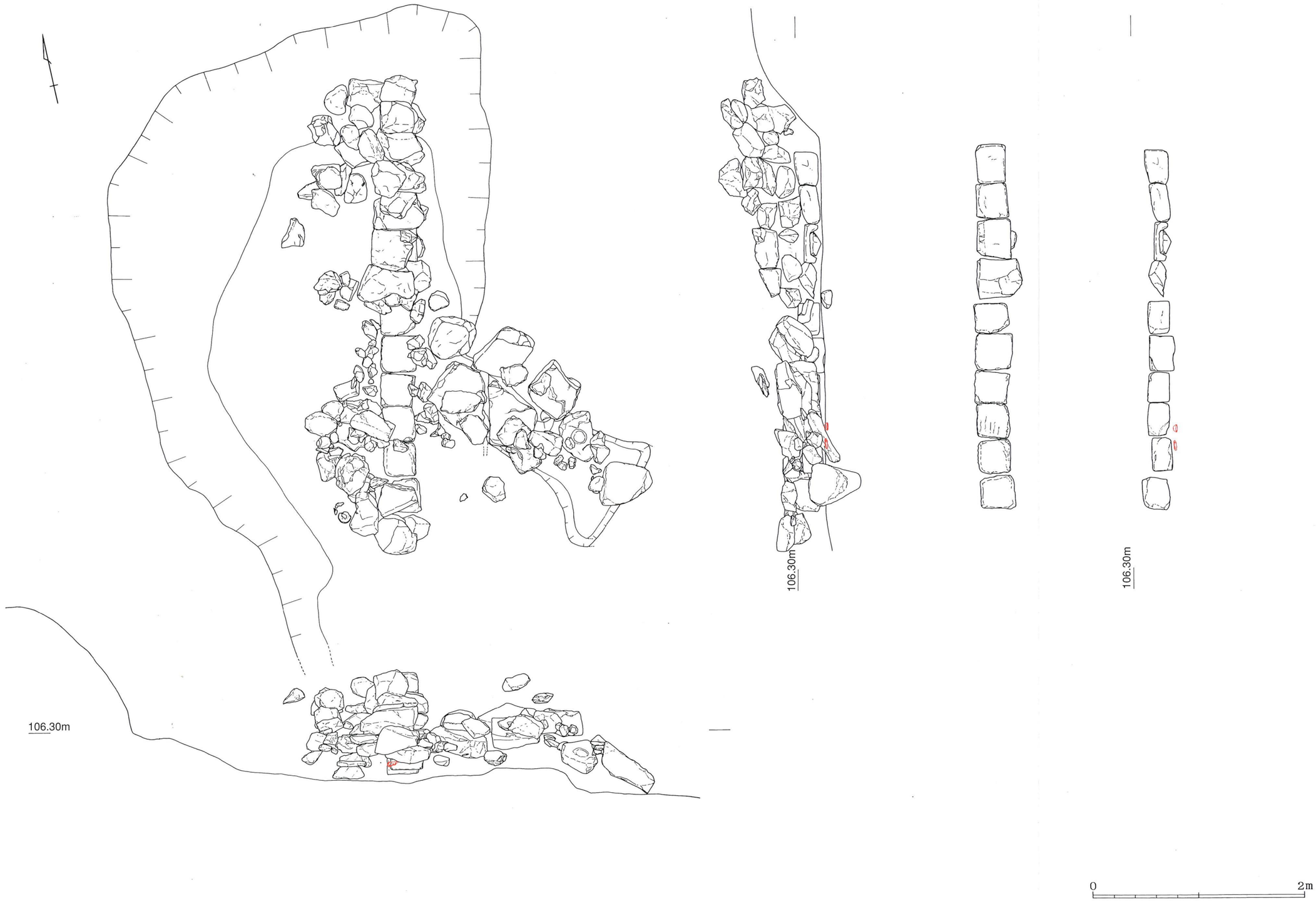

木樋土層
1. 淡橙色粘土（地山ブロック混入）
2. 明黄色粘土（地山ブロック多量に混入）
3. 淡赤褐色土（地山ブロック混入）
4. 青灰色粘土（地山ブロック少量混入）
5. 明褐色土
6. 灰褐色土（地山ブロック混入）
7. 灰褐色土（地山ブロック（大）混入）
8. 灰褐色土（地山ブロック・酸化鉄多量に混入）
9. 灰褐色土（地山ブロック多量に混入）
10. 青灰色粘土
11. 青灰色粘土（地山ブロック混入）
12. 青灰色粘土（地山粒子混入）
13. 明褐色粘土
14. 青灰色砂質土
15. 褐色土（有機物多量に混入）
16. 褐色砂質土
17. 青灰色砂質土（礫混入）

第81図　木樋遺構図

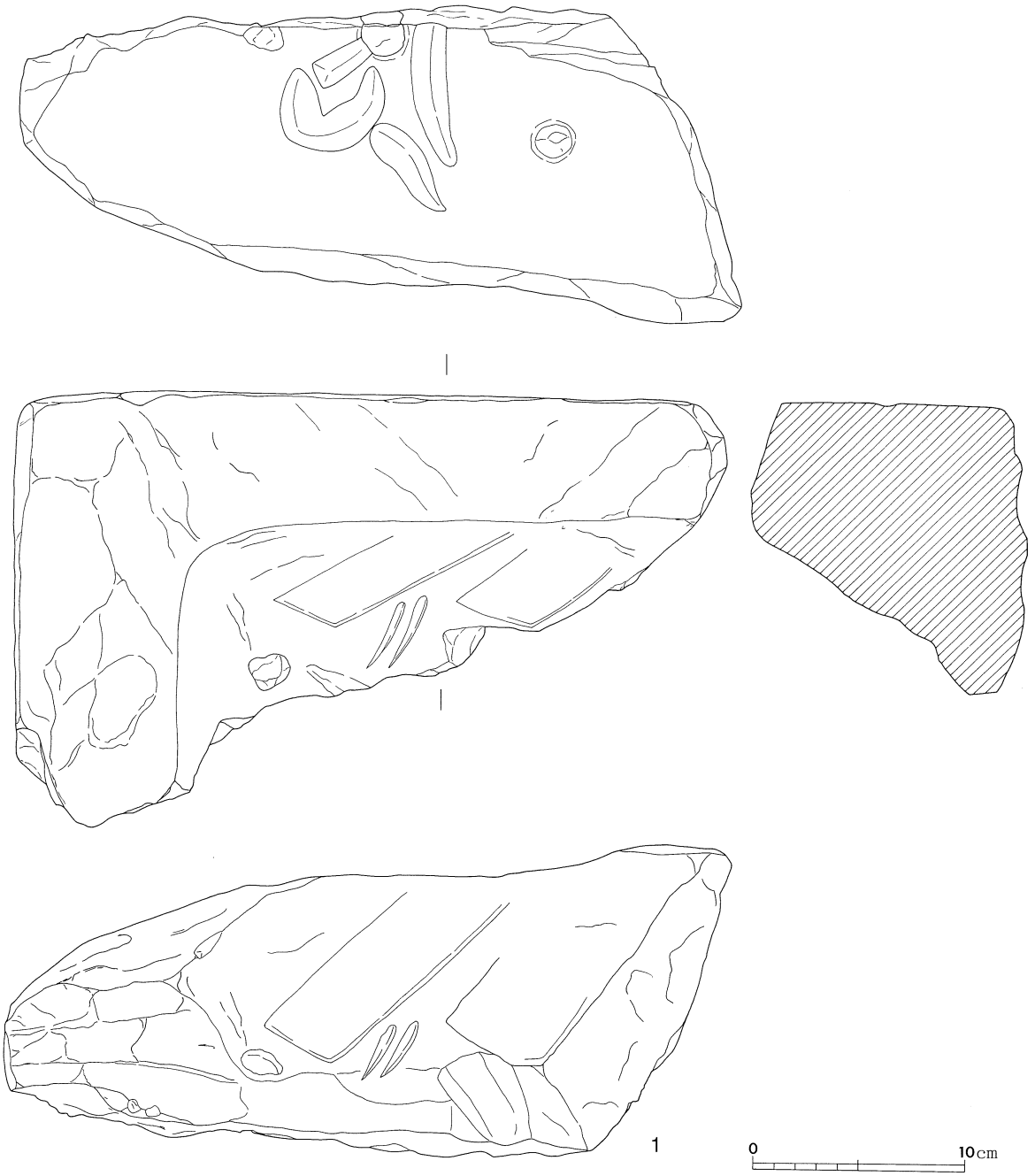



SX03土層
1. 褐色土
2. 褐色土（礫多量に混入）
3. やや暗い褐色土
4. 明褐色土
5. 明褐色粘土
6. 褐色土（礫多量に混入）
7. 明褐色土
8. 橙褐色土
9. 灰褐色土
10. 黄褐色土
11. 灰褐色土（地山ブロック混入）
12. 黄褐色粘土
13. 灰褐色砂質土
14. 灰褐色土
15. 明褐色土（地山粒子混入）
16. 赤褐色土
17. 青灰色粘土
18. 暗褐色粘土
19. 褐色土
20. 暗褐色粘土
21. 明褐色土
22. 明褐色土（礫混入）

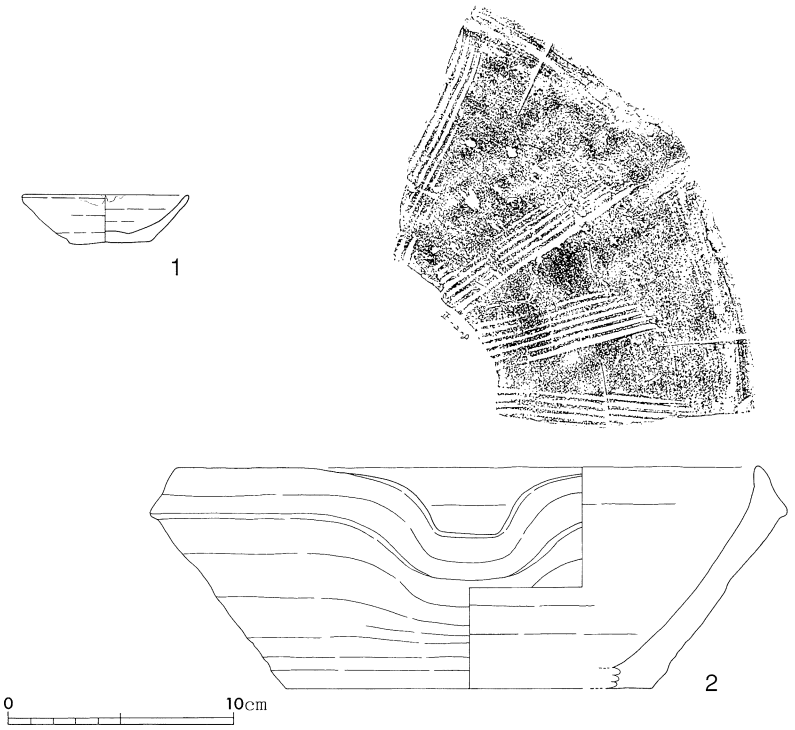
第82図　SX03セクション




第83図　SX03遺構図




第84図　SX03出土遺物




第85図　SX03出土遺物

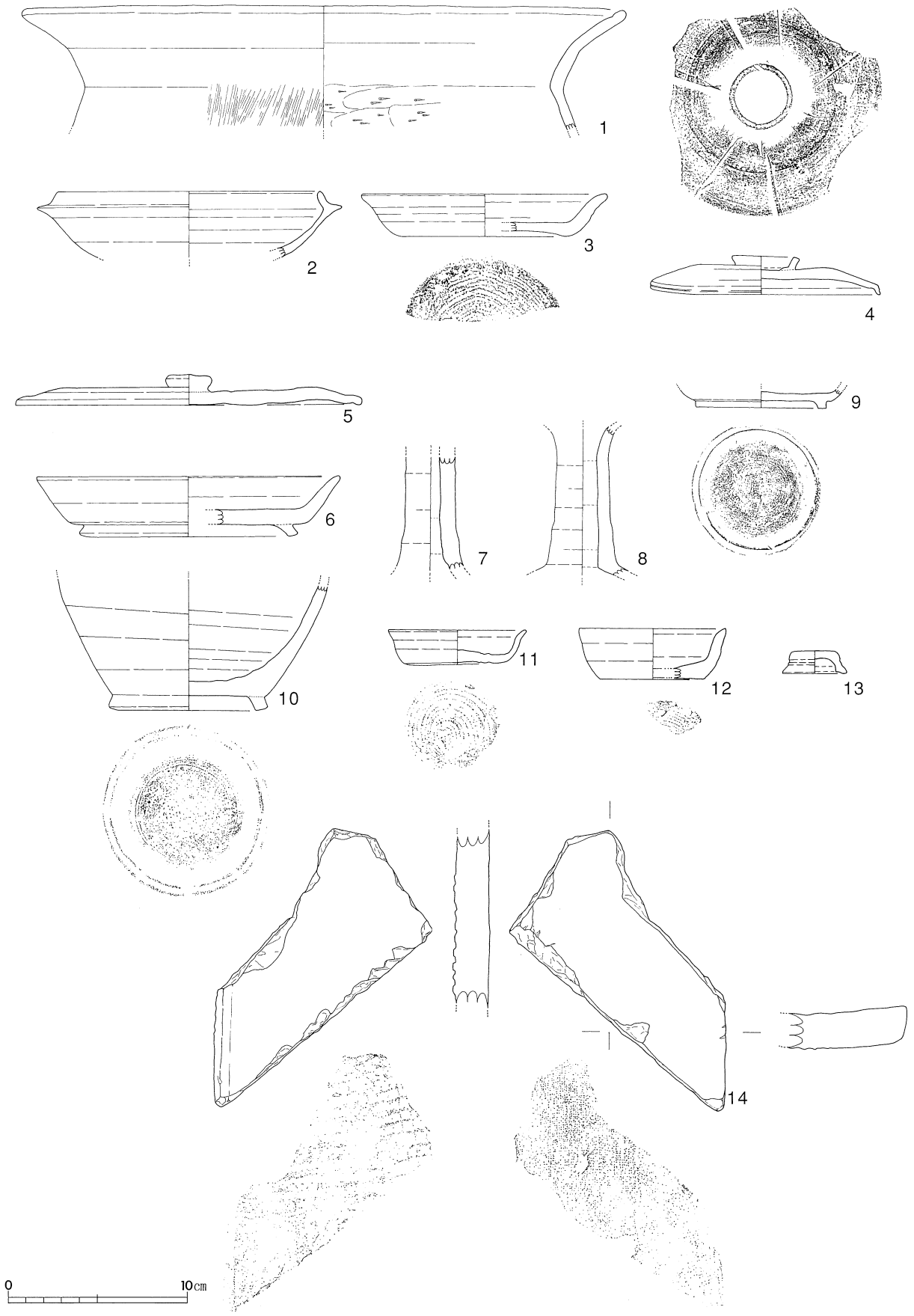
SX03出土遺物（第84～85図）

第84図1は凝灰岩製石製品の一部で、片面に梵字を施す。反対側は大きく繰り込まれ、2種類の加工痕が残る。

第85図1は灯明皿で、内外面にタールが付着する。内外面ともに回転ナデを施すが、底部は風化のため調整不明である。口縁部は外方に直線的に伸び、端部はやや肥厚して尖り気味に仕上げる。2は備前の擂鉢で、乗岡実氏の中世4期（15世紀前半頃）の遺物である。内外面ともにナデ調整し、内面には擂目を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部は肥厚して平坦面を作り、内側先端部が発達している。先端部はやや丸みを帯びる。

包含層出土遺物（第86～93図）

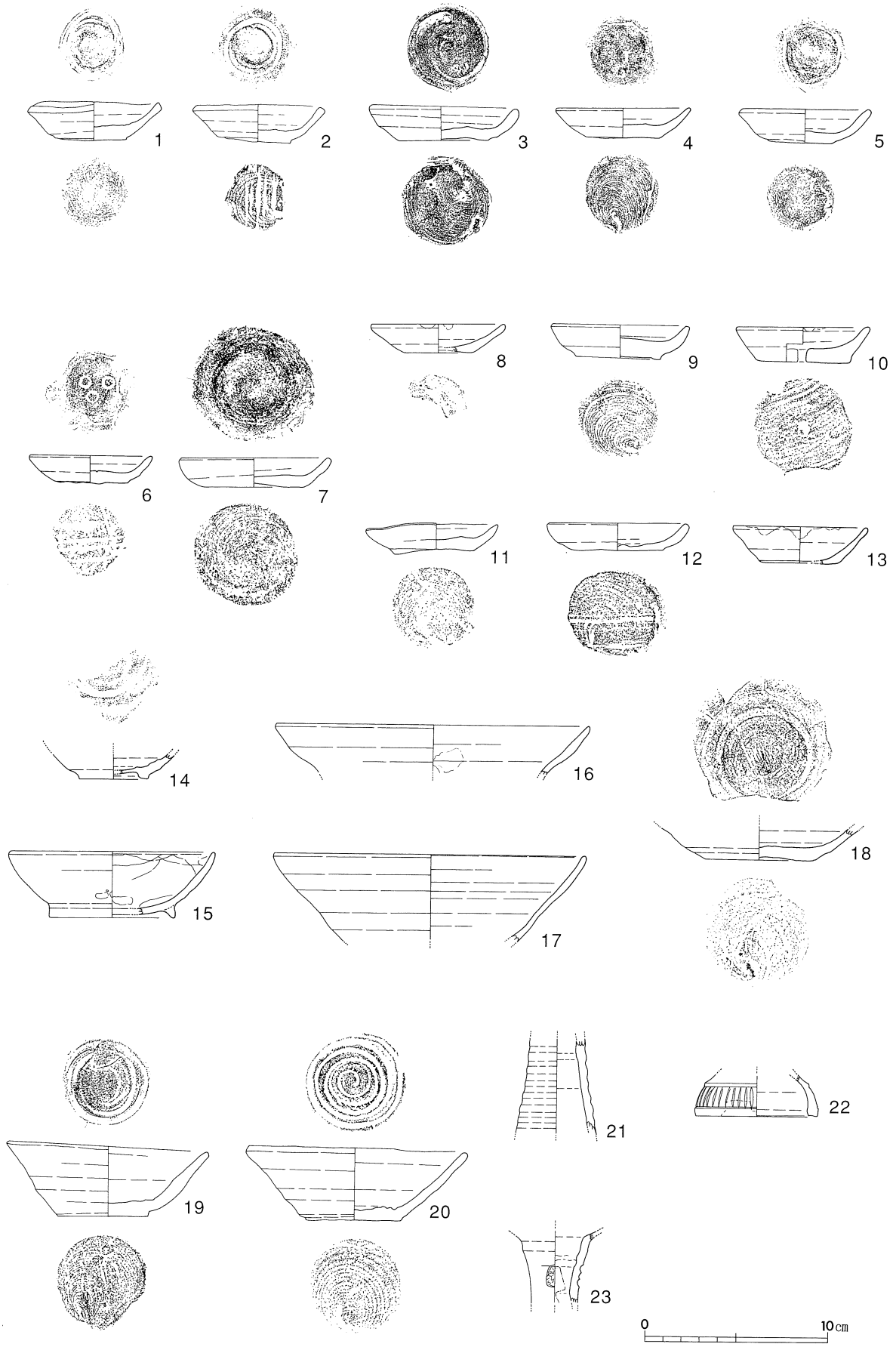
第86図1は土師器で、口縁部をナデ調整し、体部外面にハケ目、体部内面にヘラ削りを施す。口縁部はやや屈曲気味に外反し、端部は反対側にやや屈曲して丸く仕上げる。2～13は須恵器である。2は蓋坏の身で、内外面ともに回転ナデを施す。口縁部は内湾しながら立ち上がった後外反する。内側にはかえりが付く。3は皿で、内外面ともに回転ナデを施し、内面見込をナデ調整する。底部には回転糸切痕が残る。口縁部は内湾気味に立ち上がり外反する。端部は丸く仕上げる。4、5は蓋で、内外面ともに回転ナデ調整するが、4は天井部は回転糸切の後、輪状摘みを付け回転ナデ調整している。5は扁平な宝珠状摘みを付け、天井部が接地するほど平坦なタイプである。6は高台付坏で、内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込に粗い回転ナデ、底部に回転糸切を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。7、8は瓶類の頸部で、いずれも内外面回転ナデを施す。7の外面には自然釉が多量に付着する。9は坏で、内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込にナデを施



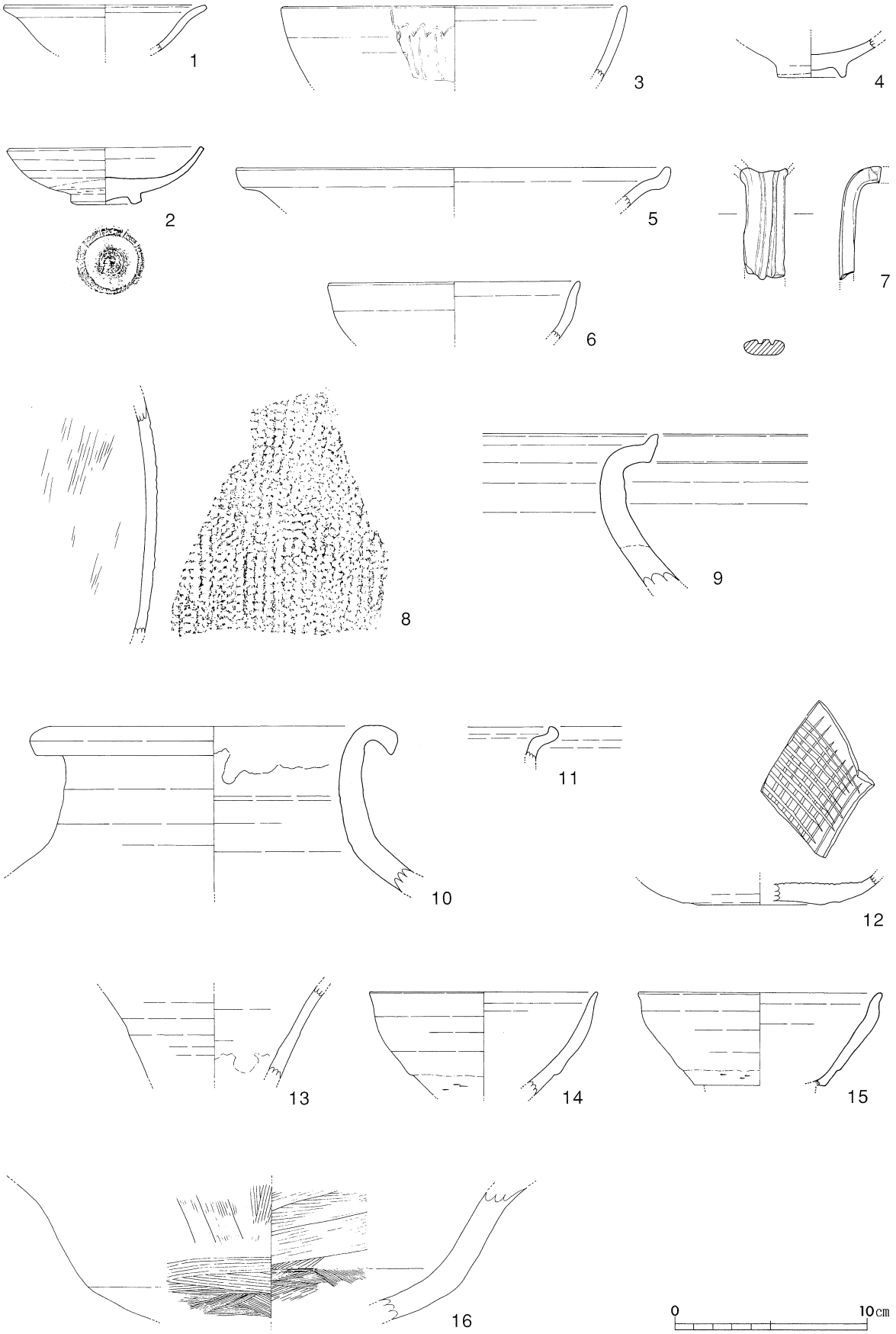

第86図　遺物包含層出土遺物（1）

す。高台見込に「法物」のヘラ描きが残る。10は瓶類の底部で、内外面ともに回転ナデ調整し、底部は回転糸切後、高台を貼り付けている。立ち上がりは内湾気味である。11、12は灯明皿で、内外面ともに回転ナデ調整し、底部には回転糸切痕が残る。口縁部は内湾気味に立ち上がった後外傾し、端部は尖り気味に仕上げている。11は口縁部が薄手のタイプ、12は厚手のタイプである。13は小型のキャップ状を呈するが、輪状摘みの可能性もある。内外面ともに回転ナデ調整している。14は布目平瓦で、表面に布目、裏面に格子タタキを施している。

第87図1～20は土師質土器である。1～13は小皿で、1、2は内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデの後ナデを施す。底部には回転糸切痕の後板目が残る。1は底部と器壁の界線を明確にした後、口縁部は外方に直線的に立ち上がる。端部は肥厚し平坦面を作り、平坦面内側が尖り気味に仕上げられている。2は底部と器壁の界線を明確にした後、口縁部は内湾気味に立ち上がった後、外方に直線的に伸びる。端部は肥厚し平坦面を作る。3、4、7は内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込には渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕が残る。3は口縁部は外反気味に立ち上がった後、内湾しながら立ち上がり、端部は肥厚し丸みを帯びる。4は外反気味に立ち上がった後、内側にやや屈曲して外方に直線的に伸びる。端部は丸みを帯びる。7は灯明皿で、内湾気味に立ち上がり、端部は肥厚して平坦面を作る。5は内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕の後板目が残る。底部は一段作られ、口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は平坦気味に仕上げる。6は内外面ともに回転ナデ調整し、底部に回転糸切痕の後板目を施す。内面見込に竹管状のスタンプが3つ入る。口縁部は外反気味に立ち上がり、内側にやや屈曲して外方に直線的に伸びる。端部は尖り気味に仕上げている。8は灯明皿で、内外面にタールが付着する。内外面ともに回転ナデを調整し、内面見込は欠損している。底部には回転糸切痕が残る。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げる。9は底部が厚いタイプで、内外面ともに回転ナデ調整するが、内面見込は風化のため調整不明である。底部には回転糸切痕が残る。口縁部は外反した後内湾し、端部は平坦気味に仕上げる。10は底部穿孔の灯明皿で、口縁部内面にタールが付着する。内外面ともに回転ナデを施し、底部には静止糸切を施している。口縁部は外方に直線的に伸び、端部は尖り気味に仕上げている。11、12は内外面ともに回転ナデ調整し、底部に回転糸切を施す。11も灯明皿で、口縁部にタールが付着する。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。12は内湾しながら立ち上がり、端部は平坦に仕上げる。13は灯明皿で、口縁部内外面にタールが付着する。内外面ともにタールが付着するが、内面見込は欠損し、底部は風化のため調整不明である。口縁部は外方に直線的に伸び、端部はやや肥厚して丸く仕上げる。14、15は高台付坏で、14は内外面ともに回転ナデを施し、内面見込には渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切の後ナデを施している。口縁部は内湾気味に立ち上がる。15は灯明具で、内外面にタールが付着する。外面にナデ、内面にミガキを施す。高台は貼り付けで、口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部は丸く仕上げている。16～20は坏である。16、17は口縁部で、内外面ともに回転ナデを施す。16は灯明具で、内面にタールが付着する。口縁部は外反気味に立ち上がった後、内側にやや屈曲して外方に直線的に伸びる。端部は尖り気味に仕上げている。17は内湾気味に立ち上がった後、外反して内湾気味となる。端部は丸く仕上げている。18は底部で、内外面ともに回転ナデ調整し、底部には回転糸切を施




第87図　遺物包含層出土遺物（2）




第88図　遺物包含層出土遺物（3）

す。底部内外面に爪の刺突痕が残る。口縁部は内湾気味に立ち上がった後外反気味となる。19は内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施してナデている。底部には回転糸切痕の後板目が残る。底部は一段形作られ、口縁部は内湾気味に立ち上がり外反する。端部は尖り気味に仕上げている。20は内外面ともに回転ナデ調整し、内面見込に渦巻状の粗い回転ナデを施す。底部には回転糸切痕が残る。口縁部は底部を一段形作った後、外方に直線的に立ち上がる。端部は丸く仕上げている。21、22は青白磁で、21は外面を施釉し、内面は露胎にしている。外面には7条の凹線が残る。22は合子の蓋である。外面は施釉しているもののムラが多く、内面は露胎にしている。外面には陽刻状の文様を施し、接地面は平坦気味に仕上げている。23は白磁の水注の頸部で、内外面とも施釉するが内面の一部に露胎が残る。外面には耳の接合痕が残る。立ち上がりは外反気味に立ち上がった後外傾する。

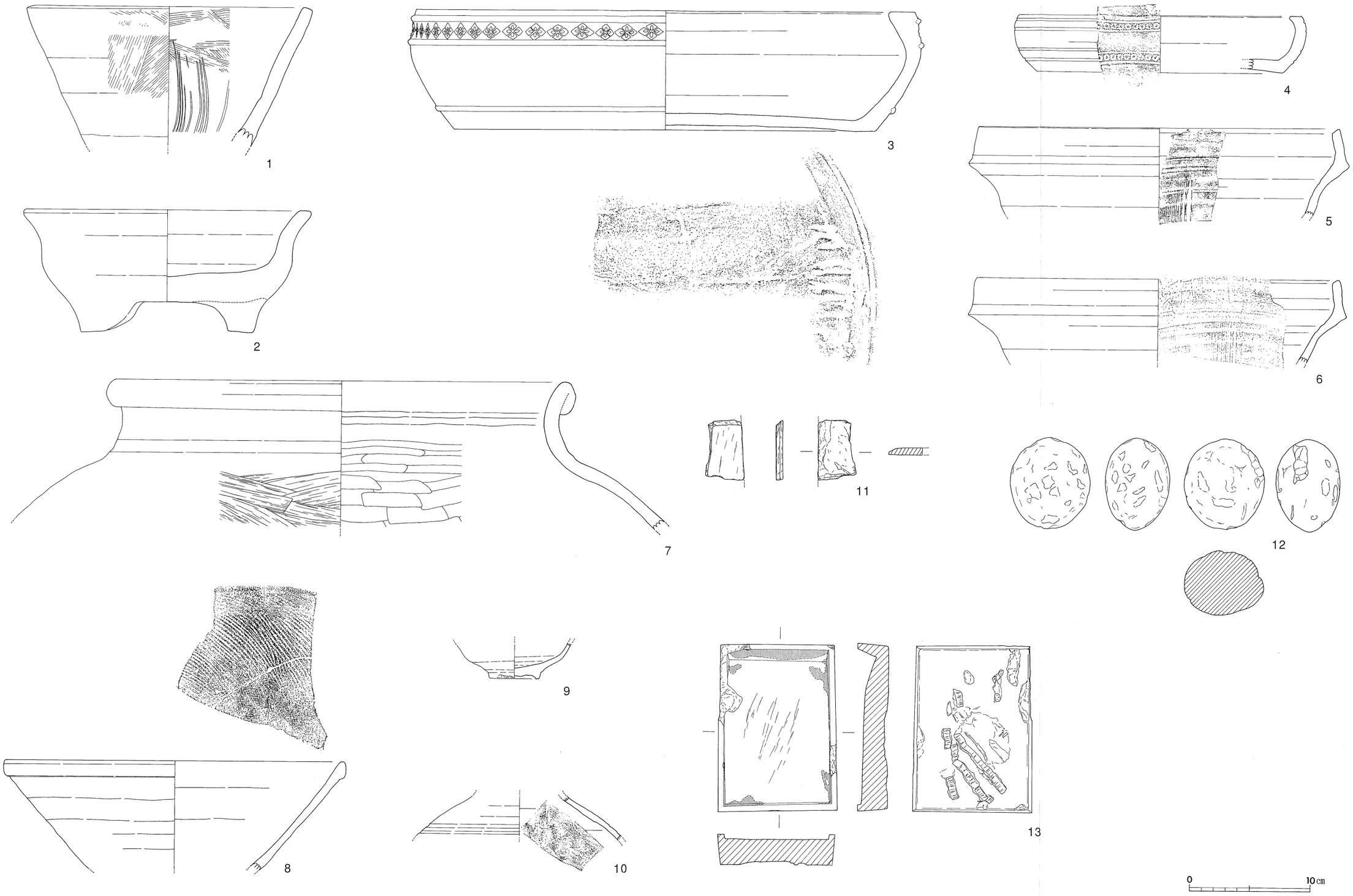
第88図1、2は白磁である。1は口禿のもので、内外面ともに施釉する。口縁部は内湾気味に立ち上がった後外傾する。2は底部を回転ヘラで削り出し、底部以外には施釉している。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は平坦に仕上げられている。15世紀前半頃の遺物と考えられる。3～5は青磁である。3、4は碗で、3は外面に蓮弁を形骸化させた線描が施されている。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。15世紀末頃の遺物と考えられる。4は内外面施釉し、高台畳付の釉を掻き取る。口縁部は内湾気味に立ち上がる。断面には漆接の漆が付着する。13世紀末14世紀中頃の遺物と考えられる。5は内外面ともに施釉し、口縁部は外方に直線的に立ち上がった後、外側に屈曲して内湾する。端部は丸みを帯びる。断面に漆接の漆が付着する。13世紀末～14世紀頃の遺物と考えられる。6は中国製天目茶碗の口縁部で、内外面施釉し口縁部は内湾しながら立ち上がった後外傾する。端部は尖り気味に仕上げている。7は中国陶器の水注の取手で、内外面ナデ調整し外面には2条の凹線が施される。第62図6と接合関係が見られた。8は亀山甕を模した遺物で、外面に格子タタキ、内面にハケ目を有する。9は常滑系陶器で、中野晴久氏の常滑5期（13世紀前半）の遺物である。粘土紐の巻き上げで作り、内外面ナデ調整している。口縁部は外反した後、外側上方に突き上げるように仕上げている。端部は尖り気味に仕上げる。10は常滑系陶器の壷で、内外面ともにナデ調整し、体部内面には粗いナデを施す。口縁部は内傾気味に立ち上がった後、大きく外反して尖り気味の端部が下方を向く。口縁部及び肩部に多量の自然釉が付着する。越前系の可能性もある。11～13は瀬戸の灰釉陶器である。11は折縁皿で、藤澤良祐氏の瀬戸後Ⅲ期（15世紀前半頃）またはⅣ期古段階（15世紀中頃）の遺物である。内外面ともに施釉し、口縁部は外反しながら立ち上がった後内傾する。端部は尖り気味である。12は卸皿で、内面見込に卸目を施す。底部には回転糸切を施し、器壁に釉が施されている。13は花瓶で、内外面ともに施釉するが、内面に一部露胎が残る。口縁部は外反気味に立ち上がる。14、15は瀬戸の天目茶埦で、内外面ともに施釉し外面底部に露胎を残す。14は外方に直線的に立ち上がった後内湾し、端部でやや外反して尖り気味に仕上げる。15は外方に直線的に立ち上がった後、上方に屈曲して外傾する。端部は尖り気味に仕上げる。16は在地の土鍋で、内外面にハケ目を施す。口縁部は外側に直線的に伸び外反する。

第89図1～4は在地の土器である。1は擂鉢で、内外面にハケ目、ナデを施し、内面に擂目を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部は平坦に仕上げる。2は火鉢で、内外面ともにナデ調整し、

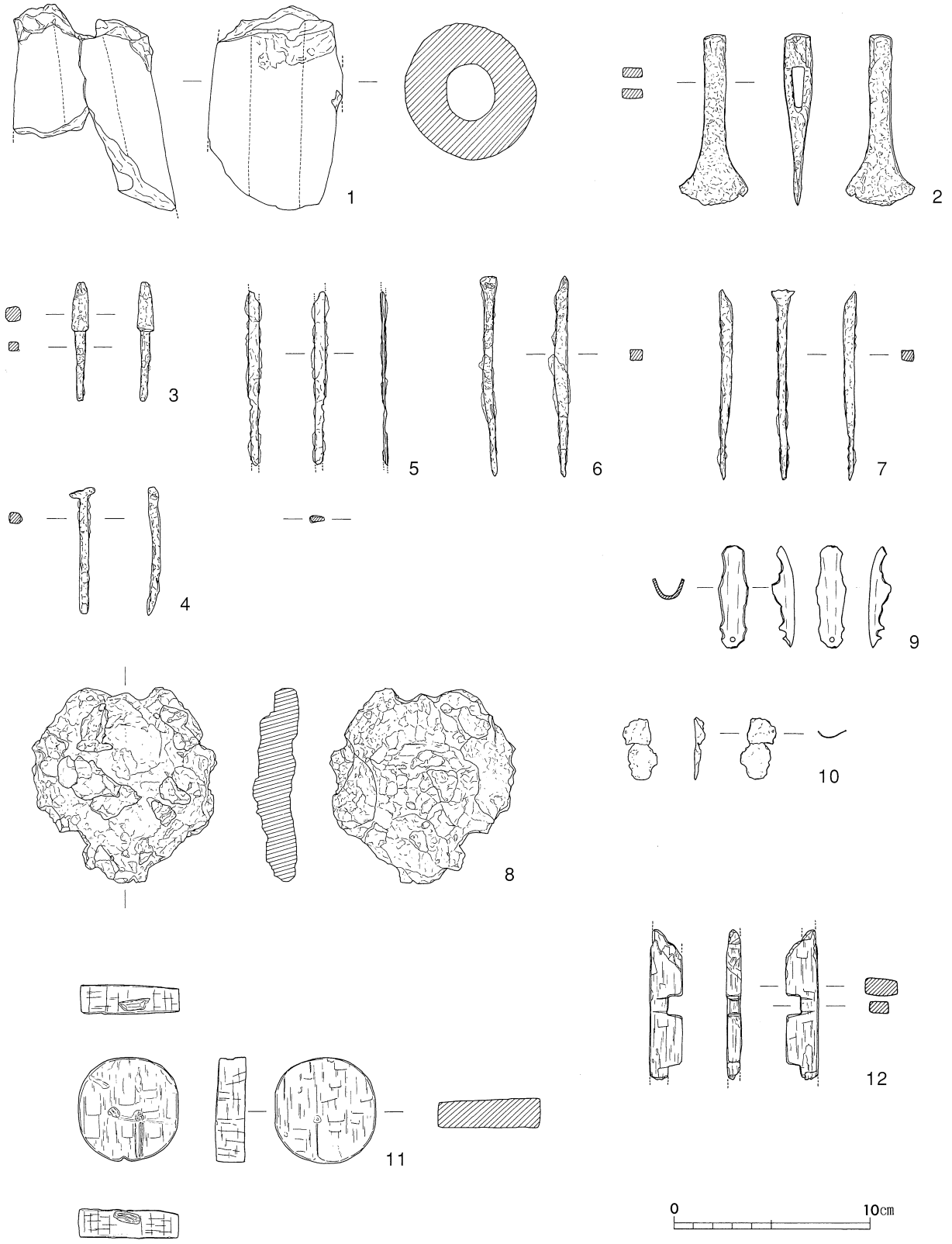
底部に3本の脚を貼り付ける。口縁部は内湾気味に立ち上がった後外反し、端部に平坦面を作る。3は奈良火鉢で、内外面ともにナデを施し、底部には板目を残す。外面には3条の凹線に粘土紐を貼り付け陵を形成し、うち2条の陵の間に四菱のスタンプ文を施している。口縁部は内湾気味に立ち上がり、内側に屈曲気味に湾曲して肥厚させている。端部は平坦面を作る。4は香炉で、内外面ともに回転ナデ調整し、体部外面には2条2列の沈線を施す。各列内側にはスタンプ文が連続して施される。口縁部は内湾しながら立ち上がり袋状となる。端部は平坦に仕上げている。5～7は備前で、5、6は擂鉢である。乗岡実氏の中世5期の遺物である。5、6は内外面ともに回転ナデ調整し、体部内面に擂目を施す。5は口縁部は内湾気味に立ち上がった後外反し、内側に屈曲して内傾する。端部は平坦面を作るが、平坦面外側がやや尖り気味に仕上げられている。第72図12と接合関係にある。6は口縁部は内湾気味に立ち上がった後、やや屈曲気味に外反し、内側に屈曲して内傾する。端部は平坦面を作るが、平坦面外側がやや尖り気味に仕上げられている。7は甕で、肩部外面にハケ目、肩部内面に粗いナデ、口縁部にナデ調整が施される。口縁部は外反しながら立ち上がった後外側に丸く折り込まれる。8は瓦質擂鉢で、口縁部にナデ、体部外面に粗いナデ、体部内面にナデの後擂目が施される。口縁部の立ち上がりは外方に直線的で、端部は肥厚し丸く仕上げている。9は紛青紗器で、内外面回転ナデ、高台見込に回転ヘラを施した後施釉する。口縁部は外反気味に立ち上がった後やや内側に屈曲して、外方に直線的に伸びる。10は李朝または古唐津の徳利の肩部で、外面は回転ナデ調整の後2条の沈線を施す。11は砥石で、一面のみ砥面に使用している。12は石器であるが、全面風化のため詳細は不明である。13は赤間硯で、壁面は外方に直線的に立ち上がる。表面に墨、裏面にノミ痕が残る。

第90図1は羽口である。内外面ナデ調整し、一端に本体との接合痕が残る。2～7は鉄製品である。2は側面に柄を入れる孔を作り、扇状の歯を持つものであるが、時期は不明である。3は鏃で、先端部は欠損しているが、肥厚し数面の面を作る。柄側は細く断面方形状に加工している。4、6、7は鉄釘である。4、6は断面方形状を呈し、4は叩部をT字形に加工する。6は叩部は先端部に至るほど薄く広がる。7は断面いびつな方形状を呈し、先端部に至るほど薄く広がる。5は用途不明のもので、歯を持たない扁平な遺物である。両端ともに欠損している。8は鉄滓で、片面中央に凹みが見られ、反対側中央はやや突出する。9、10は銅製品である。9はやや捻れているが、もとは左右対称に作られた遺物と考えられる。一端に孔を穿ち、反対側は大きく内側に湾曲する。10は銅板状の遺物であるが、詳細は不明である。11、12は木製品である。11は円盤状の板で、表面に孔を穿ち、側面にホソ穴状の繰り込みを施す。12は障子の骨木の可能性がある遺物で、側面片側に3か所以上の繰り込みを施す。

第91図1は近世の灯明皿で、口縁部外面にタールが付着する。内外面ともに施釉するが、底部は露胎にしている。口縁部は底部でやや膨らみを持った後、外方に直線的に立ち上がる。2は絵唐津で、外面に文様または文字を施す。口縁部は内湾しながら立ち上がった後、やや外方に直線的に伸び外傾する。端部は尖り気味に仕上げる。3は墨書陶器である。内外面ともに施釉するが、底部を露胎にして墨書を施す。口縁部は内湾しながら立ち上がる。4は「都市近郊型」とされている土師質の焙烙である。内外面ともにナデ調整し、底部にはチヂレ目を施す。薄い丸底の底部と器壁の界線は肥厚し明確で、口縁部は直立気味に立ち上がる。端部は肥厚し丸く仕上げている。5は窯道具で、外面をナデ及びミガキで成形する。若干の釉が付着する。



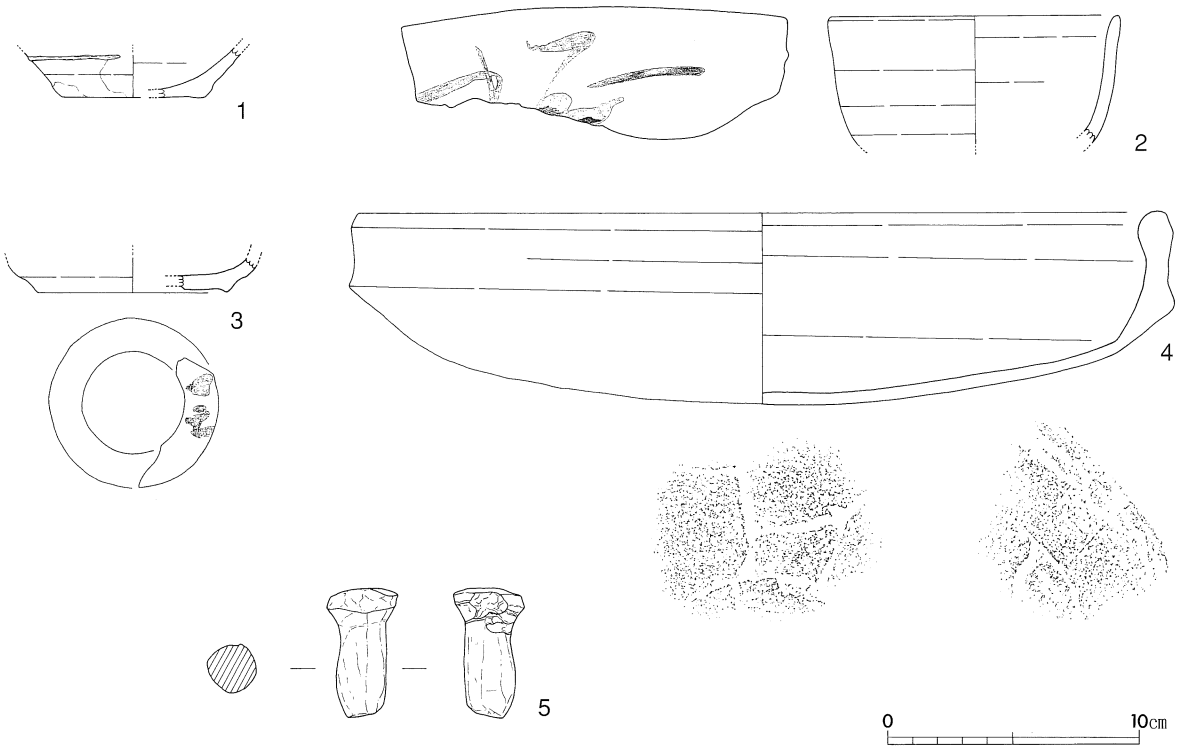

第89図　遺物包含層出土遺物（4）



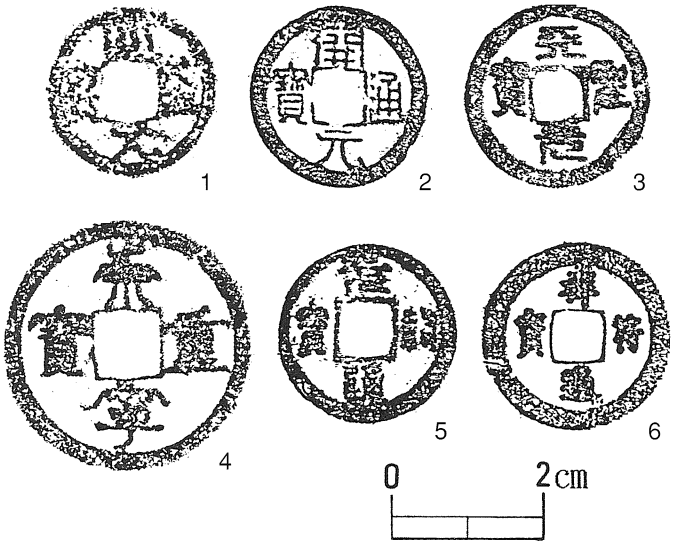

第90図　遺物包含層出土遺物（5）

第92図1、2は開元通寶で、1は磨耗が著しいが、2は外枠、銭文ともに明確で、中央孔枠の切れが4辺とも確認できる。3は篆書体の天聖元寶で、初鋳は1023年である。4は崇寧重寶当十銭で、初鋳は1103年である。5は篆書体の元豊通寶で、初鋳は1078年である。外枠がややいびつに作られている。6は祥符通寶で、初鋳は1009年である。銭文が小さく外枠が広く作られる。

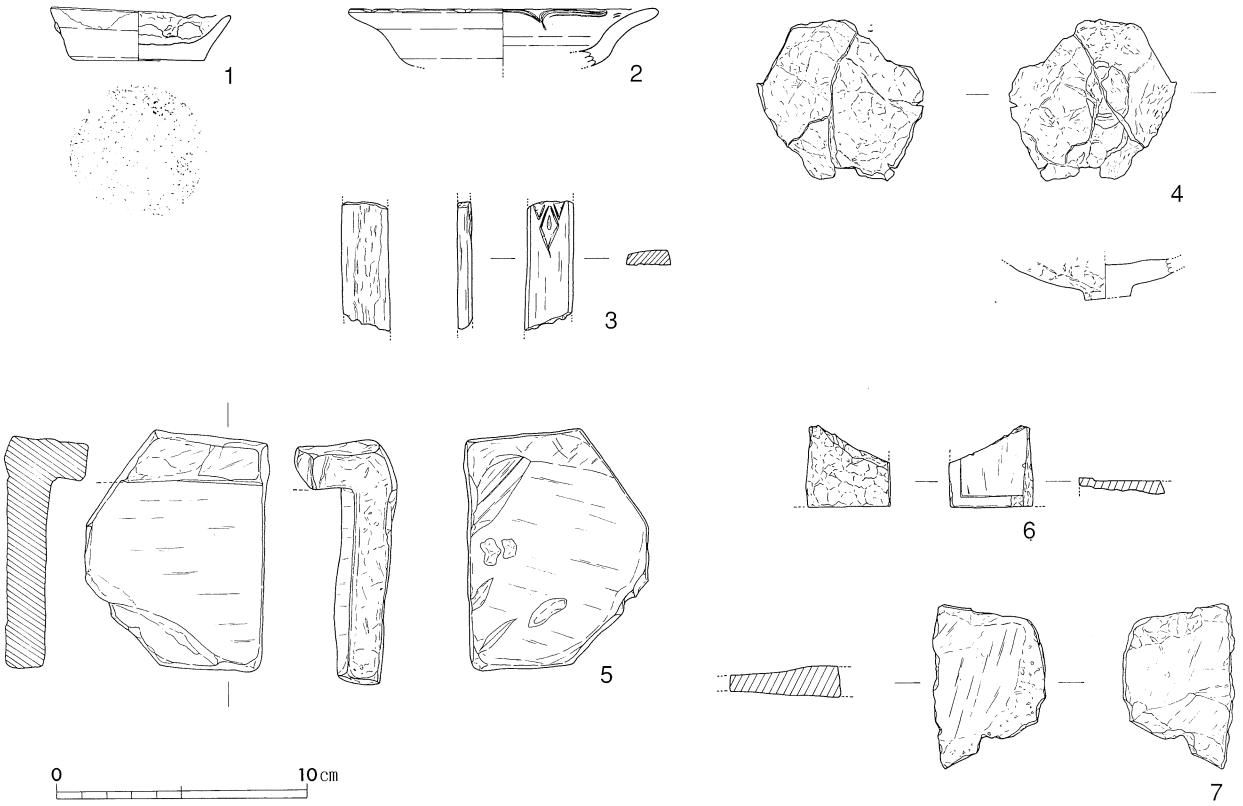
第93図1は灯明皿で、内外面にタールが付着する。内外面ともに回転ナデ調整し、底部には回転糸切痕が残る。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げる。2は青磁稜花皿で、内外面ともに施釉し内面に文様を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がった後屈曲して外反する。端部は丸く仕上げるが、数か所を削って花弁を表現している。3は竹製の飾板で、片面に四菱文を陰刻する。4は鉄鍋の底部で、底部にへそ状の突起を有する。欠損が著しく詳細は不明である。5は石製品で、表裏ともに丁寧に加工され、片側でL字に折れ曲がる。用途は不明である。6は石硯の陸の一部である。墨は残存していなかった。7は砥石で、2面を砥面として使用する。磨耗が著しく使用の頻度は高かったと考えられる。




第91図　遺物包含層出土遺物（6）




第92図　遺物包含層出土遺物（7）




第93図　遺物包含層出土遺物（8）

## 小　結

調査の結果、遺跡は3度の興隆期の中でも中世に最盛期を迎え、切土、盛土造成により造られた平坦地に、掘立柱建物跡1棟、石敷基礎の建物跡1棟、池状遺構、石段遺構などが確認された。遺物については13～15世紀の幅があるが、検出された遺構の時期は15世紀を中心にしているものと考えられる。

これらの遺構については、「五具足」などの出土から寺院関連と考えられる。SB01は柱根を残す掘立柱建物で、柱間は内陣、脇陣、外陣を形作り、建物前方には角塔婆の柱穴の可能性がある遺構が確認されている。付近には浄土宗般若寺があり、内部構造等に類似点も見られる。この遺跡が般若寺の系譜であるかは不明であるが、遺跡の頃には何らかの寺があったと考えられる。

一方、遺跡の最初の興隆期である7～9世紀頃の建物は検出できなかったが、鉄鉢形須恵器が出土していることから、この頃にも付近に寺院関連の建物があった可能性がある。遺跡中央を縦断する大溝03の上流からもこの時期の遺物が出土するので、北側に遺跡がさらに拡大する可能性がある。隣接地は急斜面であるが、一段高台に上がった北側の般若寺周辺には平坦地があり、この付近に遺跡が埋没している可能性も考えられる。

# 大井谷Ⅱ遺跡（A区）出土遺物観察表

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 30−1 | 図版22 | 大溝02<br>F6Gr<br>褐色粘土(下層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.1<br>器高 1.3<br>底径 5.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | 軟質 | 淡橙色 | |
| −2 | 〃 | 大溝02<br>G6Gr<br>褐色土 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.2<br>器高 1.0<br>底径 6.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1〜2mmの<br>砂粒少量混入 | やや<br>軟 | 暗黄褐色 | 内面見込は<br>風化のため<br>調整不明 |
| −3 | 〃 | 大溝02<br>褐色土(下層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.9<br>器高 2.1<br>底径 5.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや<br>軟 | 淡橙色 | 内面に粘土<br>塊付着 |
| −4 | 〃 | 大溝02<br>H6Gr<br>暗褐色粘土 | 瀬戸<br>天目茶碗 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 4.6 | 外面：露胎、回転ヘラ<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 施釉:黒褐色<br>露胎:黄灰色 | 削出高台 |
| −5 | 〃 | 大溝02<br>F6Gr<br>褐色粘土 | 須恵器<br>坏 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 7.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：調整不明 | 密 | 良 | 外面:暗褐色<br>内面:暗青灰色 | 付け高台 |
| −6 | 〃 | 大溝02<br>F6Gr<br>褐色粘土 | 須恵器<br>蓋 | 口径 15.8<br>器高 2.6<br>底径 − | 外面：回転ナデ、<br>回転ヘラ<br>内面：回転ナデ | 1〜2mmの<br>砂粒混入 | 良 | 外面:暗青灰色<br>内面:青灰色 | 輪状摘み |
| −7 | 〃 | 大溝02<br>H6Gr<br>暗褐色粘土 | 須恵器<br>壺類 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 11.8 | 外面：ナデ、ヘラ削り<br>内面：ナデ<br>底部：ナデ | 1〜2mmの<br>砂粒少量混入 | 良 | 外面:青灰色<br>内面:淡青灰色 | 付け高台 |
| −8 | 〃 | 大溝02<br>H6Gr<br>暗褐色粘土 | 須恵器<br>鉢形 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 2.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転ナデ | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | 良 | 青灰色 | |
| −9 | 〃 | 大溝02<br>G6Gr | とりべ | 口径 15.0<br>器高 6.8<br>底径 不明 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 1mm程度の<br>砂粒少量混入 | やや<br>軟 | 外面:淡黄褐色<br>内面:黄灰色 | 内面に銅滓<br>付着 |
| −10 | 〃 | 大溝02<br>H6Grほか | 瀬戸<br>燭台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 15.4 | 外面：施釉、回転ナデ<br>内面：露胎、回転ナデ | 密 | 良 | 外面:淡黄褐色<br>内面:黄灰色 | 外面に2条の<br>沈線、小石<br>混入 |
| −12 | 〃 | 大溝02<br>G7Gr | 銅製鍋 | 口径 19.4<br>器高 不明<br>底径 不明 | | | | 淡黄緑色 | |
| −13 | 〃 | 大溝02<br>G6、F6Grほか<br>暗褐色粘土 | 須恵器<br>甕 | 口径 21.7<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：平行タタキ<br>内面：青海波文 | 密 | 良 | 青灰色<br>口縁部:暗褐色 | |
| 34−1 | 図版23 | 大溝03<br>G8Gr<br>暗褐色粘土 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.8<br>器高 1.7<br>底径 3.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 密 | やや<br>軟 | 黒褐色 | |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 34−2 | 図版23 | 大溝03<br>G8Gr<br>暗褐色粘土 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.3<br>器高 1.6<br>底径 4.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm程度の<br>砂粒少量混入 | やや<br>軟 | 外面:淡灰橙色<br>内面:淡橙色 | |
| −3 | 〃 | 大溝03<br>F8Gr<br>暗褐色粘土 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.2<br>器高 1.7<br>底径 3.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや<br>軟 | 淡橙白色 | |
| −4 | 〃 | 大溝03<br>H8Gr<br>暗褐色粘土 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.4<br>器高 1.7<br>底径 4.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや<br>軟 | 外面:淡橙白色<br>内面:淡橙色 | |
| −5 | 〃 | 大溝03<br>G8Gr<br>暗褐色粘土 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 8.9<br>器高 1.2<br>底径 8.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | 軟 | 橙色 | |
| −6 | 〃 | 大溝03<br>G8Gr<br>暗褐色土 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.3<br>器高 1.4<br>底径 4.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや<br>軟 | 外面:明黄灰色<br>内面:淡黄褐色 | |
| −7 | 〃 | 大溝03<br>G8Gr<br>暗褐色粘土 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.9<br>器高 2.2<br>底径 3.9 | 外面：回転ナデ、<br>回転ヘラ<br>内面：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや<br>軟 | 淡橙灰色 | 内面見込ナデ |
| −8 | 〃 | 大溝03<br>G8Gr<br>暗褐色粘土 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 1.7<br>底径 5.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm程度の<br>砂粒少量混入 | やや<br>軟 | 外面:淡灰黄色<br>内面:淡黄橙色 | |
| −9 | 〃 | 大溝03<br>G8Gr<br>褐色粘土 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.1<br>器高 4.2<br>底径 2.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒多量に混入 | やや<br>軟 | 外面:淡橙灰色<br>内面:淡橙色 | 内面見込ナデ |
| −10 | 〃 | 大溝03<br>G8Gr<br>暗褐色粘土 | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.6<br>器高 4.9<br>底径 3.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 密 | 良 | 灰白色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| −11 | 図版24 | 大溝03<br>G8Gr<br>暗褐色粘土 | 土師質土器<br>坏 | 口径 13.2<br>器高 4.3<br>底径 8.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや<br>軟 | 淡黄灰色 | |
| −12 | 〃 | 大溝03<br>G6Gr<br>暗褐色粘土 | 土師質土器<br>坏 | 口径 10.6<br>器高 3.2<br>底径 6.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：ナデ | 密 | やや<br>軟 | 外面:淡黄橙色<br>内面:淡橙色 | 粘土の繋目痕<br>が残る |
| −13 | 〃 | 大溝03<br>H8Gr<br>暗褐色粘土 | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 5.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：調整不明 | 1mm以下の<br>砂粒混入 | やや<br>軟 | 淡橙色 | |
| −14 | 〃 | 大溝03<br>G8Gr<br>暗褐色粘土 | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 5.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm以下の<br>砂粒多量に混入 | やや<br>軟 | 淡灰橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 34−15 | 図版24 | 大溝03<br>G8Gr<br>暗褐色粘土 | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 5.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや<br>軟 | にぶい<br>淡橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗<br>い回転ナデ |
| −16 | 〃 | 大溝03<br>G8Gr<br>暗褐色粘土 | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 11.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：ナデ？<br>底部：回転糸切 | 1mm以下の<br>砂粒少量混入 | やや<br>軟 | 淡橙色 | |
| −17 | 〃 | 大溝03<br>G8Gr<br>暗褐色粘土 | 青磁<br>浄瓶 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 外面:乳緑色<br>内面:暗赤橙色 | |
| −18 | 〃 | 大溝03<br>G8Gr | 白磁<br>碗 | 口径 11.1<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 黄灰色 | 口禿 |
| −19 | 〃 | 大溝03<br>G8Gr | 青白磁<br>蓋 | 口径 11.9<br>器高 不明<br>底径 − | 外面：施釉<br>内面：露胎、回転ナデ | 密 | 良 | 外面:青灰色<br>内面:黄灰色 | 外面に5条の<br>沈線 |
| −20 | 〃 | 大溝03<br>C7、D8Gr<br>暗褐色粘土 | 天目茶碗 | 口径 12.1<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 口縁部:褐色<br>その他:茶褐色 | 瀬戸または<br>中国製 |
| −21 | 〃 | 大溝03<br>G8Gr<br>褐色土 | 瀬戸<br>平碗 | 口径 14.8<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉、露胎<br>回転ヘラ、荒い回転ナデ | 密 | 良 | 施釉:淡緑色<br>露胎:明黄灰色 | |
| −22 | 〃 | 大溝03<br>H8Gr<br>暗褐色粘土 | 常滑系<br>鉢 | 口径 28.8<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：ナデ、荒いナデ<br>内面：ナデ | 1mm程度の<br>砂粒混入 | 良 | 外面:暗赤褐色<br>内面:褐色 | |
| −23 | 〃 | 大溝03<br>H8Gr<br>暗褐色粘土 | 備前<br>擂鉢 | 口径 26.3<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 褐色 | 内面に擂目 |
| −24 | 〃 | 大溝03<br>G8Gr | 備前<br>擂鉢 | 口径 30.8<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 1mm程度の<br>砂粒少量混入 | 良 | 体部及び内面:<br>暗褐色／口縁部<br>外面:暗赤褐色 | 内面に擂目 |
| 35−1 | 図版25 | 大溝03<br>F9Gr<br>褐色粘土 | 土師器<br>製塩土器 | 口径 12.0<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ、指頭圧痕 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | 軟 | 外面:淡黄褐色<br>内面:淡橙色 | |
| −2 | 〃 | 大溝03<br>F8Gr<br>暗褐色粘土 | 土師器<br>製塩土器 | 口径 10.8<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：未調整<br>内面：ナデ、指頭圧痕 | 1〜3mmの<br>砂粒多量に混入 | 軟 | 淡橙色 | |
| −3 | 〃 | 大溝03<br>F9Gr<br>褐色粘土 | 土師器<br>製塩土器 | 口径 13.6<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 1〜3mmの<br>砂粒に混入 | やや<br>軟 | 外面:明黄灰色<br>内面:淡橙色 | |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 35−4 | 図版25 | 大溝03<br>F9Gr<br>褐色粘土 | 土師器<br>製塩土器 | 口径 9.6<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：未調整<br>内面：ナデ | 1〜2mmの<br>砂粒混入 | やや<br>軟 | 外面:黄灰色<br>内面:にぶい<br>淡黄褐色 | |
| −5 | 〃 | 大溝03<br>D8Gr<br>暗褐色粘土 | 土師器<br>甕 | 口径 27.1<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：ナデ、ハケ目<br>内面：ナデ、ヘラ削り | 1〜2mmの<br>砂粒混入 | やや<br>軟 | 外面:橙色<br>内面:黄灰色 | ハケ目8本／cm |
| −6 | 〃 | 大溝03<br>E8Gr<br>暗褐色粘土 | 丹塗土師器<br>坏 | 口径 13.4<br>器高 3.4<br>底径 10.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：ナデ | 密 | やや<br>軟 | 暗赤褐色 | 底部にヘラ状<br>工具痕、全面<br>赤色塗彩 |
| −7 | 〃 | 大溝03<br>E8Gr<br>暗褐色粘土 | 丹塗土師器<br>坏 | 口径 17.8<br>器高 5.7<br>底径 14.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：ナデ | 密 | やや<br>軟 | 赤褐色 | 全面赤色塗彩 |
| −8 | 〃 | 大溝03<br>E8Gr<br>暗褐色粘土 | 丹塗土師器<br>皿 | 口径 13.8<br>器高 2.4<br>底径 11.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：ナデ | 密 | やや<br>軟 | 外面:暗赤褐色<br>内面:橙色 | 全面赤色塗彩 |
| −9 | 〃 | 大溝03<br>E8Gr<br>暗褐色粘土 | 丹塗土師器<br>坏 | 口径 14.2<br>器高 3.1<br>底径 10.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：ナデ | 密 | やや<br>軟 | 赤褐色 | 全面赤色塗彩 |
| −10 | 〃 | 大溝03<br>E8Gr<br>暗褐色粘土 | 丹塗土師器<br>坏 | 口径 12.3<br>器高 4.6<br>底径 9.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転ナデ | 密 | やや<br>軟 | 暗赤褐色 | 全面赤色塗彩、<br>付け高台 |
| −11 | 〃 | 大溝03<br>D8Gr<br>暗褐色粘土 | 須恵器<br>坏 | 口径 10.9<br>器高 4.0<br>底径 8.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | 良 | 褐灰色 | |
| −12 | 〃 | 大溝03<br>F9Gr<br>褐色粘土 | 須恵器<br>坏 | 口径 11.5<br>器高 4.0<br>底径 7.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや<br>軟 | 青灰色 | |
| −13 | 〃 | 大溝03<br>F9Gr<br>褐色粘土 | 須恵器<br>坏 | 口径 12.1<br>器高 4.5<br>底径 6.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや<br>軟 | 青灰色 | |
| −14 | 〃 | 大溝03<br>E8Gr<br>暗褐色粘土 | 須恵器<br>坏 | 口径 11.2<br>器高 4.5<br>底径 8.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm程度の<br>砂粒混入 | 良 | 赤褐色 | 付け高台 |
| −15 | 〃 | 大溝03<br>F9Gr<br>褐色粘土 | 須恵器<br>坏 | 口径 14.0<br>器高 4.6<br>底径 9.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：ヘラ切り？ | 密 | 良 | 暗青灰色 | 付け高台 |
| −16 | 〃 | 大溝03<br>E8Gr<br>暗褐色粘土 | 須恵器<br>壺 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 10.8 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 外面:黄灰色<br>内面:灰褐色 | 付け高台<br>粘土の繋目痕<br>残る |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 36−1 | 図版26 | 大溝03<br>E8Gr<br>暗褐色粘土 | 須恵器<br>蓋 | 口径 13.8<br>器高 2.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 1〜2mmの<br>砂粒混入 | 良 | 青灰色 | 扁平な宝珠状摘み |
| −2 | 〃 | 大溝03<br>F9Gr<br>褐色粘土 | 須恵器<br>蓋 | 口径 13.5<br>器高 3.6<br>底径 不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>天井部：風化、調整不明 | 密 | 軟 | 灰色 | 宝珠状摘み |
| −3 | 〃 | 大溝03<br>G8Gr<br>褐色粘土 | 須恵器<br>蓋 | 口径 14.2<br>器高 不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>天井部：風化、調整不明 | 密 | 良 | 青灰色 | 口縁部に重ね焼きの痕跡残る。 |
| −4 | 〃 | 大溝03<br>H8Gr<br>暗褐色粘土 | 須恵器<br>蓋 | 口径 13.6<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>天井部：回転ヘラ？ | 密 | 良 | 青灰色 | |
| −5 | 〃 | 大溝03<br>F8Gr<br>暗褐色粘土 | 須恵器<br>皿 | 口径 15.3<br>器高 1.9<br>底径 13.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転ヘラ切り、ナデ | 1〜2mmの<br>砂粒少量混入 | 良 | 黄灰色、一部<br>暗青灰色 | |
| −6 | 〃 | 大溝03<br>青灰色粘土 | 須恵器<br>盤 | 口径 21.4<br>器高 3.8<br>底径 15.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1〜2mmの<br>砂粒混入 | 軟 | 黄灰色 | 付け高台 |
| −7 | 〃 | 大溝03<br>D8Gr | 須恵器<br>浄瓶 | 口径 5.6<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、<br>磨き？ | 1〜2mmの<br>砂粒少量混入 | 良 | 灰褐色、一部<br>暗緑色 | 外面に2条の沈線、外面及び口縁部に自然釉 |
| −8 | 〃 | 大溝03<br>G8Gr<br>暗褐色粘土 | 須恵器<br>浄瓶 | 口径 2.4<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、<br>ナデ | 密 | 良 | 外面:黄灰色<br>内面:青灰色 | |
| −9 | 〃 | 大溝03<br>D8Gr | 須恵器<br>鉄鉢形 | 口径 27.2<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：回転ナデ、ハケ目<br>内面：回転ナデ、<br>ナデ、指頭圧痕 | 密 | 良 | 外面:青灰色、<br>一部暗褐色<br>内面:黄灰色 | ハケ目6本／cm |
| −10 | 〃 | 大溝03<br>G7Gr<br>暗褐色粘土 | 須恵器<br>高坏 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良 | 外面:やや<br>暗い青灰色<br>内面:青灰色 | |
| 40−1 | 図版27 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.2<br>底径 3.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや<br>軟 | 外面:明黄灰色、<br>暗褐色<br>内面:明黄灰色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −2 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.9<br>器高 1.6<br>底径 5.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや<br>軟 | 明黄灰色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −3 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.1<br>器高 2.0<br>底径 3.9 | 外面：回転ナデ、ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや<br>軟 | 外面:黄灰色、<br>橙色／内面:<br>橙色、暗褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 40−4 | 図版27 | 大溝04<br>H11Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 1.4<br>底径 5.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや<br>軟 | 外面:暗黄灰色<br>内面:褐色 | 内面見込に<br>同心円上の<br>粗い回転ナデ |
| −5 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.1<br>器高 1.6<br>底径 4.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm程度の<br>砂粒少量混入 | やや<br>軟 | 黄灰色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| −6 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.4<br>器高 2.1<br>底径 4.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや<br>軟 | 淡黄橙色 | 内面見込に渦<br>巻状の粗い回<br>転ナデ、灯明皿 |
| −7 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.1<br>器高 1.4<br>底径 5.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 0.5〜1mmの<br>砂粒少量混入 | やや<br>軟 | 外面:淡黄褐色、<br>黄灰色／内面:<br>黄灰色、暗褐色 | |
| −8 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 8.0<br>器高 1.3<br>底径 5.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや<br>軟 | 淡橙色 | |
| −9 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 8.1<br>器高 1.8<br>底径 5.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm程度の<br>砂粒混入 | 軟 | 外面:淡橙色<br>内面:淡黄褐色 | 内面見込風化、<br>調整不明 |
| −10 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 4.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：ナデ？<br>底部：回転糸切 | 密 | やや<br>軟 | にぶい淡橙色 | |
| −11 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 5.2 | 外面：回転ナデ、ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 密 | やや<br>軟 | にぶい淡橙色 | |
| −12 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.3<br>器高 4.2<br>底径 4.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm程度の<br>砂粒混入 | やや<br>軟 | 橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| −13 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.8<br>器高 4.3<br>底径 6.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm程度の<br>砂粒混入 | やや<br>軟 | 淡橙色<br>内面見込暗<br>褐色 | 内面見込に渦<br>巻状の粗い回<br>転ナデ、灯明皿 |
| −14 | 図版28 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 白磁<br>小皿 | 口径 9.7<br>器高 1.6<br>底径 6.4 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 黒色粒子<br>少量混入 | 良 | 灰白色 | 口禿 |
| −15 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 白磁<br>小皿 | 口径 12.0<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 黒色粒子<br>少量混入 | 良 | 黄灰色 | 口禿 |
| −16 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 青白磁 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>底部：露胎 | 密 | 良 | 施釉:淡青白色<br>露胎:灰白色 | |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 40−17 | 図版28 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 青磁<br>碗 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 乳緑色 | 外面に<br>鎬蓮弁文 |
| −18 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 青磁<br>碗 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>高台畳付：露胎 | 黒色粒子<br>少量混入 | 良 | 乳緑色 | 外面に蓮弁文 |
| −19 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 瀬戸<br>天目茶碗 | 口径 13.5<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 内外面:黒褐色／口縁部:暗茶色 | |
| −20 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 瓦質土器<br>擂鉢 | 口径 21.2<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：粗いナデ<br>内面：ナデ<br>口縁部：ナデ | 密 | やや軟 | 外面:灰色<br>内面:暗灰色 | 内面に擂目 |
| −21 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 瓦質土器<br>擂鉢 | 口径 22.8<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 1mm程度の<br>砂粒混入 | 良 | 外面:黄灰色<br>内面:青灰色 | 口縁部内面に<br>擂目?5本／cm |
| −22 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 瓦質土器 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 9.5 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ、ハケ目<br>底部：風化、調整不明 | 密 | やや軟 | 外面:灰色<br>内面:暗褐色 | ハケ目16本／cm |
| 41−3 | 図版29 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 漆器 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 不明 | | | | 外面:黒褐色<br>内面:黒褐色 | 内外面に<br>草花文 |
| 43−1 | 図版30 | 大溝04<br>H13Gr明青灰色粘土(Ⅰ・Ⅱ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.1<br>器高 2.2<br>底径 3.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒多量に混入 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| −2 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr明青灰色粘土(Ⅰ・Ⅱ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.4<br>器高 2.3<br>底径 4.4 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| −3 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr明青灰色粘土(Ⅰ・Ⅱ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.1<br>器高 1.8<br>底径 5.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 外面:明黄灰色<br>内面:淡黄橙色、黒褐色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| −4 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr明青灰色粘土(Ⅰ・Ⅱ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.4<br>器高 1.6<br>底径 5.4 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや軟 | 淡橙白色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| −5 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr明青灰色粘土(Ⅰ・Ⅱ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.6<br>器高 1.3<br>底径 5.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm程度の<br>砂粒混入 | やや軟 | 淡橙色 | |
| −7 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr明青灰色粘土(Ⅰ・Ⅱ層の間) | 瀬戸<br>折縁皿 | 口径 16.3<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 外面:淡黄緑色<br>内面:灰緑色 | 口縁部摩耗のため釉禿 |
| 44−1 | 図版31 | 大溝04<br>H13Gr黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.1<br>底径 3.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：風化、回転糸切? | 1mm未満の<br>砂粒多量に混入 | 軟 | 外面:淡赤橙色<br>内面:にぶい淡赤橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 44—2 | 図版31 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.5<br>器高 2.3<br>底径 3.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切？ | 1mm未満の<br>砂粒多量に混入 | やや<br>軟 | 外面:明黄灰色<br>内面:黄橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| —3 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.1<br>器高 2.1<br>底径 3.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや<br>軟 | 外面:淡橙色<br>内面:淡黄褐色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| —4 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.0<br>底径 3.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒多量に混入 | やや<br>軟 | 淡橙色、一部<br>暗褐色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| —5 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.3<br>器高 1.6<br>底径 4.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm程度の<br>砂粒混入 | やや<br>軟 | 橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| —6 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.8<br>器高 2.3<br>底径 3.4 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm程度の<br>砂粒少量混入 | やや<br>軟 | 淡橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| —7 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.6<br>器高 1.8<br>底径 3.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや<br>軟 | 外面:にぶい黄橙色／内面:黄灰色／口縁部:暗褐色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| —8 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.4<br>器高 2.0<br>底径 4.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや<br>軟 | 暗褐色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| —9 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.1<br>器高 1.6<br>底径 3.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや<br>軟 | 外面:褐色、黒褐色／内面:赤橙色、褐色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| —10 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.4<br>器高 1.9<br>底径 4.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒多量に混入 | やや<br>軟 | にぶい黄橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| —11 | 図版32 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.9<br>器高 2.0<br>底径 3.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや<br>軟 | 外面:淡橙色<br>内面:橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| —12 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.7<br>器高 1.5<br>底径 3.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや<br>軟 | 外面:明黄灰色<br>内面:暗黄灰色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ、灯明皿 |
| —13 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.9<br>器高 2.0<br>底径 3.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや<br>軟 | 橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| —14 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 1.8<br>底径 4.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 密 | やや<br>軟 | 淡橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 44−15 | 図版32 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.4<br>底径 3.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒少量に混入 | やや<br>軟 | 外面:橙色<br>内面:灰橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| −16 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.7<br>器高 2.0<br>底径 3.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目? | 1mm未満の<br>砂粒多量に混入 | やや<br>軟 | にぶい黄褐色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| −17 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.1<br>器高 2.2<br>底径 3.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 密 | やや<br>軟 | 外面:淡橙色<br>内面:橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| −18 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.0<br>底径 3.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 密 | やや<br>軟 | 外面:淡橙色<br>内面:橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| −19 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.2<br>底径 3.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 密 | やや<br>軟 | 外面:橙色<br>内面:暗淡橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| −20 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.4<br>器高 1.8<br>底径 4.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや<br>軟 | 外面:淡橙色、黄灰色、にぶい淡橙色／内面:淡橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| 45−1 | 図版33 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.9<br>器高 1.5<br>底径 4.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや<br>軟 | 淡橙色、橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| −2 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.4<br>底径 3.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや<br>軟 | 外面:淡黄褐色<br>内面:暗褐色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| −3 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.5<br>器高 2.1<br>底径 4.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや<br>軟 | 橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明皿 |
| −4 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.4<br>器高 2.3<br>底径 4.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや<br>軟 | 淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、粘土塊 |
| −5 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.3<br>器高 1.9<br>底径 4.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや<br>軟 | 外面:黄灰色、橙色／内面:黒褐色、橙色、黄灰色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| −6 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.9<br>器高 1.4<br>底径 5.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm程度の<br>砂粒多量に混入 | やや<br>軟 | 外面:淡橙灰色<br>内面:淡橙色 | |
| −7 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.5<br>器高 1.5<br>底径 5.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm程度の<br>砂粒混入 | やや<br>軟 | 淡橙色、暗褐色 | |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 45−8 | 図版33 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.0<br>底径 4.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや<br>軟 | 外面:黄灰色、<br>橙色<br>内面:橙色 | 灯明皿 |
| −9 | 〃 | 大溝04<br>J12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.4<br>器高 1.7<br>底径 4.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや<br>軟 | 淡黄色 | |
| −10 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 1.8<br>底径 4.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目？ | 1mm未満の<br>砂粒多量に混入 | 軟 | 淡黄褐色 | 内面見込、<br>風化のため<br>調整不明 |
| −11 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.9<br>器高 1.6<br>底径 5.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm程度の<br>砂粒少量混入 | やや<br>軟 | 淡橙色 | |
| −12 | 図版34 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.1<br>器高 4.2<br>底径 5.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや<br>軟 | 外面:にぶい黄<br>橙色／内面:淡<br>黄橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| −13 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.3<br>器高 4.6<br>底径 4.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや<br>軟 | 外面:にぶい<br>橙色<br>内面:淡橙色 | 内面見込に渦<br>巻状の粗い回<br>転ナデ、灯明具 |
| −14 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.8<br>器高 3.9<br>底径 4.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや<br>軟 | にぶい黄橙色 | 内面見込に渦<br>巻状の粗い回<br>転ナデ、灯明具 |
| −15 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.2<br>器高 4.0<br>底径 4.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや<br>軟 | 外面:にぶい黄橙色、<br>褐色／内面:明黄灰<br>色、黒褐色 | 内面見込に渦<br>巻状の粗い回<br>転ナデ、灯明具 |
| −16 | 〃 | 大溝04<br>J12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 8.6<br>器高 2.6<br>底径 5.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm以下の<br>砂粒多量に混入 | 軟 | 外面:淡灰橙色<br>内面:黄灰色 | 内面見込に渦<br>巻状の粗い回<br>転ナデ、灯明具 |
| −17 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 7.2<br>器高 4.6<br>底径 5.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや<br>軟 | 淡橙色、暗褐色 | |
| −18 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>暗褐色粘土(Ⅱ層) | 中国陶器<br>盤 | 口径 19.5<br>器高 4.7<br>底径 15.6 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>外面底部：露胎、ヘラ削り | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | 良 | 外面:施釉、暗黄<br>褐色、露胎、青灰色<br>内面:黄灰色 | 漆接を施す |
| 46−1 | 図版35 | 大溝04<br>H13、I12、J12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 青磁<br>碗 | 口径 14.3<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 乳緑色 | 外面に<br>鎬蓮弁文 |
| −2 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 青磁<br>碗 | 口径 14.8<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 乳緑色 | 外面に<br>鎬蓮弁文 |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 46−3 | 図版35 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 青磁<br>碗 | 口径 17.0<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 乳緑色 | 外面に鎬蓮弁文 |
| −4 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 東播系須恵器<br>擂鉢 | 口径 31.1<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 1〜4mmの<br>砂粒少量混入 | 良 | 暗黄灰色、暗褐色 | |
| −5 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 瓦質土器<br>擂鉢 | 口径 28.6<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：ナデ、粗いナデ<br>内面：ナデ | 密 | やや軟 | 外面:黒褐色<br>内面:暗青灰色 | 内面に放射状の擂目施す。 |
| 49−1 | 図版37 | 大溝04<br>H13Gr明青灰色粘土(Ⅱ・Ⅲ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.1<br>器高 2.3<br>底径 3.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −2 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr明青灰色粘土(Ⅱ・Ⅲ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.1<br>底径 3.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 淡黄褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −3 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr明青灰色粘土(Ⅱ・Ⅲ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.2<br>底径 3.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −4 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr明青灰色粘土(Ⅱ・Ⅲ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.1<br>器高 2.1<br>底径 4.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 密 | やや軟 | 黄灰色、暗褐色、橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −5 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr明青灰色粘土(Ⅱ・Ⅲ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.9<br>器高 2.0<br>底径 4.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −6 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr明青灰色粘土(Ⅱ・Ⅲ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.2<br>器高 2.1<br>底径 3.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒多量に混入 | やや軟 | 淡黄褐色、赤褐色、淡赤褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −7 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr明青灰色粘土(Ⅱ・Ⅲ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.3<br>底径 3.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −8 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr明青灰色粘土(Ⅱ・Ⅲ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.2<br>器高 2.1<br>底径 4.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 黄灰色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −9 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr明青灰色粘土(Ⅱ・Ⅲ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.2<br>器高 2.1<br>底径 4.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒多量に混入 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −10 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr明青灰色粘土(Ⅱ・Ⅲ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 1.8<br>底径 4.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 0.5mm以下の<br>砂粒混入 | やや軟 | 外面:淡暗黄褐色<br>内面:淡明黄褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明皿 |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 49−11 | 図版37 | 大溝04<br>H13Gr明青灰色粘土(Ⅱ・Ⅲ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.0<br>底径 3.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の砂粒少量混入 | やや軟 | 外面:淡暗黄褐色<br>内面:淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明皿 |
| −12 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr明青灰色粘土(Ⅱ・Ⅲ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.1<br>底径 3.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の砂粒少量混入 | やや軟 | 外面:淡橙色<br>内面:橙色 | |
| 50−1 | 図版38 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅲ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.2<br>底径 4.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 密 | やや軟 | 外面:暗黄橙色<br>内面:灰黄褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −2 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅲ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.2<br>器高 2.3<br>底径 3.4 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや軟 | 外面:淡橙色<br>内面:淡黄橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明皿 |
| −3 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅲ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.3<br>器高 2.0<br>底径 3.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の砂粒混入 | やや軟 | 外面:にぶい黄褐色<br>内面:にぶい黄橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −4 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅲ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.3<br>器高 2.2<br>底径 2.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の砂粒多量に混入 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −5 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅲ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.3<br>器高 1.8<br>底径 4.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の砂粒少量混入 | やや軟 | 外面:橙色<br>内面:黄灰色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −6 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅲ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.3<br>器高 1.3<br>底径 4.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm以下の砂粒混入 | やや軟 | 褐色、橙褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −7 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅲ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 1.9<br>底径 3.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の砂粒混入 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −8 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅲ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.8<br>器高 2.3<br>底径 3.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の砂粒混入 | やや軟 | 橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −9 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅲ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.1<br>底径 3.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の砂粒少量混入 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明皿 |
| −10 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅲ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.2<br>器高 2.6<br>底径 3.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや軟 | 橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明皿 |
| 52−1 | 図版39 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.2<br>器高 2.1<br>底径 3.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の砂粒混入 | やや軟 | 外面:黄灰色、橙色<br>/内面:にぶい黄橙色、橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 52—2 | 図版39 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.9<br>器高 2.0<br>底径 3.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目？ | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | 外面:暗黄灰色<br>内面:にぶい黄橙色<br>、褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| —3 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.2<br>器高 2.1<br>底径 4.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 外面:にぶい黄橙色<br>内面:淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| —4 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.1<br>器高 2.0<br>底径 3.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 明灰黄色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ灯明皿 |
| —5 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 1.8<br>底径 4.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| —6 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.1<br>底径 3.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや軟 | 暗黄灰色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| —7 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.9<br>器高 2.6<br>底径 3.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | 外面:にぶい黄橙色<br>内面:淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| —8 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.1<br>底径 3.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや軟 | 外面:にぶい黄橙色<br>内面:にぶい黄褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| —9 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.5<br>器高 1.9<br>底径 4.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒多量混入 | やや軟 | 外面:にぶい黄褐色<br>内面:淡黄褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| —10 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.3<br>底径 3.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目？ | 密 | やや軟 | にぶい黄橙色,暗褐色<br>赤褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| —11 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 1.9<br>底径 3.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | 外面:淡橙色<br>内面:橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| —12 | 図版40 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.7<br>器高 3.8<br>底径 5.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | にぶい黄橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| —13 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 土師質土器<br>柱状高台付坏 | 口径 12.9<br>器高 4.4<br>底径 8.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 淡橙色、橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| —14 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 青磁<br>碗 | 口径 14.5<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 乳緑色 | 外面に鎬蓮弁文 |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 52−15 | 図版40 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 青磁<br>碗 | 口径 13.0<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 暗緑色 | 外面無文 |
| −16 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 瀬戸<br>底卸目皿 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 8.6 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>卸目：露胎 | 密 | 良 | 外面:淡黄緑色<br>内面:黄緑色 | 底部に卸目を施す |
| −17 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 漆器<br>小皿 | 口径 8.0<br>器高 1.3<br>底径 6.2 | | | | 黒褐色 | 全面漆塗 |
| −18 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 在地土器<br>擂鉢 | 口径 23.2<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ヘラ削り | 1〜2mmの<br>砂粒混入 | 良 | 外面:黄灰色<br>内面:青灰色<br>、暗青灰色 | |
| 53−1 | 図版41 | 52-18と<br>出土地点と<br>同じ | 瓷器系<br>甕 | 口径 41.0<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：ナデ、ハケ目、格子タタキ／内面：ナデ、ハケ目、ヘラ削り | 密 | 軟 | 淡橙色、暗褐色<br>、黒褐色 | |
| 55−1 | 図版42 | 55-2と<br>出土地点と<br>同じ | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.3<br>器高 1.8<br>底径 3.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 外面:にぶい橙色、<br>赤褐色／淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明皿 |
| −2 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr褐灰色粘土<br>(Ⅳ・Ⅴ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.1<br>器高 2.2<br>底径 4.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | 外面:暗黄灰色<br>内面:黄灰色<br>一部淡橙色、暗褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −3 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr褐灰色粘土<br>(Ⅳ・Ⅴ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.8<br>器高 2.3<br>底径 4.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒多量に混入 | やや軟 | 外面:淡橙色<br>、黄灰色<br>内面:淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −4 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr褐灰色粘土<br>(Ⅳ・Ⅴ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.1<br>器高 1.9<br>底径 3.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目？ | 1mm未満の<br>砂粒数少量混入 | やや軟 | 外面:暗淡橙色<br>内面:淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −5 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr褐灰色粘土<br>(Ⅳ・Ⅴ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.2<br>器高 1.7<br>底径 4.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | にぶい黄橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −6 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr褐灰色粘土<br>(Ⅳ・Ⅴ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.8<br>器高 2.0<br>底径 4.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 外面:橙色<br>内面:淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −7 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr褐灰色粘土<br>(Ⅳ・Ⅴ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.0<br>底径 4.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 外面:にぶい橙色<br>内面:淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明皿 |
| −8 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr褐灰色粘土<br>(Ⅳ・Ⅴ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.1<br>器高 2.2<br>底径 4.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目？ | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 黄灰色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 55−9 | 図版42 | 大溝04<br>H13Gr褐灰色粘土<br>(Ⅳ・Ⅴ層の間) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.3<br>器高 2.0<br>底径 4.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 淡灰橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、風化、灯明皿 |
| −10 | 図版43 | 大溝04<br>H13Gr褐灰色粘土<br>(Ⅳ・Ⅴ層の間) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.9<br>器高 3.6<br>底径 4.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 外面:にぶい橙色<br>内面:淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −11 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr褐灰色粘土<br>(Ⅳ・Ⅴ層の間) | 瀬戸<br>仏花瓶 | 口径 7.1<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 淡灰緑色 | |
| −12 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr褐灰色粘土<br>(Ⅳ・Ⅴ層の間) | 青磁<br>碗 | 口径 15.6<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 黒色粒子少量混入 | 良 | 乳緑色 | 外面に鎬蓮弁文 |
| −13 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr褐灰色粘土<br>(Ⅳ・Ⅴ層の間) | 青磁<br>碗 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 5.7 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>高台畳付：露胎、回転ヘラ | 密 | 良 | 乳緑色 | 外面に鎬蓮弁文 |
| 57−1 | 図版44 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅴ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.2<br>器高 2.1<br>底径 3.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | にぶい黄橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −2 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅴ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.2<br>器高 2.3<br>底径 3.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | 淡橙色、暗褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −3 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅴ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.9<br>器高 1.9<br>底径 3.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 外面:にぶい黄橙色<br>内面:淡橙色<br>口縁部:橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明皿 |
| −4 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土(Ⅴ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.6<br>器高 4.7<br>底径 5.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 外面:にぶい橙色<br>内面:橙色、黒褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −5 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅴ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.5<br>器高 4.4<br>底径 4.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 外面:にぶい黄橙色<br>内面:淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −6 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅴ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.8<br>器高 4.0<br>底径 4.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | | やや軟 | にぶい黄橙色、黒褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明皿 |
| −7 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅴ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.5<br>器高 4.2<br>底径 5.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 密 | やや軟 | 橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明皿 |
| −8 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅴ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.4<br>器高 4.1<br>底径 4.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 外面:にぶい橙色<br>、橙色<br>内面:淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 57−9 | 図版44 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅴ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.7<br>器高 4.0<br>底径 5.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | にぶい黄橙色、黒褐色、橙色/内面:橙色、黒褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明具 |
| −10 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅴ層) | 青磁<br>碗 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 4.9 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>高台見込：露胎 | 密 | 良 | 外面:黄緑色<br>内面:黄色 | 内面見込にスタンプ文 |
| −11 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅴ層) | 磁器 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 2.3 | 外面：露胎、回転ナデ、回転ヘラ<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 施釉:灰色<br>露胎:青灰色 | |
| −12 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅴ層) | 中国陶器<br>盤 | 口径 15.8<br>器高 4.5<br>底径 11.4 | 外面：施釉、露胎、ナデ<br>内面：施釉<br>底部：露胎、ヘラ削り | 1mm程度の<br>砂粒混入 | 良 | 外面:赤褐色、青灰色<br>内面:黄灰色 | 漆接の痕跡残る |
| 59−1 | 図版45 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅰ～Ⅱ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.9<br>器高 4.4<br>底径 4.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 密 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明具 |
| −2 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅰ～Ⅱ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.6<br>器高 4.0<br>底径 5.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや軟 | 外面:淡橙色<br>内面:黒褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ?、灯明具 |
| −3 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅰ～Ⅱ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.6<br>器高 3.7<br>底径 5.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −4 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅰ～Ⅱ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.4<br>器高 4.0<br>底径 5.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 密 | やや軟 | 淡橙色、黒褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明具 |
| −5 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅰ～Ⅱ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 10.9<br>器高 3.8<br>底径 5.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | にぶい黄橙色<br>黒褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、鉄製品混入 |
| −6 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅰ～Ⅱ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.6<br>器高 4.1<br>底径 4.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：風化、調整不明 | 1mm未満の<br>砂粒多量に混入 | やや軟 | 外面:にぶい黄橙色<br>内面:淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明具? |
| −7 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅰ～Ⅱ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.4<br>器高 3.8<br>底径 6.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや軟 | にぶい黄橙色<br>橙色、黒褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明具 |
| −8 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅰ～Ⅱ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 12.2<br>器高 4.3<br>底径 6.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒数少量混入 | やや軟 | 外面:黄灰色、淡橙色、黒褐色/内面:にぶい黄橙色、黒褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明具 |
| −9 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅰ～Ⅱ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 10.9<br>器高 4.2<br>底径 4.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm以下の<br>砂粒混入 | やや軟 | 淡橙色 | |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 60−1 | 図版46 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅳ～Ⅴ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.5<br>器高 1.7<br>底径 4.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、底部穿孔 |
| −2 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅳ～Ⅴ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.8<br>器高 1.9<br>底径 3.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −3 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅳ～Ⅴ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.9<br>器高 2.0<br>底径 4.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや軟 | 暗黄灰色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明皿 |
| −4 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅳ～Ⅴ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.2<br>器高 1.7<br>底径 4.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | 外面:明黄灰色、橙色／内面:淡橙色、暗褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −5 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅳ～Ⅴ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.2<br>器高 2.1<br>底径 4.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −6 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅳ～Ⅴ層) | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.4<br>器高 2.1<br>底径 4.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 外面:淡橙色、橙色<br>内面:にぶい黄褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −7 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅳ～Ⅴ層) | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 4.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや軟 | 黄灰色、橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、高台後付 |
| −8 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅳ～Ⅴ層) | 土師質土器<br>柱状高台付坏 | 口径 7.8<br>器高 5.1<br>底径 4.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 淡橙色、暗褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、穿孔、底部切込 |
| −9 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅳ～Ⅴ層) | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 5.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込渦巻状の粗い回転ナデ |
| −10 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅳ～Ⅴ層) | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 5.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、凹み |
| −11 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅳ～Ⅴ層) | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 5.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：欠損、調整不明<br>底部：回転糸切 | 密 | 軟 | 明黄灰色 | |
| −12 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅳ～Ⅴ層) | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 4.4 | 外面：回転ナデ<br>内面：風化、調整不明<br>底部：回転糸切 | 密 | 軟 | 淡橙色 | |
| −13 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅳ～Ⅴ層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.6<br>器高 4.2<br>底径 5.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 外面:暗黄橙色、暗褐色<br>内面:黄灰色、黒褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明具 |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 60−14 | 図版46 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅳ〜V層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.4<br>器高 4.2<br>底径 5.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 淡橙色、黒褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明具 |
| −15 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅳ〜V層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.8<br>器高 3.7<br>底径 5.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −16 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅳ〜V層) | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.7<br>器高 4.7<br>底径 5.4 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm程度の<br>砂粒混入 | やや軟 | 外面:明黄灰色<br>内面:黄灰色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −17 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土<br>(Ⅳ〜V層) | 土師質土器<br>高台付椀 | 口径 10.6<br>器高 4.2<br>底径 6.4 | 外面：ヘラ削り、ナデ<br>内面：磨き | 密 | やや軟 | 淡灰橙色 | 付け高台 |
| 61−1 | 図版47 | 大溝04<br>I11Gr | 須恵器<br>蓋 | 口径 13.8<br>器高 4.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>天井部：回転ヘラ | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | 良 | 外面:青灰色、黒褐色／内面:黒褐色、灰褐色 | 外面に2本の稜線、灯明具に転用 |
| −2 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土 | 須恵器<br>高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 6.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転ナデ | 密 | 良 | 淡青灰色 | |
| −4 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.6<br>器高 2.0<br>底径 4.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm以下の<br>砂粒多量に混入 | やや軟 | 明灰褐色、淡橙色、橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、穿孔の痕 |
| −5 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.3<br>器高 2.2<br>底径 3.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや軟 | 外面:暗褐色、黄灰色<br>内面:淡黄褐色、橙 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| −6 | 〃 | 大溝04<br>I11Gr | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.1<br>器高 1.5<br>底径 5.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや軟 | 淡橙灰色 | 内面見込に1条の稜を残す |
| −7 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.5<br>器高 1.9<br>底径 4.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 2〜3mmの<br>砂粒少量混入 | 軟 | 外面:暗茶色、淡橙色<br>内面:淡橙色 | |
| −8 | 〃 | 大溝04<br>I11Gr | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.1<br>器高 1.7<br>底径 5.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 密 | やや軟 | 淡灰橙色、橙色 | |
| −9 | 図版48 | 大溝04<br>I12Gr | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 4.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：風化、調整不明<br>底部：風化、調整不明 | 内面:風化、調整不明 | やや軟 | にぶい淡橙色 | |
| −10 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土 | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 4.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：風化、調整不明<br>底部：回転糸切 | 黒色粒子混入 | やや軟 | 淡赤橙色、にぶい暗橙色 | |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 61−11 | 図版48 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土 | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 5.4 | 外面：回転ナデ<br>内面：風化、調整不明<br>底部：回転糸切 | 密 | 軟 | 淡橙色 | |
| −12 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土 | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 5.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 橙色、にぶい<br>黄橙色 | 内面見込に渦巻<br>状の粗い回転ナ<br>デ |
| −13 | 〃 | 大溝04 | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 7.0<br>器高 4.5<br>底径 5.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込に渦巻<br>状の粗い回転ナ<br>デ |
| −14 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土 | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 4.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 黒色粒子混入 | やや軟 | にぶい淡橙色 | 内面見込に渦巻<br>状の粗い回転ナ<br>デ |
| −15 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>明青灰色粘土 | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 4.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ?<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 淡灰橙色 | 内面見込に渦巻<br>状の粗い回転ナ<br>デ |
| −16 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土 | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 5.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 黒色粒子混入 | やや軟 | にぶい淡橙色<br>、橙色 | 内面見込に渦巻<br>状の粗い回転ナ<br>デ |
| −17 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土 | 土師質土器<br>柱状高台 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 6.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | にぶい淡橙色 | 内面見込に渦巻<br>状の粗い回転ナ<br>デ |
| −18 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土 | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.5<br>器高 4.2<br>底径 6.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm程度の<br>砂粒混入 | やや軟 | 橙色 | 内面見込に渦巻<br>状の粗い回転ナ<br>デ |
| −19 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土 | 青白磁<br>輪花小皿 | 口径 8.7<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>底部：露胎、回転ナデ | 密 | 良 | 淡青白色 | 口縁端部に切り<br>込み |
| −20 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr | 青白磁<br>小皿 | 口径 10.8<br>器高 2.0<br>底径 8.1 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>底部：露胎、回転ナデ | 黒色粒子混入 | 良 | 淡青白色 | 内面に陽刻花<br>文、口縁部口禿 |
| 62−1 | 図版49 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土 | 白磁<br>小皿 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 5.8 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>底部：露胎 | 黒色粒子混入 | 良 | 灰白色 | |
| −2 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土 | 白磁<br>小皿 | 口径 10.0<br>器高 1.8<br>底径 6.4 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>底部：露胎 | 黒色粒子混入 | 良 | 灰白色 | 口縁部口禿 |
| −3 | 〃 | 大溝04 | 白磁<br>四耳壺 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 黒色粒子混入 | 良 | 外面:淡黄緑色<br>内面:淡灰緑色 | 肩部に把手 |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 62−4 | 図版49 | 大溝04<br>H13Gr<br>灰褐色粘土 | 青磁<br>小碗 | 口径 7.6<br>器高 3.6<br>底径 4.1 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>高台畳付：露胎、回転ヘラ | 密 | 良 | 施釉：乳緑色<br>露胎：黄灰色 | |
| −5 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr | 青磁<br>碗 | 口径 15.0<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 黒色粒子混入 | 良 | 外面:乳緑色<br>内面:やや暗い乳緑色 | 外面に鎬蓮弁文 |
| −6 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土 | 中国陶器<br>水注 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉、ナデ<br>内面：施釉、ナデ | 白色粒子混入 | 良 | 外面:褐色、黄緑灰色<br>内面:暗赤褐色 | |
| −7 | 〃 | 大溝04<br>I11Gr<br>黒褐色粘土 | 常滑系陶器<br>甕 | 口径 49.7<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 1〜2mmの砂粒混入 | 良 | 暗茶色 | |
| −8 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土 | 常滑系陶器<br>甕 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 16.6 | 外面：ナデ?、ヘラ削り<br>内面：ナデ | 1〜3mmの砂粒混入 | 良 | 外面:暗赤褐色<br>内面:暗褐色 | 内面に自然釉多量に付着 |
| −9 | 〃 | 大溝04<br>I11Gr | 備前<br>擂鉢 | 口径 23.6<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 外面:暗褐色<br>内面:褐色 | 内面に擂目 |
| −11 | 図版50 | 大溝04 | 国産陶器 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 1〜2mmの砂粒混入 | 良 | 外面:暗褐色<br>内面:青灰色 | 口縁端部に稜線 |
| −12 | 〃 | 大溝04 | 瓦質土器<br>甕 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：タタキ<br>内面：ヘラ削り | 密 | やや軟 | 外面:暗褐色<br>内面:黒褐色 | |
| −13 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>灰褐色粘土 | 瓦質土器<br>甕 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 10.3 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ<br>底部：静止糸切？ | 密 | 良 | 暗褐色、灰褐色 | 内面に擂目 |
| −14 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土 | 漆器<br>椀 | 口径 14.0<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：漆塗<br>内面：漆塗 | | | 黒褐色 | 外面に文様を施す |
| 63−1 | 図版51 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土 | 在地土器<br>土鍋 | 口径 40.3<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：ナデ、指頭圧痕<br>内面：ナデ、ハケ目 | 1〜2mm程度の砂粒混入 | やや軟 | 外面:暗黄褐色<br>内面:淡黄褐色 | |
| −2 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土 | 在地土器<br>擂鉢 | 口径 20.3<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：ナデ、ハケ目<br>内面：ナデ | 密 | 軟 | 淡橙色 | |
| −3 | 〃 | 大溝04<br>I11Gr<br>黒褐色粘土 | | 口径 31.0<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 1〜2mm程度の砂粒混入 | 良 | 灰色 | 口縁端部に自然釉 |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 63—8 | 図版51 | 大溝04<br>I11Gr | 鉄鍋 | 口径 47.2<br>器高 不明<br>底径 不明 | | | | | 内面にカルシウム分付着 |
| 68—2 | 図版52 | SK08<br>D5、D6Gr | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.9<br>器高 2.3<br>底径 4.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 密 | やや軟 | 外面:淡黄灰色<br>内面:淡橙色 | 灯明皿 |
| —3 | 〃 | SK08<br>D5、D6Gr | 土師質土器<br>坏 | 口径 11.4<br>器高 3.0<br>底径 5.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：風化、調整不明 | 密 | やや軟 | 外面:黄灰色<br>内面:淡黄灰色 | |
| —4 | 〃 | SK32<br>C6Gr | 土師質土器<br>小皿 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 3.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | 軟 | 淡橙色 | 灯明皿 |
| —5 | 〃 | SK32<br>C6Gr | 土師質土器<br>小皿 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 3.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | 軟 | 外面:淡橙色、にぶい黄褐色<br>内面:黄灰色、橙色 | 灯明皿 |
| —6 | 〃 | SK32<br>C6Gr | 土師質土器<br>坏 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 5.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の砂粒少量混入 | 軟 | 外面:黄灰色<br>内面:にぶい黄灰色 | |
| —7 | 〃 | SK32<br>C6Gr | 土師質土器<br>坏 | 口径 14.1<br>器高 6.6<br>底径 3.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | 軟 | 外面:暗淡橙色<br>内面:淡橙色 | |
| —8 | 〃 | SK32<br>C6Gr | 土師質土器<br>坏 | 口径 12.5<br>器高 3.4<br>底径 5.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | 軟 | 淡橙色 | |
| —9 | 〃 | SK32<br>C6Gr | 土師質土器<br>坏 | 口径 18.4<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | やや軟 | 外面:淡赤橙色<br>内面:橙色 | |
| —11 | 〃 | SK33<br>D6Gr | 土師質土器<br>小皿 | 口径 8.8<br>器高 1.7<br>底径 6.4 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：風化、調整不明 | 1mm未満の砂粒混入 | 軟 | 外面:橙色、暗淡橙色／内面:黄灰色、橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| 69—1 | 図版53 | SK27<br>C5Gr | 土師質土器<br>坏 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 5.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：風化、調整不明 | 密 | 軟 | 淡橙色 | |
| —2 | 〃 | SK27<br>C5Gr | 土師質土器<br>坏 | 口径 12.5<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | やや軟 | 外面:淡橙色<br>内面:淡赤橙色 | |
| —3 | 〃 | SK31<br>C6Gr | 土師質土器<br>坏 | 口径 17.2<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | やや軟 | 外面:暗灰黄橙色<br>内面:灰黄橙色 | |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 69—4 | 図版53 | SK31<br>C6Gr | 土師質土器<br>坏 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 6.4 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 密 | やや軟 | 外面:にぶい黄橙色<br>内面:黄灰色 | |
| —5 | 〃 | SK31<br>C6Gr | 土師質土器<br>坏 | 口径 10.9<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | やや軟 | 外面:にぶい淡橙色<br>内面:淡橙色 | |
| 72—1 | 図版54 | 池状遺構<br>D10Gr | 土師質土器<br>坏 | 口径 不明<br>器高 6.3<br>底径 不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや軟 | 外面:淡橙色<br>内面:橙色 | |
| —2 | 〃 | 池状遺構<br>D10Gr | 中世陶器<br>茶入れ | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 5.0 | 外面：施釉、露胎<br>内面：露胎 | 密 | 良 | 外面:淡赤褐色<br>内面:淡茶色 | 底面に墨書を施す |
| —6 | 〃 | 池状遺構<br>D11Gr | 白磁<br>四耳壺 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 黄灰色 | |
| —7 | 〃 | 池状遺構<br>D11Gr | 在地土器<br>火鉢 | 口径 20.9<br>器高 不明<br>底径 17.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：ナデ | 1mm未満の砂粒少量混入 | やや軟 | 外面:にぶい黄褐色<br>内面:淡黄灰色 | |
| —8 | 図版55 | 池状遺構<br>E11Gr | 在地土器<br>花瓶 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 6.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：ナデ<br>底部：風化、調整不明 | 密 | 軟 | 淡橙色 | |
| —9 | 〃 | 石敷遺構<br>C10Gr | 土師質土器<br>小皿 | 口径 8.0<br>器高 1.9<br>底径 5.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の砂粒少量混入 | 軟 | 外面:黒褐色<br>内面:にぶい暗黄褐色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明皿 |
| —10 | 〃 | 石敷遺構<br>D10Gr | 在地土器<br>火鉢 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 12.6 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ<br>底部：ナデ | 密 | 軟 | 外面:淡橙色<br>内面:淡灰橙色 | |
| —11 | 〃 | 石敷遺構<br>C10Gr | 青磁<br>碗 | 口径 13.2<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 乳緑色 | 外面に雷文 |
| —12 | 〃 | 石敷遺構<br>C10Gr | 備前<br>擂鉢 | 口径 31.6<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 外面:暗赤褐色、暗褐色<br>内面:青灰色 | 内面に擂目 |
| 76—1 | 図版57 | SK02<br>E12Gr<br>黒褐色粘土 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 8.0<br>器高 2.2<br>底径 4.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 密 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |
| —2 | 〃 | SK02<br>E12Gr<br>黒褐色粘土 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.4<br>器高 2.0<br>底径 4.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 80—1 | 図版58 | SK01<br>D3Gr | 近世陶器 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 6.2 | 外面：施釉、露胎、回転ヘラ<br>内面：施釉<br>底部：露胎、回転ヘラ | 密 | 良 | 外面:施釉、黄灰色、露胎、にぶい黄褐色 | 胎土目積、高台削り出し、高台見込に墨書を施す |
| —2 | 〃 | SK01<br>褐色土 | 近世陶器 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 5.4 | 外面：施釉、露胎、回転ヘラ<br>内面：施釉<br>底部：露胎、回転ヘラ | 密 | 良 | 施釉:にぶい黄色<br>露胎:明黄灰色 | 砂目積、高台削り出し、高台見込に墨書を施す |
| —3 | 〃 | SK01<br>D3Gr | 陶胎染付 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 5.5 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>高台畳付：露胎 | 密 | 良 | 灰緑色 | 内外面に貫入、外面に染付、高台の繰込が深い |
| —4 | 〃 | SK01 | 肥前系染付<br>皿 | 口径 13.4<br>器高 3.3<br>底径 5.6 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>高台畳付：露胎 | 密 | 良 | 灰白色 | 内面見込に蛇ノ目釉ハギ、内面に染付、五弁花文 |
| —5 | 〃 | SK01 | 肥前系染付<br>碗 | 口径 10.6<br>器高 6.4<br>底径 4.1 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>高台畳付：露胎 | 密 | 良 | 灰白色 | 内外面に染付 |
| —6 | 〃 | SK01 | 肥前系染付<br>碗 | 口径 8.4<br>器高 5.4<br>底径 4.4 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>高台畳付：露胎 | 黒色粒子を少し含む | 良 | 灰白色 | 内外面に染付 |
| —7 | 図版59 | SK01<br>D3Gr | 肥前系染付<br>碗 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 6.1 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>高台畳付：露胎 | 黒色粒子を少し含む | 良 | 灰白色 | 内外面に染付、内面見込に寿文 |
| —8 | 〃 | SK01 | 肥前系染付<br>碗 | 口径 10.8<br>器高 6.4<br>底径 5.8 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>高台畳付：露胎 | 黒色粒子を少し含む | 良 | 灰白色 | 内外面に染付 |
| —9 | 〃 | SK01<br>D3Gr | 近世瓦質土器<br>焙烙 | 口径 24.8<br>器高 23.1<br>底径 2.7 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ<br>底部：チヂレ目 | 密 | 良 | 暗褐色 | 全面炭素吹付、地域農村型焙烙 |
| 85—1 | 図版60 | SX03 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.3<br>器高 2.2<br>底径 3.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：風化、調整不明 | 密 | やや軟 | 淡灰橙色 | 灯明皿 |
| —2 | 〃 | SX03 | 備前<br>擂鉢 | 口径 25.8<br>器高 9.8<br>底径 16.2 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 1mm未満の砂粒少量混入 | 良 | 外面:暗赤褐色、赤褐色／内面:暗赤褐色、青灰色 | 内面に擂目 |
| 86—1 | 〃 | G6Gr | 土師器<br>甕 | 口径 33.4<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：ナデ、ハケ目<br>内面：ナデ、ヘラ削り | 1～2mmの砂粒多量に混入 | 軟 | 外面:淡黄橙色<br>内面:淡黄褐色 | 外面にススト付着 |
| —2 | 〃 | H13Gr | 須恵器<br>坏身 | 口径 14.6<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良 | 淡灰色 | 外面に自然釉付着 |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 86—3 | 図版60 | H8Gr | 須恵器<br>皿 | 口径 13.6<br>器高 2.4<br>底径 9.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | 良 | 青灰色 | |
| —4 | 〃 | G6Gr | 須恵器<br>蓋 | 口径 12.8<br>器高 2.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>天井部：回転糸切?、ナデ | 密 | 良 | 青灰色 | 輪状摘み |
| —5 | 〃 | F11Gr | 須恵器<br>蓋 | 口径 19.5<br>器高 1.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 1mm程度の<br>砂粒少量混入 | 良 | 外面:青灰色、<br>暗青灰色<br>内面:暗青灰色 | 平坦な宝珠状<br>摘み、外面に<br>自然釉 |
| —6 | 〃 | E8Gr<br>明褐色粘土 | 須恵器<br>高台付坏 | 口径 17.9<br>器高 3.4<br>底径 12.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | 良 | 外面:暗青灰色、<br>暗赤褐色/内面:<br>暗灰色、暗赤褐色 | 付け高台 |
| —7 | 〃 | G8Gr | 須恵器<br>瓶 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良 | 外面:暗緑色<br>内面:青灰色 | 外面に自然<br>釉付着 |
| —8 | 〃 | H12Gr<br>暗褐色粘土 | 須恵器<br>瓶 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 1mm程度の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | 青灰色 | |
| —9 | 〃 | F6Gr<br>褐色土 | 須恵器<br>高台付坏 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 7.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ | 密 | 軟 | 外面:暗赤褐色<br>内面:暗褐色 | 高台見込に<br>「法物」の<br>ヘラ描き |
| —10 | 〃 | F11Gr | 須恵器<br>瓶 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 8.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、ナデ | 1mm未満の<br>砂粒混入 | 良 | 青灰色、黒褐色 | |
| —11 | 〃 | C8Gr | 須恵器<br>灯明皿 | 口径 7.7<br>器高 2.0<br>底径 5.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | 良 | 外面:暗青灰色<br>内面:褐色 | |
| —12 | 〃 | C6Gr | 須恵器<br>灯明皿 | 口径 8.2<br>器高 2.9<br>底径 5.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm以下の<br>白色砂粒混入 | 良 | 外面:暗灰色<br>内面:青灰色 | 灯明皿 |
| —13 | 〃 | E11Gr<br>暗褐色粘土 | 須恵器 | 口径 3.5<br>器高 1.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良 | 外面:黄灰色<br>内面:青灰色 | 輪状摘みの<br>可能性あり |
| 87—1 | 図版61 | H13Gr | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.2<br>底径 3.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 外面:暗淡橙色<br>内面:淡橙色 | 内面見込に渦巻<br>状の粗い回転ナ<br>デ |
| —2 | 〃 | H13Gr | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.8<br>器高 2.2<br>底径 3.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ、ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | 外面:暗黄橙色、<br>暗褐色<br>内面:暗褐色 | 内面見込に渦巻<br>状の粗い回転ナ<br>デ |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 87—3 | 図版61 | H13Gr | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.8<br>器高 2.0<br>底径 4.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm以下の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | 外面:淡橙色<br>内面:淡橙色、<br>淡暗橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| —4 | 〃 | I13Gr | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.2<br>器高 1.7<br>底径 4.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒多量に混入 | 軟 | 外面:にぶい橙色、<br>褐色/内面:褐色、<br>暗黄橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| —5 | 〃 | H13Gr | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.9<br>器高 1.9<br>底径 3.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 淡黄橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| —6 | 〃 | D6Gr<br>暗褐色粘土 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 6.7<br>器高 1.6<br>底径 4.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切、板目 | 密 | 軟 | 淡橙色 | 内面見込に<br>竹管状スタンプを施す |
| —7 | 〃 | H13Gr | 土師質土器<br>小皿 | 口径 8.4<br>器高 1.6<br>底径 5.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒混入 | やや軟 | 橙色 | 内面見込に渦巻状の粗い回転ナデ、灯明皿 |
| —8 | 〃 | D10Gr<br>暗褐色粘土 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.3<br>器高 1.6<br>底径 3.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや軟 | にぶい黄橙色 | 灯明皿 |
| —9 | 〃 | H13Gr | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.4<br>器高 2.0<br>底径 4.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | 外面:黒褐色<br>内面:暗褐色 | 内面見込風化、<br>調整不明 |
| —10 | 〃 | D3Gr<br>明褐色土 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.2<br>器高 2.0<br>底径 5.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：静止糸切？ | 密 | やや軟 | にぶい黄褐色、<br>暗褐色 | 底部穿孔、<br>灯明皿 |
| —11 | 〃 | J12Gr<br>褐色土 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.2<br>器高 1.7<br>底径 4.4 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1～3mmの<br>砂粒混入 | 軟 | 明黄灰色 | 灯明皿 |
| —12 | 〃 | H14Gr | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.5<br>器高 1.5<br>底径 5.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | 淡橙色 | |
| —13 | 〃 | D10Gr<br>暗褐色粘土 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.4<br>器高 2.0<br>底径 4.4 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：風化、調整不明 | 密 | やや軟 | 淡橙色 | 灯明皿 |
| —14 | 図版62 | H13Gr<br>黒褐色粘土 | 土師質土器<br>椀 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 3.8 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ<br>底部：回転糸切、ナデ | 1mm未満の<br>砂粒多量に混入 | 軟 | 外面:淡灰褐色<br>内面:淡橙色 | |
| —15 | 〃 | H13Gr<br>黒褐色粘土 | 土師質土器<br>椀 | 口径 11.1<br>器高 3.7<br>底径 6.8 | 外面：ヘラ削り、ナデ<br>内面：磨き | 密 | やや軟 | 明黄灰色 | 灯明具 |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 87−16 | 図版62 | C8Gr | 土師質土器<br>坏 | 口径　17.2<br>器高　不明<br>底径　不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 1〜2mmの<br>砂粒混入 | やや軟 | 外面:橙色、<br>暗褐色<br>内面:淡橙色 | 灯明具 |
| −17 | 〃 | D11Gr | 土師質土器<br>坏 | 口径　17.1<br>器高　不明<br>底径　不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | やや軟 | 淡橙色 | |
| −18 | 〃 | H12Gr | 土師質土器<br>坏 | 口径　不明<br>器高　不明<br>底径　5.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底都：回転糸切 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込、<br>底部に爪による<br>刺突痕 |
| −19 | 〃 | H13Gr | 土師質土器<br>坏 | 口径　10.9<br>器高　4.2<br>底径　4.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ・ナデ<br>底都：回転糸切、板目 | 1mm未満の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | 外面:にぶい<br>黄橙色<br>内面:黒褐色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| −20 | 〃 | H12Gr | 土師質土器<br>坏 | 口径　11.8<br>器高　4.1<br>底径　5.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底都：回転糸切 | 1mm程度の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | 淡橙色 | 内面見込に<br>渦巻状の粗い<br>回転ナデ |
| −21 | 〃 | D10Gr<br>暗褐色粘土 | 青白磁 | 口径　不明<br>器高　不明<br>底径　不明 | 外面：施釉<br>内面：露胎、回転ナデ | 密 | 良 | 施釉:乳青白色<br>露胎:淡黄灰色 | 外面に数条の<br>沈線 |
| −22 | 〃 | E9Gr<br>褐色土 | 青白磁<br>合子 | 口径　6.6<br>器高　不明<br>底径　不明 | 外面：施釉<br>内面：露胎、回転ナデ | 密 | 良 | 外面:淡青白色<br>内面:淡黄白色 | 釉調ムラ多い |
| −23 | 〃 | D7Gr<br>褐色土 | 白磁<br>水注 | 口径　不明<br>器高　不明<br>底径　不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉、露胎 | 密 | 良 | 淡青白色 | |
| 88−1 | 図版63 | J11Gr<br>黒褐色粘土 | 白磁 | 口径　10.5<br>器高　不明<br>底径　不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 淡青白色 | 口禿 |
| −2 | 〃 | C8、D11Gr | 白磁<br>小皿 | 口径　10.9<br>器高　3.0<br>底径　3.7 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>底都：露胎、回転ヘラ | 密 | 良 | 施釉:乳黄色<br>露胎:明黄灰色 | 削り出し高台 |
| −3 | 〃 | D8Gr | 青磁<br>碗 | 口径　17.7<br>器高　不明<br>底径　不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 暗緑色 | 外面に<br>蓮弁文 |
| −4 | 〃 | J12Gr | 青磁<br>小碗 | 口径　不明<br>器高　不明<br>底径　3.4 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>高台畳付：露胎 | 密 | 良 | 乳緑色 | 漆接 |
| −5 | 〃 | C9Gr<br>暗褐色粘土 | 青磁 | 口径　22.7<br>器高　不明<br>底径　不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 乳緑色 | 漆接 |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 88−6 | 図版63 | G6Gr<br>黒褐色粘土 | 中国陶器<br>天目茶碗 | 口径　13.0<br>器高　不明<br>底径　不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 口縁部:暗茶色<br>体部:黒褐色 | |
| −7 | 〃 | G8Gr<br>暗褐色土 | 中国陶器<br>水注 | 口径　不明<br>器高　不明<br>底径　不明 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 暗茶褐色 | 外面:2条の沈線 |
| −8 | 〃 | H14Gr<br>褐色土 | 亀山模造<br>甕 | 口径　不明<br>器高　不明<br>底径　不明 | 外面：格子タタキ<br>内面：ハケ目 | 密 | 軟 | 外面:灰色<br>内面:灰白色 | ハケ目7本／cm |
| −9 | 〃 | I12Gr | 常滑系陶器<br>甕 | 口径　不明<br>器高　不明<br>底径　不明 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 褐色 | 粘土紐巻き上げ |
| −10 | 〃 | 表土 | 常滑系陶器<br>甕 | 口径　17.0<br>器高　不明<br>底径　不明 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 外面:暗褐色／<br>内面:暗緑色、<br>暗赤褐色、褐色 | 内外面に自然釉、越前の可能性もある |
| −11 | 〃 | D10Gr | 瀬戸 | 口径　不明<br>器高　不明<br>底径　不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 淡黄緑色 | |
| −12 | 〃 | H12Gr<br>暗褐色粘土 | 瀬戸<br>卸皿 | 口径　不明<br>器高　不明<br>底径　6.5 | 外面：施釉<br>内面：施釉、露胎<br>底都：回転糸切 | 密 | 良 | 淡黄緑色、<br>白黄色 | 内面見込に卸目 |
| −13 | 〃 | C5Gr<br>褐色粘土 | 瀬戸<br>花瓶 | 口径　不明<br>器高　不明<br>底径　不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉、露胎<br>回転ナデ | 密 | 良 | 淡黄緑色、<br>青灰色 | 釉調ややムラあり |
| −14 | 〃 | C8Gr<br>褐色土 | 瀬戸<br>天目茶碗 | 口径　11.8<br>器高　不明<br>底径　不明 | 外面：施釉、露胎、<br>回転ナデ<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 体部:施釉、<br>黒褐色／口縁部:<br>施釉、暗茶色 | |
| −15 | 〃 | H6Gr | 瀬戸<br>天目茶碗 | 口径　12.7<br>器高　不明<br>底径　不明 | 外面：施釉、露胎、<br>回転ヘラ<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 体部:施釉、<br>黒褐色／口縁部:<br>施釉、暗茶色 | |
| −16 | 〃 | F8Gr | 在地土器<br>土鍋 | 口径　不明<br>器高　不明<br>底径　19.2 | 外面：ハケ目、ナデ<br>内面：ハケ目 | 密 | やや軟 | 外面:黒褐色<br>内面:淡橙色 | |
| 89−1 | 図版64 | I12Gr<br>黒褐色粘土 | 在地土器<br>擂鉢 | 口径　22.1<br>器高　不明<br>底径　不明 | 外面：ハケ目、ナデ<br>内面：ハケ目、ナデ | 密 | やや軟 | 外面:淡橙色<br>内面:黄橙色 | 内面に擂目 |
| −2 | 〃 | D11Gr | 在地土器<br>火鉢 | 口径　23.5<br>器高　10.1<br>底径　14.0 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 1mm程度の<br>砂粒少量混入 | やや軟 | 外面:明黄灰色<br>内面:淡黄橙色 | |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 89—3 | 図版64 | C8Gr | 在地土器<br>火鉢 | 口径 41.2<br>器高 9.9<br>底径 34.9 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ<br>底部：板目 | 1mm以下の砂粒<br>少量混入 | やや軟 | 明黄灰色 | 外面に3条の粘土紐貼付。<br>四菱文スタンプ |
| —4 | 〃 | C8Gr | 在地土器<br>香炉 | 口径 23.4<br>器高 4.7<br>底径 20.4 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 1～2mmの砂粒<br>少量混入 | やや軟 | 暗褐色 | 外面に4条の沈線、スタンプ文 |
| —5 | 〃 | D10Gr<br>黒褐色粘土 | 備前<br>擂鉢 | 口径 30.0<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良 | 外面:暗赤褐色、暗褐色／内面:褐色、暗青灰色 | 内面に擂目 |
| —6 | 〃 | B8Gr | 備前<br>擂鉢 | 口径 29.8<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良 | 外面:暗茶色、黒褐色／内面:青灰色、暗褐色 | 内面に擂目 |
| —7 | 〃 | H14Gr | 備前<br>甕 | 口径 37.2<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：ナデ、ハケ目<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 外面:褐灰色、淡黄色／口縁部:褐色<br>内面:暗赤褐色 | |
| —8 | 〃 | I12、13Gr<br>黒褐色粘土ほか | 瓦質土器<br>擂鉢 | 口径 27.9<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | やや軟 | 外面:青灰色<br>内面:黄灰色、暗青灰色 | 内面に擂目 |
| —9 | 〃 | D5Gr | 李朝青磁<br>粉青沙器 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 4.1 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 2mm以下の<br>砂粒混入 | 良 | 暗青緑色 | 胎土目積 |
| —10 | 〃 | C7Gr | 徳利 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 外面:黄灰色、褐色<br>内面:褐灰色 | 外面に2条の沈線 |
| 91—1 | 図版66 | C7Gr | 近世<br>灯明皿 | 口径 不明<br>器高 5.6<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>底部：露胎、回転糸切 | 密 | 良 | 施釉：暗赤褐色<br>露胎：赤褐色 | 外面にタール付着 |
| —2 | 〃 | D3Gr<br>明褐色土、褐色土 | 絵唐津<br>碗 | 口径 11.5<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 淡青緑色 | 外面に文様または文字 |
| —3 | 〃 | D3Gr<br>褐色土 | 近世陶器 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 7.5 | 外面：施釉<br>内面：施釉<br>底部：露胎 | 密 | 良 | 外面:白色<br>内面:黄灰色<br>底部:淡橙色 | 底部に墨書 |
| —4 | 〃 | D3Gr<br>褐色土 | 近世在地土器<br>焙烙 | 口径 32.2<br>器高 7.7<br>底径 32.9 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ<br>底部：チヂレ目 | 密 | 良 | 口縁部:橙色<br>その他:暗橙色 | |
| 93—1 | 図版67 | 排土中 | 土師質土器<br>小皿 | 口径 7.0<br>器高 2.2<br>底径 5.4 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ<br>底部：回転糸切 | 密 | やや軟 | 外面:にぶい黄褐色<br>内面:暗黄褐色 | 内外面にタール多量に付着、灯明皿 |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 手法の特徴 | 胎　土 | 焼成 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 93—2 | 図版67 | 排土中 | 青磁皿 | 口径 12.2<br>器高 不明<br>底径 不明 | 外面：施釉<br>内面：施釉 | 密 | 良 | 暗緑色 | 稜花皿 |
| —4 | 〃 | 排土中 | 鉄鍋 | 口径 不明<br>器高 不明<br>底径 1.8 | | | | | 底部に臍状突起 |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 30−11 | 図版22 | 大溝02<br>G6Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 鉄製品<br>釘 | 縦長　9.8<br>横幅　0.4<br>厚さ　0.3 | 燭台の鉄芯の可能性もあり。 |
| 31−1 | 〃 | 大溝02<br>H6Gr | 木製品<br>曲物 | 縦長 23.3<br>残存幅 15.3<br>厚さ　0.9 | 板目。側板との接合用の孔2か所、中央に1か所の孔が穿たれる。一部炭化。 |
| 32−1 | 〃 | 大溝02<br>H6Gr<br>暗褐色粘土 | 古銭<br>開元通貨 | 直径　2.4<br>厚さ　0.1 | 孔径0.7×0.7。 |
| 36−11 | 図版26 | 大溝03<br>暗褐色粘土 | 瓦 | 残存長　8.5<br>残存幅　8.8<br>厚さ　2.0 | 外面:布目、内面:ナデ。 |
| −12 | 〃 | 大溝03<br>H8Gr<br>暗褐色粘土 | 鉄製品<br>釘 | 縦長 11.6<br>横幅　0.7<br>厚さ　0.6 | 外面にカルシウム質付着。 |
| −13 | 〃 | 大溝03<br>F8Gr<br>暗褐色粘土 | 笄 | 縦長 11.7<br>横幅　0.7<br>厚さ　0.2 | 一端に耳掻き。 |
| 37−1 | 〃 | 大溝03<br>G8Gr<br>暗褐色粘土 | 木製品 | 縦長 52.9<br>横幅　9.5<br>厚さ　2.8 | 鉄釘打ち込み。 |
| 38−1 | 〃 | 大溝03<br>F8Gr<br>暗褐色粘土 | 石製品<br>宝篋印塔 | 縦長　不明<br>横幅　不明<br>厚さ　不明 | |
| −2 | 〃 | 大溝03<br>E9Gr | 石製品<br>砥石 | 縦長　7.2<br>横幅　5.8<br>厚さ　2.5 | 2面を砥石として利用。 |
| 41−1 | 図版29 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 石製品<br>鍋 | 残存長　不明<br>残存幅　不明<br>厚さ　不明 | 内面に3条の傷残る。 |
| −2 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 土製品<br>錘 | 残存長　6.5<br>横幅　3.3 | 孔径1.4。 |
| −4 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 漆製品 | 残存長 18.0<br>残存幅　3.6<br>厚さ　0.4 | 両端が曲げられている。 |
| −5 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅰ層) | 木製品<br>曲物 | 残存長　7.1<br>残存幅　4.4<br>厚さ　0.5 | 側板接合部。底板との接合孔が1か所穿たれる。 |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 41−6 | 図版29 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(I層) | 木製品 | 縦長　6.4<br>残存幅　3.3<br>厚さ　0.4 | 円盤状。中央に孔が穿たれる。 |
| −7 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(I層) | 木製品<br>箸 | 残存長 16.9<br>横幅　0.5<br>厚さ　0.4 | |
| −8 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(I層) | 木製品<br>箸 | 残存長 13.3<br>横幅　0.7<br>厚さ　0.5 | |
| −9 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(I層) | 木製品<br>杓子 | 残存長　8.5<br>残存幅　8.8<br>厚さ　2.0 | 外面:布目、内面:ナデ。 |
| −10 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土(I層) | 鉄製品<br>海老錠 | 縦長 12.4<br>横幅　2.7<br>厚さ　1.7 | |
| 42−1 | 図版30 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(I層) | 古銭<br>熙寧元寳 | 直径　2.4<br>厚さ　0.1 | 孔径0.7×0.7。篆書体。初鋳1068年。 |
| −2 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(I層) | 古銭<br>熙寧元寳 | 直径　2.4<br>厚さ　0.1 | 孔径0.7×0.7。真書体。初鋳1068年。 |
| 43−6 | 〃 | 大溝04 H13Gr<br>明青灰色粘土<br>(I・II層の間) | 木製品<br>燃えさし | 縦長 10.6<br>横幅　1.6<br>厚さ　1.5 | 一端が炭化。 |
| 46−6 | 図版35 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(II層) | 鉄製品<br>火箸 | 縦長 25.9<br>横幅　0.6<br>厚さ　0.6 | 全体に捻れが入るが、中央を境として捻れの向きが逆になる。<br>外面にカルシウム質が付着。 |
| −7 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(II層) | 鉄製品<br>刀子 | 縦長 25.4<br>横幅　2.4<br>厚さ　0.4 | 表面に木質付着。柄部に孔を穿つ。 |
| −8 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土(II層) | 鉄製品<br>刀子 | 残存長 11.4<br>横幅　1.2<br>厚さ　0.5 | |
| −9 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土(II層) | 鉄製品<br>釘 | 縦長　4.5<br>横幅　0.9<br>厚さ　0.6 | |
| −10 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土(II層) | 鉄製品<br>釘 | 残存長　4.9<br>横幅　0.6<br>厚さ　0.5 | |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 46−11 | 図版35 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 鉄製品<br>釘 | 縦長 10.3<br>横幅 0.9<br>厚さ 0.6 | |
| −12 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 鉄製品<br>釘 | 残存長 9.4<br>横幅 0.6<br>厚さ 0.6 | |
| −13 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 鉄製品<br>釘 | 縦長 6.6<br>横幅 0.8<br>厚さ 0.4 | |
| 47−1 | 図版36 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 木製品<br>杓子 | 残存長 18.3<br>横幅 8.0<br>厚さ 0.6 | |
| −2 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 木製品 | 縦長 18.9<br>横幅 2.6<br>厚さ 0.5 | 文杖状。札状の板をスライス。それぞれ逆方向に弧を描くように加工。 |
| −3 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 木製品<br>折敷 | 残存長 17.2<br>残存幅 4.0<br>厚さ 0.3 | 楕円状折敷。底板。側板との接合孔が残る。 |
| −4 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 木製品 | 残存長 19.0<br>残存幅 4.6<br>厚さ 0.9 | 側板。両端にホゾ。片面に溝状の繰り込みを残す。 |
| −5 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 木製品<br>串 | 残存長 19.3<br>横幅 0.7<br>厚さ 0.4 | |
| −6 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 木製品<br>箸 | 縦長 18.4<br>横幅 0.5<br>厚さ 0.4 | |
| −7 | 〃 | 大溝04<br>I12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 木製品<br>箸 | 残存長 16.3<br>横幅 0.5<br>厚さ 0.5 | |
| −8 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 石製品<br>碁石 | 縦長 1.4<br>横幅 1.3<br>厚さ 0.5 | 黒石。 |
| 48−1 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 古銭<br>開元通寶 | 直径 2.2<br>厚さ 0.05 | 孔径0.7×0.7。 |
| −2 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 古銭<br>開元通寶 | 直径 2.3<br>厚さ 0.1 | 孔径0.65×0.7。裏面孕星? |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 48−3 | 図版36 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅱ層) | 古銭<br>嘉祐元寶 | 直径　2.3<br>厚さ　0.1 | 孔径0.6×0.65。篆書体。初鋳1056年。 |
| 49−13 | 図版37 | 大溝04 H13Gr<br>明青灰色粘土<br>(Ⅱ·Ⅲ層の間) | 鉄製品<br>釘 | 残存長　6.1<br>横幅　0.5<br>厚さ　0.5 | |
| 51−1 | 図版38 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅲ層) | 古銭<br>元豊通寶 | 直径　2.5<br>厚さ　0.1 | 孔径0.7×0.7。行書体。初鋳1078年。 |
| 53−2 | 図版41 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 鉄製品<br>釘 | 縦長　8.5<br>横幅　1.2<br>厚さ　0.8 | |
| −3 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 鉄製品<br>釘 | 縦長　6.2<br>横幅　0.6<br>厚さ　0.5 | |
| −4 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 鉄製品<br>刀?刀子? | 残存長　3.5<br>横幅　2.8<br>厚さ　0.3 | |
| −5 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 鉄製品<br>釘 | 縦長 12.3<br>残存幅　1.1<br>厚さ　0.4 | |
| −6 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 鉄製品 | 残存長 15.3<br>横幅　1.0<br>厚さ　0.2 | 片側に刃? |
| −7 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 鉄製品<br>刀子 | 縦長 16.4<br>横幅　1.8<br>厚さ　0.4 | 柄部に孔を穿つ。 |
| −8 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 鉄製品<br>飾具 | 縦長　1.8<br>横幅　1.9<br>厚さ　1.6 | 銅製部品を接合。頭部側面に孔を貫通させる。 |
| −9 | 図版80 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 骨製品<br>刺突具 | 縦長　6.7<br>横幅　0.8<br>厚さ　0.2 | |
| −10 | 図版41 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 石製品<br>硯 | 残存長　6.3<br>残存幅　5.0<br>厚さ　1.9 | 陸に凹みあり。 |
| −11 | 〃 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 木製品 | 縦長 15.9<br>横幅　1.6<br>厚さ　0.5 | ヘラ状。 |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 54−1 | 図版41 | 大溝04<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 古銭<br>開元通寶 | 直径　2.4<br>厚さ 0.15 | 孔径0.6×0.6。 |
| −2 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 古銭<br>元祐通寶 | 直径　2.2<br>厚さ　0.1 | 孔径0.55×0.55。行書体。初鋳1086年。 |
| −3 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 古銭<br>元祐通寶 | 直径　2.1<br>厚さ　0.1 | 孔径0.55×0.55。行書体。初鋳1086年。 |
| −4 | 〃 | 大溝04<br>黒褐色粘土(Ⅳ層) | 古銭<br>紹聖元寶 | 直径　2.4<br>厚さ 0.05 | 孔径0.65×0.65。行書体。初鋳1094年。 |
| 55−14 | 図版43 | 大溝04 H13Gr<br>褐灰色粘土<br>(Ⅳ・Ⅴ層の間) | 鉄製品<br>刀子 | 縦長 22.5<br>横幅　1.9<br>厚さ　0.5 | 柄部に孔を穿つ。 |
| −15 | 〃 | 大溝04 H13Gr<br>褐灰色粘土<br>(Ⅳ・Ⅴ層の間) | 鉄製品<br>釘 | 残存長　5.0<br>横幅　0.8<br>厚さ　0.9 | |
| −16 | 〃 | 大溝04 H12Gr<br>褐灰色粘土<br>(Ⅳ・Ⅴ層の間) | 石製品<br>砥石 | 縦長　9.3<br>横幅　1.9<br>厚さ　1.5 | 4面を砥面として利用。 |
| 56−1 | 〃 | 大溝04 I12Gr<br>褐灰色粘土<br>(Ⅳ・Ⅴ層の間) | 木製品<br>下駄 | 縦長 23.7<br>横幅 10.5<br>厚さ　4.6 | 板目。表面に足の痕跡が残る。右足用。 |
| −2 | 〃 | 大溝04 I12Gr<br>褐灰色粘土<br>(Ⅳ・Ⅴ層の間) | 木製品 | 残存長 24.2<br>横幅　4.2<br>厚さ　0.9 | |
| 57−13 | 図版44 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅴ層) | 石製品<br>砥石 | 縦長　8.6<br>横幅　6.1<br>厚さ　5.2 | 6面を砥面として利用。 |
| 58−1 | 図版45 | 大溝04<br>H13Gr<br>黒褐色粘土(Ⅴ層) | 古銭<br>元豊通寶 | 直径　2.1<br>厚さ　0.1 | 孔径0.6×0.6。篆書体。初鋳1078年。 |
| 61−3 | 図版47 | 大溝04<br>H12Gr<br>暗褐色粘土 | 瓦 | 残存長 12.3<br>横幅　7.4<br>厚さ　1.6 | 外面:布目、内面:タタキ。 |
| 62−10 | 図版50 | 大溝04<br>H12Gr<br>暗褐色粘土 | 土製品 | 残存長　2.1<br>残存幅　2.8<br>厚さ　0.7 | 土壁片? |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 63—4 | 図版51 | 大溝04<br>I11Gr | 鉄製品<br>釘 | 縦長 11.7<br>横幅 1.2<br>厚さ 0.9 | |
| —5 | 〃 | 大溝04<br>J12Gr<br>黒褐色粘土 | 鉄製品<br>釘 | 縦長 10.1<br>横幅 0.8<br>厚さ 0.4 | |
| —6 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr<br>暗褐色粘土 | 鉄製品<br>釘 | 残存長 19.3<br>残存幅 2.3<br>厚さ 0.5 | 柄部に孔を穿つ。 |
| —7 | 〃 | 大溝04<br>I11Gr | 鉄製品<br>火箸 | 縦長 22.4<br>横幅 0.5<br>厚さ 0.5 | 断面方形状。一端に捻れを施す。 |
| 64—1 | 〃 | 大溝04<br>H12Gr<br>暗褐色粘土 | 古銭<br>元豊通寶 | 直径 2.2<br>厚さ 0.1 | 孔径0.65×0.65。篆書体。初鋳1078年。 |
| 68—1 | 図版52 | SK22<br>C5Gr | 木製品 | 残存長 6.8<br>横幅 2.0<br>厚さ 0.5 | 穿孔あり。 |
| —10 | 〃 | SK30<br>C6Gr | 石製品<br>砥石 | 縦長 9.9<br>横幅 2.6<br>厚さ 1.7 | 4面を砥面として利用。 |
| 72—3 | 図版54 | 池底<br>D11Gr<br>暗褐色粘土 | 木製品<br>障子の骨木? | 残存長 5.0<br>横幅 1.5<br>厚さ 1.0 | 繰り込みを施す。 |
| —4 | 〃 | 池底<br>D10Gr | 木製品 | 縦長 9.1<br>横幅 3.4<br>厚さ 0.2 | 札状。 |
| —5 | 〃 | 池状遺構<br>D11Gr | 木製品<br>蓋 | 縦長 8.8<br>横幅 8.6<br>厚さ 2.9 | 八角形の板に十字に組み合わせて作った摘みを竹釘で固定。 |
| —13 | 図版55 | 石敷建物跡<br>D10Gr | 笄 | 縦長 18.3<br>横幅 1.3<br>厚さ 0.12 | 一端に耳掻きを施す。 |
| 73—1 | 図版56 | 石敷建物跡<br>D10Gr | 石製品<br>五輪塔水輪 | 残存長 44.8<br>残存幅 24.9<br>厚さ 8.9 | 内面に加工痕残る。 |
| 74—1 | 〃 | 石敷建物跡<br>D10Gr | 古銭<br>聖宋元寶 | 直径 2.3<br>厚さ 0.1 | 孔径0.65×0.65。行書体。初鋳1101年。 |

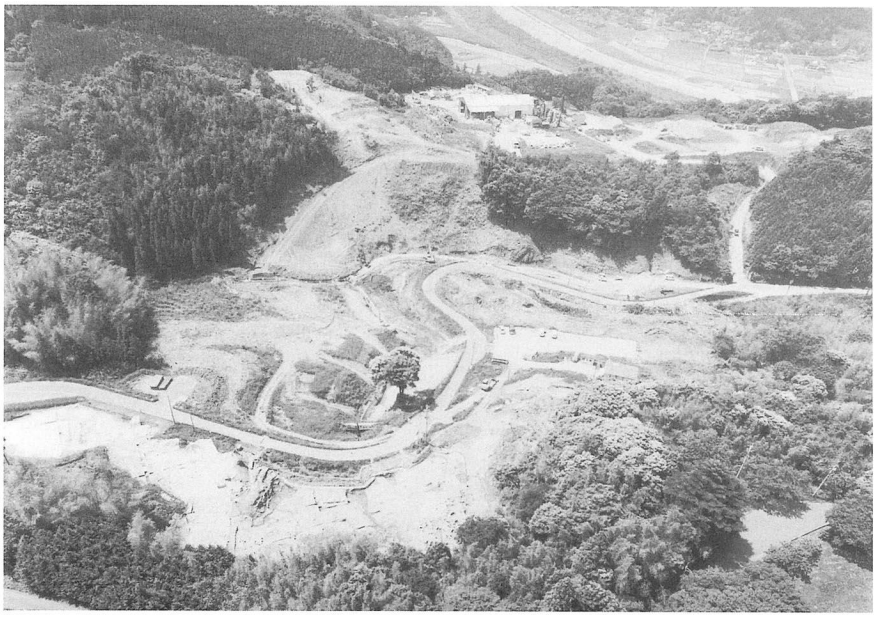
| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 74—2 | 図版56 | 石敷建物跡<br>E9Gr | 古銭<br>咸平元寶 | 直径　2.4<br>厚さ　0.1 | 孔径0.6×0.6。初鋳998年。 |
| 76—3 | 図版57 | SK02<br>F12Gr | 木製品<br>箸 | 縦長 17.9<br>横幅　0.5<br>厚さ　0.3 | |
| —4 | 〃 | SK02<br>F12Gr | 木製品<br>箸 | 縦長 18.4<br>横幅　0.5<br>厚さ　0.4 | |
| —5 | 〃 | SK02<br>F12Gr | 木製品<br>箸 | 縦長 23.6<br>横幅　0.6<br>厚さ　0.5 | |
| —6 | 〃 | SK02<br>F12Gr | 木製品<br>箸 | 縦長 24.0<br>横幅　0.7<br>厚さ　0.4 | |
| —7 | 〃 | SK02<br>F12Gr | 木製品<br>箸 | 縦長 22.2<br>横幅　0.6<br>厚さ　0.3 | |
| —8 | 〃 | SK02<br>F12Gr | 木製品<br>箸 | 縦長 22.1<br>横幅　0.6<br>厚さ　0.5 | |
| 84—1 | 図版59 | SX03 | 石製品 | 残存長 33.8<br>残存幅 15.0<br>残存厚 20.8 | 凝灰岩。外面に梵字を施す。内面に加工痕残る。 |
| 86—14 | 図版60 | C5Gr | 瓦 | 残存長 15.7<br>残存幅 12.2<br>厚さ　2.2 | 外面:布目。内面:格子タタキ。 |
| 89—11 | 図版65 | H13Gr<br>褐色土 | 石製品<br>砥石 | 残存長　5.0<br>残存幅　3.2<br>厚さ　0.6 | 1面を砥石に利用。 |
| —12 | 〃 | D8Gr<br>暗褐色土 | 石製品 | 縦長　7.6<br>横幅　6.6<br>厚さ　5.3 | 全面風化。 |
| —13 | 〃 | D9Gr | 石製品<br>硯 | 縦長 13.9<br>横幅　9.9<br>厚さ　2.6 | 裏面に工具痕。表面に墨付着。赤間硯。 |
| 90—1 | 〃 | B7Gr | 羽口 | 残存長 10.5<br>残存幅　6.9<br>厚さ　7.0 | |

| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 90—2 | 図版65 | D10Gr | 鉄製品 | 縦長 8.8<br>横幅 3.6<br>厚さ 1.5 | |
| —3 | 〃 | H13Gr | 鉄製品<br>鏃 | 縦長 6.2<br>横幅 0.8<br>厚さ 0.8 | |
| —4 | 〃 | C6Gr<br>暗褐色粘土 | 鉄製品<br>釘 | 縦長 6.5<br>横幅 1.3<br>厚さ 0.5 | |
| —5 | 〃 | D9Gr | 鉄製品 | 残存長 9.0<br>横幅 0.6<br>厚さ 0.2 | |
| —6 | 〃 | H13Gr | 鉄製品<br>釘 | 縦長 10.3<br>横幅 0.9<br>厚さ 0.7 | |
| —7 | 〃 | D10Gr | 鉄製品<br>釘 | 縦長 9.8<br>横幅 1.2<br>厚さ 0.6 | |
| —8 | 〃 | B5Gr<br>褐色土 | 鉄滓 | 縦長 10.1<br>横幅 9.5<br>厚さ 2.4 | |
| —9 | 〃 | E8Gr<br>暗褐色粘土 | 銅製品 | 縦長 5.2<br>横幅 1.5<br>厚さ 1.2 | 左右対称。一端に孔を穿つ。反対側は大きく内側に湾曲する。 |
| —10 | 〃 | G13Gr<br>暗褐色粘土 | 銅製品 | 残存長 3.2<br>残存幅 1.8<br>厚さ 0.05 | |
| —11 | 〃 | C10Gr<br>暗褐色粘土 | 木製品 | 縦長 6.6<br>横幅 5.2<br>厚さ 1.5 | 円盤状。側面2か所。表面1か所に孔を穿つ。 |
| —12 | 〃 | H12Gr<br>暗褐色粘土 | 木製品<br>障子の骨木? | 残存長 7.7<br>横幅 1.7<br>厚さ 0.8 | 側面片側3か所以上に繰り込みを施す。 |
| 91—5 | 図版66 | F7Gr<br>褐色土 | 窯道具 | 残存長 5.2<br>残存幅 2.9<br>厚さ 2.9 | 外面に釉付着。 |
| 92—1 | 〃 | C8Gr<br>褐色土 | 古銭<br>開元通寶 | 直径 2.2<br>厚さ 0.1 | 孔径0.7×0.7。 |

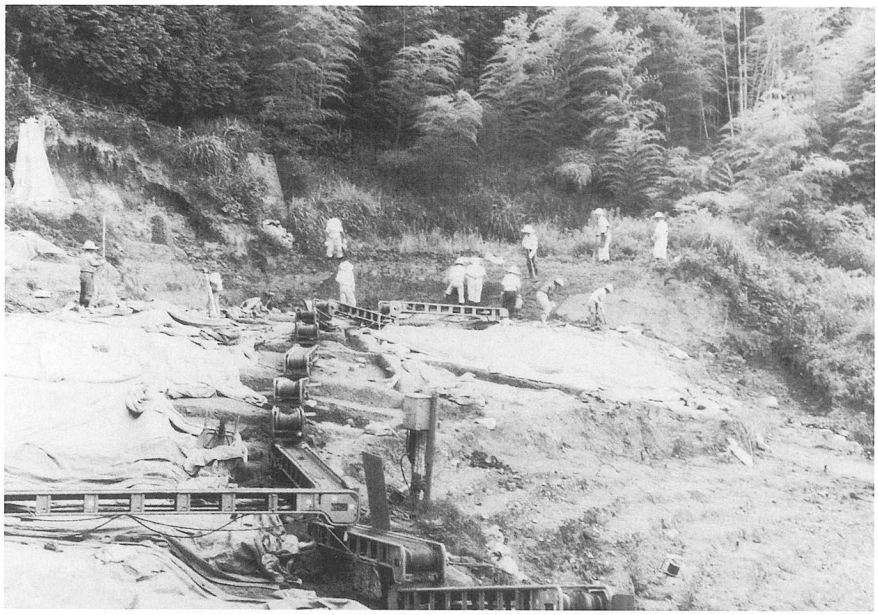
| 挿図番号 | 写真図版 | 出土地点 | 種別 | 法量(cm) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 92—2 | 図版66 | I11Gr<br>暗褐色粘土 | 古銭<br>開元通寶 | 直径　2.4<br>厚さ　0.1 | 孔径0.7×0.7。中央枠4辺に切れ目が残る。 |
| —3 | 〃 | E9Gr | 古銭<br>天聖元寶 | 直径　2.5<br>厚さ　0.1 | 孔径0.7×0.7。篆書体。初鋳1023年。 |
| —4 | 〃 | D10Gr | 古銭<br>崇寧重寶 | 直径　3.3<br>厚さ　0.1 | 当十銭。孔径0.8×0.8。初鋳1103年。 |
| —5 | 〃 | F11Gr<br>褐色土 | 古銭<br>元豊通寶 | 直径　2.4<br>厚さ　0.1 | 孔径0.7×0.7。篆書体。初鋳1078年。 |
| —6 | 〃 | J11Gr<br>黒褐色粘土 | 古銭<br>祥符通寶 | 直径　2.5<br>厚さ　0.1 | 孔径0.65×0.65。篆書体。初鋳1009年。 |
| 93—3 | 図版67 | 排土中 | 竹製品<br>飾板 | 残存長　5.2<br>横幅　1.8<br>厚さ　0.6 | 四菱文を施す。 |
| —5 | 〃 | | 石製品 | 残存長　9.7<br>残存幅　7.4<br>残存厚　4.1 | 片側がL字に屈曲。 |
| —6 | 〃 | 排土中 | 石製品<br>硯 | 残存長　3.3<br>残存幅　3.4<br>残存厚　0.6 | 陸部。 |
| —7 | 〃 | 排土中 | 石製品<br>砥石 | 縦長　6.6<br>横幅　4.5<br>厚さ　1.3 | 2面を砥石として利用。 |

# 大井谷Ⅱ遺跡（A区）

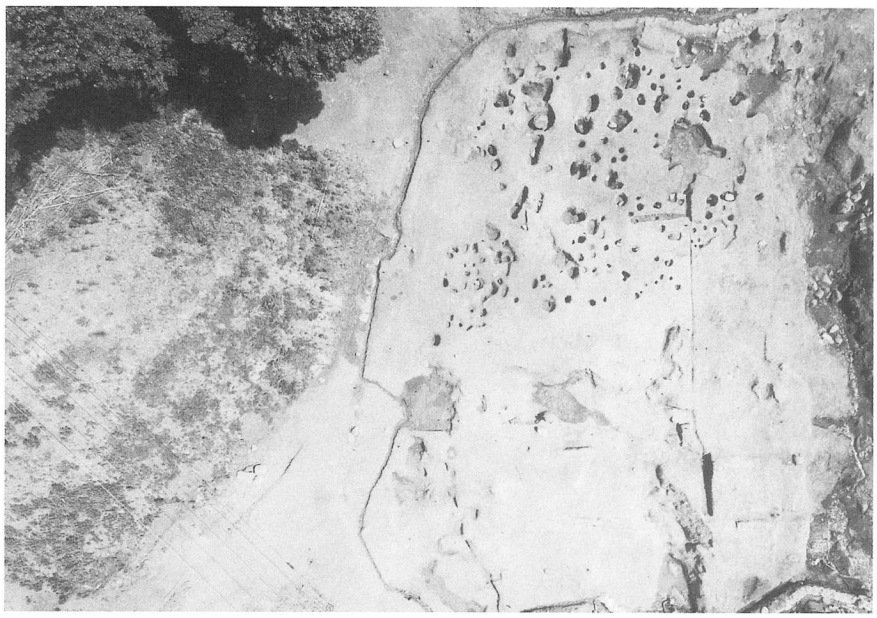
# 図　　版



調査地周辺



作業風景

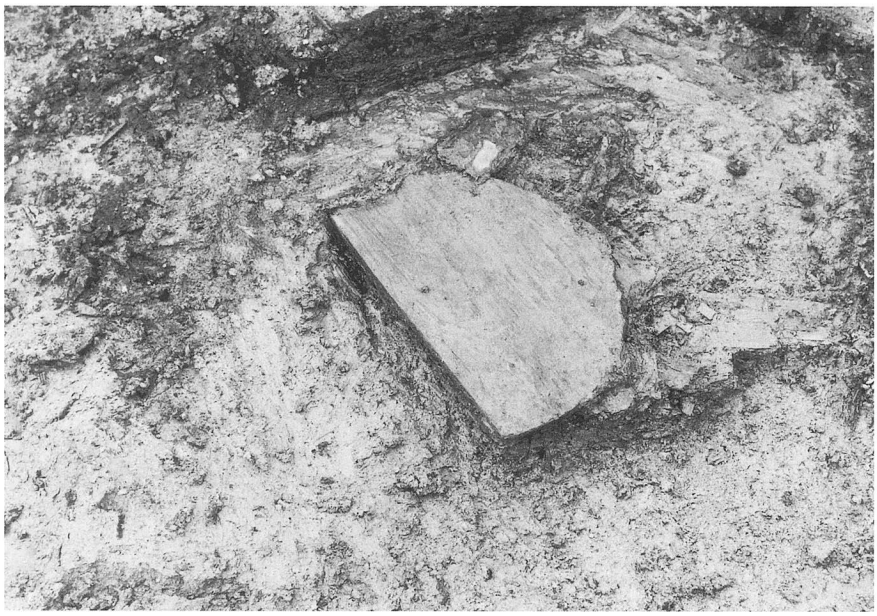


調査区西側

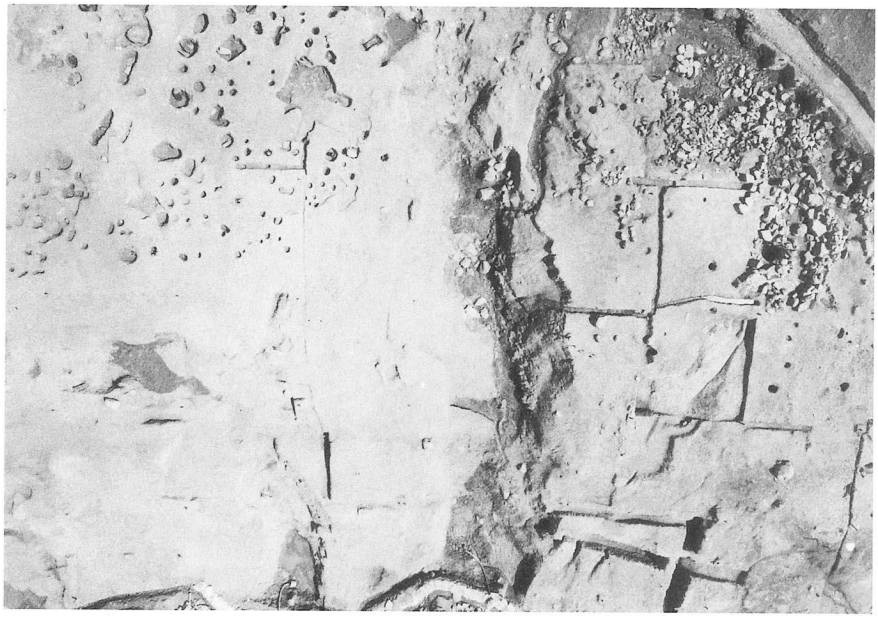
図版8

大溝01土層堆積状況

大溝02土層堆積状況



大溝02遺物出土状況
（曲物底板）



調査区中央部

大溝03（南から）

大溝03土層堆積状況

図版10

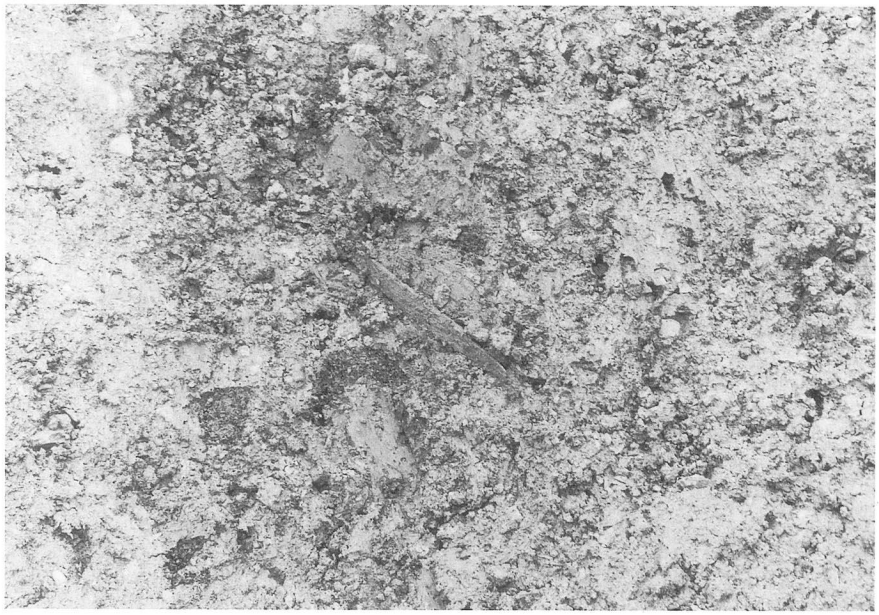
大溝03遺物出土状況
（土師器）

大溝03遺物出土状況
（木製品）

調査区東側

大溝04土層堆積状況

大溝04遺物出土状況
（海老錠）



大溝04遺物出土状況
（刀子）

図版12

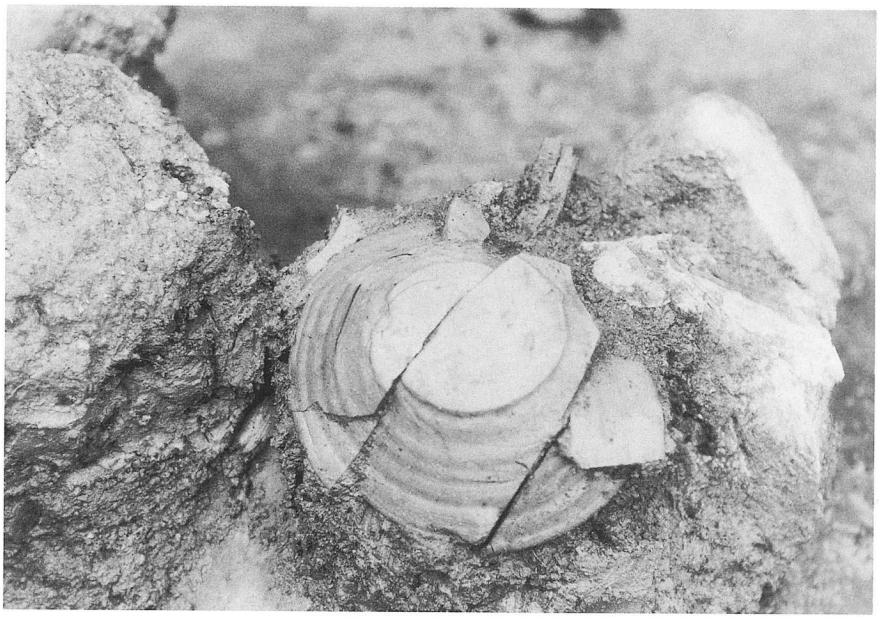
SB01

池状遺構（遠景）

池状遺構

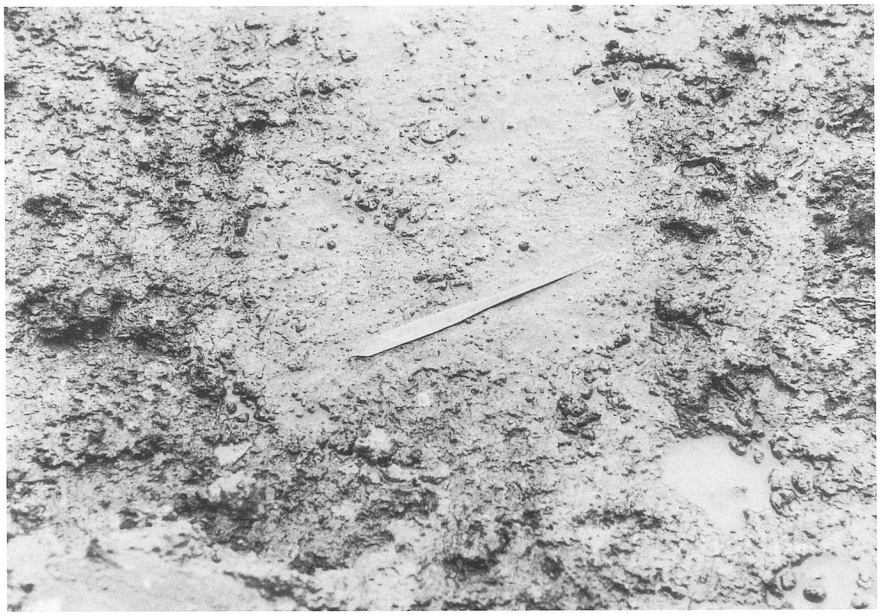
池状遺構（近景）

石畳状遺構



池状遺構遺物出土状況
（土師質土器）

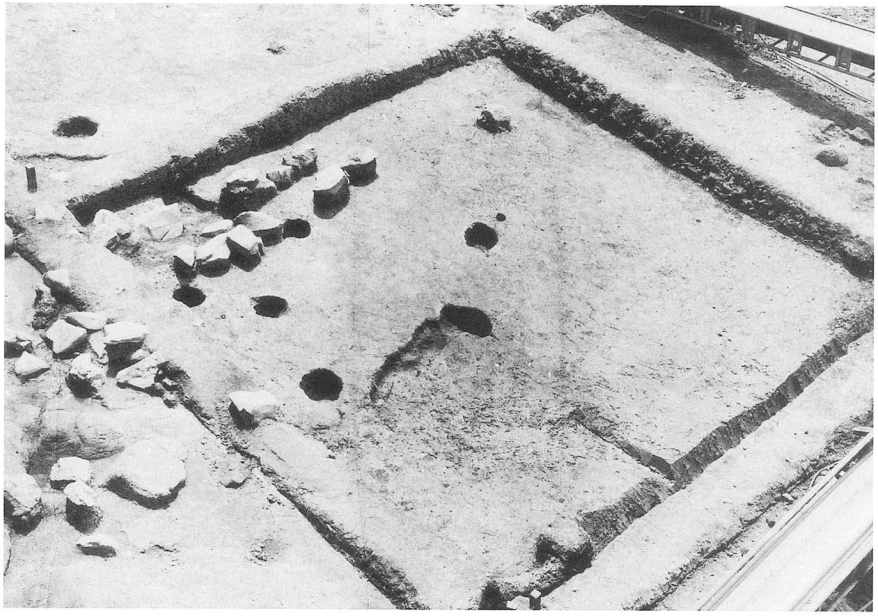
図版14



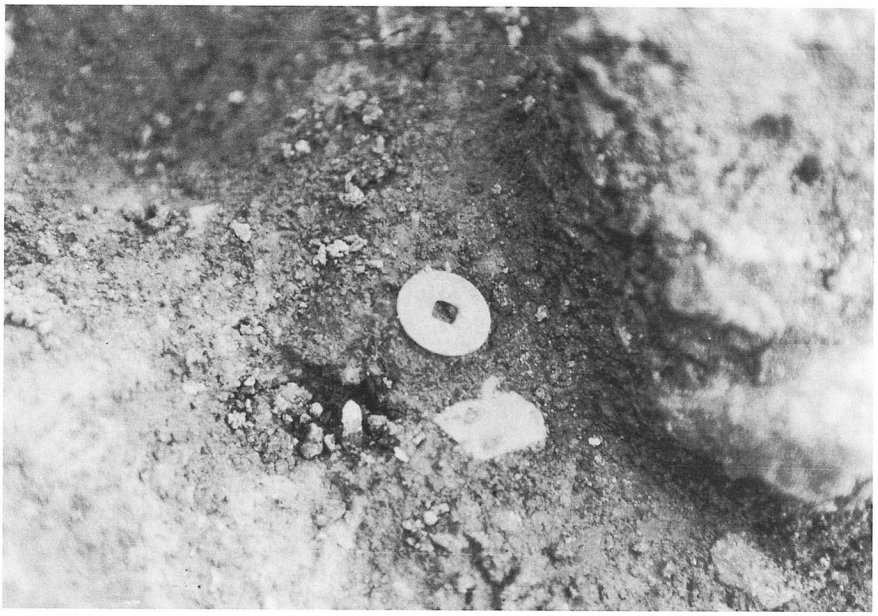
池状遺構遺物出土状況
（笄）

池状遺構遺物出土状況
（在地花瓶）

岩盤繰り抜き遺構



水路遺構



水路遺構出土古銭

中世墓調査前